

輦

～wadachi～

20周年記念誌



2012年
田園ラグビースクール

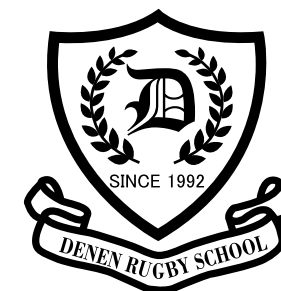




「photographed by Shinichi Matsuoka / www.atimages.jp」

「轍」に寄せる思い

田園ラグビースクールが歩んできた20年間は、
恵まれた専用グラウンドもなく、まさに草原の中でちびっ子たちが、
元気に楕円球を追いかけて作られた轍のようである。
時を経て、たくましく育った彼らは、それぞれの道で活躍している。
その軌跡を振り返り、次の世代に何かを感じていただければ幸いである。
サブタイトル「轍」にはそのような思いを込めた。



20th Anniversary

1. 田園ラグビースクール校長 ご挨拶	4
2. ラグビー協会各位ご祝辞	5
3. スクール顧問ご挨拶	11
4. 田園ラグビースクール20年のあゆみ	17
5. コーチOB寄稿	81
6. 現役スクール生とコーチ	89
7. 20周年資料編	110
8. あとがき	116



寄稿者の肩書は平成23年12月末日現在のものを記載しています

田園ラグビースクール 開校時を顧みて

田園ラグビースクール校長
財団法人 日本ラグビーフットボール協会評議員
関東ラグビーフットボール協会評議員／監事

赤間 敏雄



皆様のお陰で、田園ラグビースクールは開校20周年を迎える事ができました。

この20年間、田園ラグビースクールを育ててくださったコーチ・ご父母・生徒・チームドクター及びグラウンドをご提供頂いた國學院大学・遊水地や学校用地をグラウンドとしてお世話頂いた若松屋さん、並びに数々のご指導を頂いた神奈川県協会、各ラグビースクールの皆様に深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。

当スクールが20周年を迎えるにあたり、この機会に創立時の想いや思い出を回顧し、将来に向けての出発点としたと思います。

私がご縁の無いに等しいこの地（横浜市青葉区あざみ野）に、無経験の不動産業を開業し地域の方々に暖かく迎えられ、事業も順調に軌道に乗りました頃、何か地域の皆様に感謝の気持ちを表したいと強く思うようになりました。自らの半生を省みて自分で出来ることは、ラグビーを通じて「子供たちの育成にある、一人でも多くの子供達が元気で健康に育ってほしい」というところにあるとの思いに至りました。そこでこの沿線にお住まいの当時関東協会永田理事、「元ジャパン」の4氏、伊藤忠幸氏・水谷眞氏・伊藤隆氏・浜本剛志氏に声を掛け賛同を得て、田園ラグビースクールの準備が始まりました。この5名の方と知人や募集広告によるコーチの方々、社員7名、合計24名のコーチ陣が編成されました。

生徒は、コーチのご子息と地域の「ミニコミ紙」4社による生徒募集により参加した67名でスタートし、記念すべき開校式は平成4年4月12日に國學院大学あざみ野グラウンドで行われました。開校日当日にコーチやご父母・生徒に配布された4枚のペーパー（記録）が今でも大切に保存されています。その一部をご紹介しますと、

「田園ラグビースクール開校にあたって」

1.（開校の目的）

私たちは、ラグビーをした事によってラグビーという楽しい趣味と、数多くの素晴らしい仲間を持ち、ラグビーと言うスポーツに誇りを持って生活している。だからラグビーというスポーツに感謝している。感謝の気持ちを一つの表現として、子供たちにラグビーを通じて元気な子供たちを

育ててラグビー・スピリットを少しでも理解して次代を担う子供たちにしたい。このスクールは地域貢献の一環として開校に至った。

ラグビー・スピリットとは、1. チームワーク 2. ノーサイド 3. フェアプレーであり、体力の向上とともに精神教育をしたい。

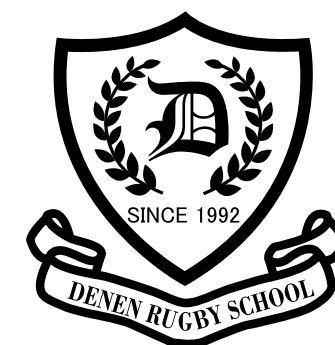
次に、田園ラグビースクールの教育方針、1. ボールになじませてラグビーに少しでも興味を持たせる。2. 挨拶が出来る子供に 3. 現実と協会の指導の調和を取りながら行う 4. 無理のない練習計画を立てる。などがあります。

開校時の開校の目的は、現在では以下のような「スクールの理念」として整備され、スクール内に浸透しています。
[1]ラグビーを通じて少しでも元気な子供になってほしい
[2]ラグビーを好きになってほしい
[3]ラグビーを通じてよい友達を作ってほしい
[4]ラグビー・スピリットを身につけてほしい
[5]その上で、できたら上手になってほしい
[6]その結果としてラグビーの将来を担う選手になってほしい

今、この20年を振り返ってみますと、夏合宿のいろんな思い出、試合に敗れ泣き崩れている子供と一緒に涙を流したこと、コーチの指導により生徒がめきめきと上達していく過程、卒業後コーチとして手伝ってくれた生徒等々、数多くの感動と思い出を作ってくれたこのスクールに感謝のほかありません。そして、開校の動機、目的など大切な原点を忘れることなく、未来に挑戦していきたいと思います。

20周年記念事業プロジェクトのプロジェクトマネジメントチーム、記念誌編纂チーム、記念式典チーム、記念試合チームの皆様には8ヶ月間の長期にわたり、本業や家庭サービスを犠牲にしながら、それぞれの専門知識を活かされて、素人集団とはとても思えない、素晴らしい企画・制作を仕上げていただきました。20周年の集大成としても一つの大きな感動となりました。

私のこのスクールの自慢は、すばらしいコーチ、すばらしいご父母、すばらしい生徒です。最後に関係者の皆様に感謝申し上げますと同時に、一層のご多幸を祈念申し上げ、私の挨拶と致します。



20th Anniversary

ラグビー協会各位ご祝辞

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 会長

森 喜朗 様

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 副会長

真下 昇 様

関東ラグビーフットボール協会 会長

志賀 英一 様

神奈川県ラグビーフットボール協会 会長

齋藤 幸雄 様

神奈川県ラグビーフットボール協会

普及育成委員会 委員長

三浦 幸宏 様

ご挨拶

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 会長

森 喜朗



田園ラグビースクールの創立20周年おめでとうございます。

まず初めに、創立にあたって尽力された関係者の皆さん、その後長い歴史の積み重ねを支えてこられた皆さん、そして現場で子供たちを指導し、支えるスタッフの皆さんによるたゆまぬラグビー界に対するご尽力に、深く敬意を表します。

そして選手達を送り出すご家族の皆さん、日々、小さなラグビー選手たちへの献身的なサポート、本当にありがとうございます。

日本ラグビー界は、2016年から男女7人制ラグビーの五輪正式種目採用、そして2019年のワールドカップ日本開催と、とてつもなく大きな希望と、重たい責務を担っています。その上で日本ラグビーフットボール協会は将来に向けて様々な計画に取り組んでおりますが、その中でもラグビーの普及拡大と同時に競技人口の増加についても、最重要ミッションとして大きく掲げております。そのミッション達成のためには、特にラグビースクール、そしてスクールの指導者が重要なカギを握る存在であり、我々ラグビー界が一丸となって、大切に育てていかなければなりません。未来の日本ラグビーを支えるのは、ラグビーに携わる全てのラグビーファミリーの想いと、田園ラグビースクールのように地域に根差し、子供たちにラグビーの楽しさと素晴らしさを伝えていただいている地道な普及活動です。ワールドカップ日本開催を成功させる上でも、関係者の皆さんにはこれから、よ

り一層重要な役割を果たしていただくことになります。これからも田園ラグビースクールの活躍はもちろんですが、ラグビー界を支える大きな礎として、それぞれのお立場でご尽力いただければ幸甚です。

我々日本ラグビー協会も、「RUGBY：FOR ALL」というスローガンのもとに、ラグビー発展への努力を怠ることなく、まい進してまいります。

現役のスクール生の皆さんは楕円球に親しみ、新しい友人を得ることはもちろんですが、自らを高め、仲間と勝ち取る勝利の喜びを目指して練習に励んでください。

そしてここまでの歴史を積み重ねてきた関係者は、この20年という区切りは、自らの歩みと努力を改めて顧み、未来に向けさらに上のステージを目指し決意を新たに、絶好の機会です。

日本ラグビー協会としまして、20周年を迎えられた皆さんにお慶びを申し上げますと同時に、田園ラグビースクールの一層の活躍、ステップアップを願ってお祝いの言葉といたします。

お祝い

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 副会長
ジャパンラグビートップリーグチェアマン

真下 昇



田園ラグビースクール創立20周年、おめでとうございます。

創立当初からの関係者の皆様にとりましては、今日のこの日を万感の思いでお迎えになられたことと思います。心よりお祝いを申し上げます。

日本のラグビー環境を考えますと、このクラブの創設にあたりどれほどのご苦勞があったかを推察することは容易でございます。グランドの確保、メンバーの獲得、コーチ陣への依頼などなど、無から起こし有を為すという困難な道のりであったと思います。いまや神奈川県下有数のクラブとして活動し、多くのラグビープレーヤーを排出し、その選手諸君が様々なチームで活躍されていることは日本ラグビーへの大きな貢献であります。

皆様もご存じの通り、2019年には日本で第9回ラグビーワールドカップが開催されることが決まっております。この大会を成功させるためには多くの方のご協力が必要です。試合会場を主体とした自治体、および周辺住民の皆様のお力なくしてはできません。各試合会場都市には、試合観戦のための外国人を含め多くのラグビーファンが集まります。その人たちに素晴らしい試合内容と、心温まる受け入れ態勢を作り、ラグビー国際親善を深められたらと思います。

この度のワールドカップ2011年ニュージーランド大会では、開幕から決勝まで48試合11都市12会場で行われました。それぞれの試合会場は満員の観客で埋まり、さすがにラグビー王国で

あると思いました。ニュージーランドはこの大会を国家的事業と位置付けており、国民の関心度は大変に高く、海外からの応援ツアーの人たちに対しても親切で暖かい対応をしていたのがとても印象的でした。これらの大会運営の担い手は、それぞれの地域のクラブの人々が中心となったボランティアの人たちでした。我が国に於いても、クラブの人たちや一般の人たちの支援を得て大会を成功させたいと考えます。そして2019年のワールドカップ開催をきっかけに、各家庭の団欒の場でラグビーの話題が毎日挙がるような日が来ることを願っております。

また、ラグビー競技は大変ハードな競技といえます。それ故に、その競技から得る多くのものがあります。特にOne for all, All for oneの精神で、互いに協力し合う互譲の精神ではないでしょうか。これこそが昨今の世の中に欠けていることで、ラグビー競技を通して学んでほしいことです。

今後とも、田園ラグビースクールから日本ラグビーの次世代を担う多くの選手たちが誕生することを切に願うとともに、全国のラグビースクールに規範を示していただければ幸いと存じます。全国各地でラグビースクールが栄えて、多くの若年層の人たちがこの精神をラグビーから学び、社会に貢献する人材が育成されることを願っています。

最後に関係者の皆様のこれまでの努力に敬意を表し、田園ラグビースクールの益々のご繁栄とご発展を心より祈念いたします。

田園ラグビースクール 創立20周年を迎えて

関東ラグビーフットボール協会 会長

志賀 英一



田園ラグビースクールの皆さん、創立20周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

創立から今日までの赤間校長はじめコーチの皆様方のご努力が報われたこと、重ねてお慶び申し上げます。

私と田園RSの出会いは、毎年7月菅平で開催される東日本ジュニアラグビー菅平ジャンボリーの開催に合わせて田園RSが合宿期間中、赤間校長のご依頼でスクールの皆さんを激励してからです。この時のみなさんの顔は嬉しさにあふれ、ラグビー仲間との合宿が本当に楽しく高原の初夏を思いっきり満喫しているように感じました。

ラグビースクールは全国で450チーム位ありますが、その中でもこれほど素晴らしいメンバーで設立されたスクールはないと思います、設立時メンバーを見ると、校長が赤間敏雄氏で、コーチとして浜本剛志氏(サントリー)、伊藤忠幸氏(リコー)、伊藤隆氏(リコー)、水谷眞氏(タイセーハウジー)、このような全日本級の優秀なメンバーを集められたことは、偏に校長である赤間氏の人柄にほれ込んで集まったと聞いております。生徒数も300人と神奈川県下ではトップクラス。卒業生も現在高校・大学で活躍していると聞き及んでおります。このような立派なコーチが中心となり、父兄コーチと組んで指導要領も、幼児クラスから中学まで各学年別の内容がきめ細かく決められております。特にラグビーを生涯のスポーツとして捉え、仲間との

絆を大切にというモットーが素晴らしいです。皆様が既に御承知事と存じますが、2019年のワールドカップが日本で開催されます、日本ラグビーフットボール協会は先般全国各県協会と一堂に会して、2019年迄の次の戦略計画(7項目)を発表し、徹底を図りました。

- ・競技人口の拡大
- ・競技人口20万人の達成
- ・観客数の拡大
- ・国内総観客動員数140万人の達成
- ・各市町村へ協会設立
- ・運営組織の協会
- ・日本代表の強化
- ・2019年ワールドカップ時においてベスト8入りを果たす
- ・7人制ラグビーの強化
- ・2016年リオジャネイロにおいてメダル獲得を目指す
- ・財務の拡大
- ・強固な財務体質の確保、総収入70億円の確保
- ・アジアへの貢献
- ・アジアへの貢献プログラムの再構築実施

日本ワールドカップ開催まで、あと8年を残すのみとなりました。現在、田園ラグビースクールに在籍している皆さんは全て、努力次第で日本代表になれる処にいます。7人制の日本代表も含めて、是非チャレンジしてくれることを期待しております。

田園ラグビースクールの今後ますますの躍進を祈念致しております。

地域と共に、 子供たちと共に

神奈川県ラグビーフットボール協会 会長

齋藤 幸雄



創立されて20年を迎えられた田園ラグビースクールに対して、心からお祝いを申し上げます。この間、赤間校長先生をはじめ、コーチ(指導員)の皆様の技術指導はもとより、物心両面にわたっての献身的なご指導・ご支援に対して心から敬意を表します。そして、それに応えた子供たちと、保護者の皆様の努力の結果が、伝統として受け継がれ、生徒数が250人を超える県下有数のラグビースクールとして引き継がれています。

昨年からスタートした、小学6年生のミニラグビーファイナルカップの初代チャンピオンは、田園ラグビースクールでした。大きなエールを送りたいと思います。また、毎年横浜スタジアムで開催されるラグビースクール運動会の対抗リレーでは、田園の子供たちも頑張りますが、お父さん・お母さんの走る姿は、まさに、現役選手を思わせる走力に脱帽してしまいます。

20周年を一つの区切りとして、「地域と共に、子供達と共にラグビーを楽しむ」を合い言葉に、2011年のスローガンである「感謝の気持ちを、トライにつなごう!」を実践して下さい。多に期待しております。

神奈川県協会傘下のラグビースクールは、現在16チームあり、生徒総数は2,000余人もあり、ラグビー競技人口減少の中で、スクールは毎年増加傾向にあります。嬉しい限りであり、頼もしくもあります。

県協会では、四年前から競技人口の増加、観

客の増加、ラグビーの人気回復をはかる為の施策に取り組んでおります。

今後も、Change and Challengeの精神で、優しさにトライをテーマに活動を行って参ります。

例えば、弱いものいじめは絶対しない、いじめめる人がいたら、やめろよと注意する。自分の元気なパワーを人のために、大人は献血や老人介護、子供は清掃活動等のボランティア活動にも積極的に取り組んで下さい。

日本のラグビー発祥の地である神奈川県協会は、ラグビーをやって楽しむ、見て楽しむ、「ラグビーファミリー」を増やす運動にも取り組んでいます。

とくに、これからの日本のラグビー競技の宝物である、ラグビースクールの充実と女子ラグビーやタグラグビーの普及にも力を入れて参りますので、今後ともご支援、ご協力をお願いします。

最後に田園ラグビースクールのさらなるご発展をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

良きライバルとして 次代を背負う生徒たちの育成を

神奈川県ラグビーフットボール協会 普及育成委員会 委員長
麻生ラグビースクール 校長

三浦 幸宏



ご祝辞

田園ラグビースクール創立20周年をお迎えな
られた事、心よりお慶び申し上げます。

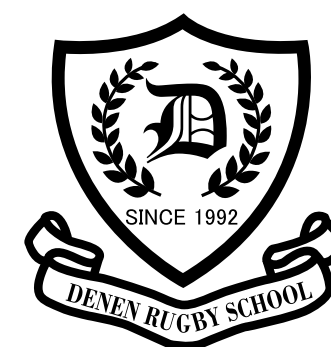
神奈川県協会のラグビースクールは23年度、
新たに2スクールが加盟して17スクールとなり、
23年度当初の登録では生徒数2,214名、指導者
606名、合計で2,820名となり、神奈川県協会
の中で一番大きな組織として活発に活動し、チ
ームや人数の減退する中、普及育成委員会ス
クール担当は毎年登録人数を増やし続けている
事をご報告させていただきます。

田園ラグビースクールは13番目に誕生した
スクールでありながら、23年度当初の生徒数
は279名と県下の中で2番目に大きなス
クールになっています。ここ数年の子供た
ちの躍進も素晴らしく県大会の成績は勿
論、昨年度に開催した第1回神奈川県ミ
ニラグビーフェスティバルには見事優勝
を果たしました。又、田園ラグビース
クール出身のOBの方々も高校、大学、
社会人で大変活躍されているのを拝見
し、20年間でたゆまない努力で素晴ら
しいスクールに築き上げた赤間校長を
初め関係者の皆様に敬意を表します。

普及育成委員会のラグビースクール担
当が開催する夏期指導者講習会や春季
指導者交流大会の行事にも積極的に参
加され、赤間校長カラー？ の赤の
ジャージを着た指導者の多さがいつ
も目を引きます。神奈川県ラグビーフ
ットボール協会の理事や普及育成委員
会スクール担当の執行部にも優秀な
人材に参加頂き多大なご尽力いた
だき大変感謝しております。

さて、麻生ラグビースクールは田園ラ
グビースクールの設立当初から関わり
が深く、当時就任間もない7代目の
故藤田校長が近隣スクール同士お互
いに頑張っていきましょう。という
事で、田園ラグビースクールの中
学校予定地や遊水調整池、麻生ラ
グビースクールの王禅寺小学校の
グラウンド等で合同練習をした事
が思い出されます。その後、平成
11年に田園・多摩・麻生の3ス
クールで合同の中学部を立上げ、
1年後に、多摩ラグビースクール
が抜け、新たにグリーンラグビー
スクールが加盟し『D A G S』が
誕生しました。秋の県大会では
誕生まもないスクールでしたが、
2～3年後には素晴らしい成績
を収めてくれるチームとして活
躍してくれました。平成21年
より田園ラグビースクールは中
学部で生徒数が増えた事もあり
単独チームとして独立しました。
これからも近隣スクール同士良
い関係を保ちつつお互いに良
きライバルとしてラグビーの
普及と発展、そして次代を背
負う生徒達の育成活動に取
組んで行きましょう。

今後も神奈川県協会と普及育
成委員会活動にご理解とご協
力を頂く事をお願いすると共
に、田園ラグビースクールの
今後益々のご発展と赤間校
長を初め、関係者の皆様の
更なるご活躍を祈念申し上げ、
私のお祝いの言葉とさせて
いただきます。



20th Anniversary

スクール顧問ご挨拶

伊藤 忠幸

水谷 眞

伊藤 隆

浜本 剛志

村田 互

発足当時のこと

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 評議員
関東ラグビーフットボール協会 評議員／セレコンアドバイザー委員
東京不惑クラブ会長

伊藤 忠幸



「田園ラグビースクール」創立20周年、誠に
おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

20年と一口に申しますが、コーチ陣による毎
日曜日のたゆまない練習や試合などの指導で大
変なご苦労があったことと存じます。またこの
間、終始、田園ラグビースクールの活動を支え
てこられた赤間校長のご尽力に心からの敬意を
表したいと存じます。

田園都市沿線に住んでいるラグーマンの集い
「田園クラブ」のリーダーの赤間さんのご発案で
ラグビースクールがスタートし、名称も田園ク
ラブにちなんで「田園ラグビースクール」と決ま
りました。ちなみに、小生もそのメンバーの一
人で、設立後もコーチとして関わってまいりま
したので、きょうは発足当時のこととお話しし
たいと思います。

平成4年の春にスタートした当時のことを思
い出すことができます。国学院大学のグラント
で入校式が行われ、67名もの生徒が集まり、「ラ
グビーを通じて元気な子供を育てたい」と、赤
間校長から力強い挨拶があって、すぐに学年別
に分かれての練習が始まりました。

当時は指導マニュアルもなく、コーチ陣の長
年の経験によって基本的なことを指導しており
ました。ラグビーというスポーツは練習だけで
はどれだけ上達したか分からないので、近くの
麻生スクールなどとよく練習試合をしていまし
たが、ほとんど大負けして帰ってくるのが常で
した。その後、勝つのが当たり前となった現在

から見ればまるでうそのような話ですが、コー
チ陣は、なぜ勝てないのだろうかとかと苦悶する期
間が長いこと続きました。

スタートした年の秋には、ラグビーの本場
ニュージーランドのオークランド市からタラナ
キチームのラグビースクールの生徒たちが、父
母を含めて30名ほど日本遠征にやって来まし
た。田園ラグビースクールにとって初めての国
際試合が三菱銀行のグラントで行われました
が、確か1トライを取るのが精一杯で、これも
大負けをしてしまいました。タラナキチームは、
田園ラグビースクールの生徒の親御さんの家に
3日間ほどホームステイし、日本観光などで相
互に国際交流を図り帰国しました。

ブラジルのリオデジャネイロ・オリンピック
(2016年)から7人制のラグビーが正式種目に採
用されます。さらに、2019年のワールドカップ
の日本開催が決まっておりますが、ぜひ田園ラ
グビースクールの生徒さんたちが大きく育っ
て、オリンピック選手や日本代表選手として活
躍することを願っております。

高校世代のラグビー離れが進んでいると聞い
ておりますが、田園ラグビースクールの生徒に
は、進学してもぜひラグビーを続けられ、ラグ
ビーというスポーツを通じて多くのことを学
び、いろいろ経験し、また、多くの人と出会い、
多くの仲間をつくり生涯にわたってラグビーを
楽しんでもいただきたいと願っています。

末筆ですが、田園ラグビースクールの更なる
発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

田園ラグビースクール 20周年をお祝いして

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 理事
関東ラグビーフットボール協会 理事長／評議員
／セレコンアドバイザー委員会 委員長

水谷 眞



田園ラグビースクールが二十歳(はたち)の成
人式を迎えました。子供の成長は早いものです
が、スクールも光陰矢のごとしで歴史を積み重
ねて成長しました。

田園ラグビースクールの発足は、田園都市線
沿線で事業展開されていた現校長・赤間敏雄さ
んの会社が、沿線の皆さんに大変お世話になっ
ているのだから、何か地域に貢献できることを
やってみようという思いがきっかけでした。地
域貢献といっても堅苦しいものではなく、自分
たちにはラグビーという宝物があるのだから、
その素晴らしさを子供たちに伝えるため、ラグ
ビースクールを開校しようという意気込みでス
タートしたのです。最初は国学院大のグラント
に30余名のスクール生が集まりました。その
コーチ陣として伊藤忠幸さんや浜本剛志さん、
伊藤隆さんなどともに私にもお声がかかり、リ
コーの監督をやりながら子供たちの面倒を見る
ことになりました。思えば元・日本代表選手を
ずらりと揃えた豪華なコーチ陣だったと思いま
す。これも赤間校長の何事もやるからにはベス
トのことをやろうという高い見識の表われだっ
たと思います。

さて、コーチを引き受けたものの、私にとっ
て子供たちを指導するのは初めてのことで、何
から始めたらいいのか、特に練習メニューをつ
くることには苦心しました。「集合!」と声をか
けても子供たちはトンボ採りやドングリ拾いの
真っ最中。どうやったらラグビーに関心を向け
させるか、ラグビーが好きになってもらえるの

か、大人のラグビー指導とは全く違った発想で
対応しなくてはならず試行錯誤の連続でした。
しかし、なんでも体当たりの精神で子供たちに
接していると、彼らの持つ無限の可能性を引き
出してあげられる喜びに変わってゆきました。

その後スクールのスタッフには多くの父兄の
方々が関わって下さるようになりました。いま
では何と300名を超えるスクール生を擁するま
でに成長しました。田園スクールの自慢として、
コーチ陣の皆さんが熱いこと、そして建設的な
ことが挙げられます。何事もみんなで話し合っ
て決めるのでもめごとがない。こんな健全で健
康なスクールは他にはないでしょう。いまは「永
久コーチ」という称号を頂き、外からのサポー
トしかできませんが、田園スクールの立ち上げ
から現在まで、ずっと関わってこられたことが
私の自慢であり誇りでもあります。

次代を担う子供たちにはラグビーが大好きに
なってほしい、その一念でいっぱいです。スク
ール生も20年経つと立派な大人に成人しました。
本当に頼もしい限りです。田園ラグビースク
ールがラグビー好きの少年少女で益々発展して
ゆきますよう心から願ってわたしの挨拶と致し
ます。みなさん、これからも頑張りましょう。

幻の初トライ

元リコー監督
伊藤 隆



創立20周年おめでとうございます。初代小学生担当コーチの伊藤です。

赤間校長の熱い思いに賛同して集った初代コーチ陣は、蒼々たるメンバーでした。

伊藤忠幸氏、水谷眞氏、浜本剛志氏等日本代表で活躍した面々で、今でも日本ラグビー界でご活躍されている方で構成されました。練習場は、毎回転々としておりましたが、その度に楽しそうに集って来る小学生の顔を、今でも忘れることができません。

当時の小規模な田園ラグビースクールが、今や神奈川県を代表する素晴らしいラグビースクールに成長されましたことは、代々のコーチやスタッフ、そしてご父兄の皆様の献身的なご尽力の賜物と思っております。

思い出深いのは、数ヶ月後の初めての練習試合でした。対戦相手は麻生ラグビースクールだったと記憶しております。当時、田園ラグビースクールより何年も先輩格のラグビースクールでした。試合は開始早々から圧倒的に攻め続けられ、失点は30点を超えてしまいました。田園ラグビースクールは、ノートライ。

しかし、諦めずに頑張っていると好機が訪れるものです。後半残り時間が少なくなった頃、相手BKがノックオンし、そのボールを拾って独走し始めたのです。ところが、ゴールラインを越えてもまだ走り続け、そしてデッドボールラインを越えた所でトライしたのです。相手チームは、啞然としておりましたが、我が方は、トライした本人はじめ、控え選手達も含めて大

喜びでした。なにしろ対外試合で初めて取ったトライですから。

しかし、得点板は依然として0点のままです。結局この初めての田園ラグビースクールの試合は完封負けでした。

実は正規のグラウンドで練習したのも、試合をしたのも彼等にとっては、初めての経験だったのです。これまでの練習で、試合形式の練習をしても、グラウンドだけは、簡易に長方形を描いて、ラインを越えてボールをグランディングをすればトライになると指導しておりました。それまで、ラグビー場の全体像について教えたことがありませんでした。生徒達は、私の指導通りにプレーしてくれた訳です。

トライは幻に終わってしまい、自分の指導不足を反省させられたゲームになりましたが、私の指導通りに一生懸命走ってくれた彼等を誇りに思え、そしてその子達が可愛くて可愛くて仕方ありませんでした。

現在のコーチの皆様へのお願いになります。技術指導に先行して、是非、ラグビー精神を子供達に伝えて頂きたいと思えます。フェアプレーの精神、ONE FOR ALL, ALL FOR ONE、ノーサイドの精神。正にこれこそが大切にしてきたことであり、我々ラグビー仲間の美学であり、誇りであると思うのです。

最後に、今後の田園ラグビースクールの益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

田園ラグビースクール 創立20周年に寄せて

財団法人 日本ラグビーフットボール協会 理事
サントリーサンゴリアス シニアアドバイザー

浜本 剛志



田園ラグビースクール創立20周年まことにおめでとうございます。

このたび20周年記念誌編纂のご案内をいただき、あれからもう20年が経つのかと懐かしく開校時に思いを馳せています。

この20年の間に、赤間校長先生はじめコーチ・スタッフの皆様のご努力によって全国でも屈指のラグビースクールになられた事に対してまずは心より敬意を表する次第です。

開校当時には私もコーチとして立ち上げをお手伝いさせていただき、その頃小学校1年生と幼稚園の年中だった二人の息子達も生徒として一緒にお世話になりました。

息子と同様に中々言う事を聞かない生徒達に手を焼きながらも、コーチから声を掛けられたらキチンと返事をする、整列する時には学年毎に真っすぐに並ぶ事などラグビー以前の基本動作も大切に指導をしました。

また、ラグビーのゲーム中の選手のミスは決してその時にはとがめずに萎縮させる事無くのびのびプレーをさせ、ラグビーを楽しみ、好きになってもらおうとコーチ全員が心掛けていたのを今でも思い出します。

開校1年目の夏合宿は山中湖で専修大学のセミナーハウスをお借りして行い、2年めからは菅平に行ったと記憶しています。2年目の菅平の夏合宿ではコーチ達が協力して指導マニュアルを作成し、ラグビーの指導もようやく軌道に乗って来ましたが、はじめの頃はラグビーの合宿と林間学校の区別がつかずに夜遅くまでは

しゃぎまわり寝付かない生徒や、初めて母親から離れて宿泊する不安に家へ帰りたいとベソをかく生徒もいて、昼の練習の指導よりもむしろ大変だったのを懐かしく思い出します。

その様な状態からのスターでしたが、その後のコーチ・スタッフの献身的なご指導の甲斐あって、進学後もラグビーを続ける生徒が増えて今では田園ラグビースクール出身の高校生・大学生・社会人になった選手達の活躍をラグビー場やテレビで見る機会が多くなりとても嬉しく思っています。

いよいよ2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催されます。その時に田園ラグビースクール出身の選手が日本代表としてフィールドに立ち大活躍をし、そして田園ラグビースクールに関係した沢山の方々が、ラグビーファミリーとしてワールドカップを応援し成功に導いていただければ、どんなに素晴らしい事かと思っています。

末筆になりますが、田園ラグビースクールの益々の発展を心よりご祈念申し上げ、創立20周年お祝いの寄稿とさせていただきます。

ENJOY RUGBY

7人制ラグビー日本代表 監督
専修大学ラグビー部 監督

村田 互



田園ラグビースクール創設20周年、おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

私は福岡生まれ、兄の影響もあり小学1年生の時から地元の草ヶ江ヤングラガーズというラグビースクールに所属していました。その時のポジションはフルバック。当時何が楽しかったって、ひとことで言えば「タックル」。ポジションがフルバックだったこともあり、タックルばかり行った記憶があります。私は向かってくる相手に対して低い姿勢から正面足元に飛びこんでタックルに行くのが得意で、当時はカエル飛びタックルとかマングースとか言われていました。そのタックルで大きな選手を倒すたびに観客からウォーと大きな声援が飛ぶ。その歓声が忘れられず、タックルに磨きをかけたものです。

しかし、6年生時に創立10周年記念行事として初の試み、ニュージーランド遠征があったのですが、私は小学生という理由で当時キャプテンだったスクールのヒーロー、次男しか行かせて貰えませんでした。この時から6年間守っていたフルバックのレギュラーを外され、その後中学3年生の引退時までの4年間、レギュラーのジャージを着ることは1度もなく卒業。それでもラグビーを辞めなかったのは、たくさんの友達と信頼する次男がいたからです。

高校に進学して2年生でレギュラーを勝ち取り、その年に花園初出場。入学時より10cm伸びても大会一小さいスクラムハーフで当時の身長は159cmでした。今思えばラグビースクール

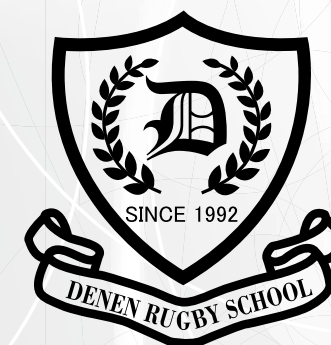
時代にあきらめないこと、大きな目標があったこと等、たくさんのことを学ばせて頂いたおかげで今があるのだと思います。小学6年生の文集にはこう書いていました。

「将来の夢は、ラグビーの日本代表選手になって世界をかけまわる」。

あれから約30年、草ヶ江ヤングラガーズは創設40周年を迎えました。補欠だった私が日本代表に一番初めに選ばれ、その後は何人もの選手が桜のジャージに袖を通しました。今年、花園初出場の際は初戦敗退した母校東福岡高校は、3年間負けなしの80連勝で3連覇を達成。専修大学、東芝府中、フランス・アビロンバイヨンヌ、ヤマハ発動機ジュビロと走り続けて40年、今では監督という立場に身を置いて4年目、まだまだ学ぶことがたくさんあります。田園ラグビースクール出身者も今では強い高校や大学、トップリーグの選手も出てきています。今後も25周年、30周年と積み重ねた結果がより多くの「絆」をうみ、大きな活力になることと思います。

最後に、子供たちは原石です。大きな夢と目標を持ち、もっともっとラグビーが好きになり、たくさんの友達を作ってラグビーそのものを家族みんなで楽しんで頂きたいと思います。

ENJOY RUGBY !



20th Anniversary

田園ラグビースクール 20年のあゆみ

歴代統括コーチ回顧録 選手 OB・ご父兄寄稿

第2代副校長 佐藤 篤史
佐伯 悠
河村 泰三
野原 崇文
佐藤 晴紀
藤田 将大
佐藤 優梨香

初代統括コーチ 大西 智
仲宗根 健太
吉本 高寛
山内 遼太郎
青木 大輔
西橋 勇人
迫田 泰英
高野 裕平
須藤 惇
長縄 由彦

第2代統括コーチ 金津 文貴
古澤 陸
山谷 大樹
机元 雄介
宮澤 尚人
西橋 誠人

第3代統括コーチ 竹谷 誠
杉森 美智子
浅沼 美和子
高橋 美穂
片野田 美加

第4代統括コーチ 永田 雅人
須藤 章
松山 隆幸
大西 秀紀
山同 建
守安 博章

20年のあゆみ 歴代統括コーチ

感謝

平成12年度～19年度 副校長
関東協会普及育成委員会 中学生RS部門 支部委員会

佐藤 篤史



- 佐伯 悠
- 河村 泰三
- 野原 崇文
- 佐藤 晴紀
- 藤田 将大
- 佐藤 優梨香

田園ラグビースクールも20周年を迎えました。これもひとえに田園ラグビースクールを支えて下さった関係者の方々、そして県内外のラグビースクール関係者の方々のご指導、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

縁あって初年度からコーチをさせて頂き、貴重な経験、勉強をさせて頂きました。

初年度の開校式は、当時の国学院大学あざみ野グラウンドで行われました。今はもうないこのグラウンドは、春には満開の桜に囲まれて最高の環境でした。夏合宿は山中湖の専修大学セミナーハウスで行われ、湖畔で行われた花火大会を全生徒で見学したのを覚えています。2年続いた山中湖合宿はグラウンドの確保が難しく、赤間校長のご尽力で東京大学や慶應大学のグラウンドをお借りして練習をしました。夏合宿の練習グラウンドの確保と練習試合の相手を求めて、3年目から菅平に合宿地を移しました。

2年目にはニュージーランドから「TAKAPNA R.F.CLUB」の子供たちが来日して当時の天然芝鮮やかな三菱銀行あざみ野グラウンドで田園の高学年の生徒と交流試合を行いました。試合は負けましたが、ラグビーを始めて間もない子供たちには貴重な経験になりました。この試合のレフリーは浜本コーチにお願いしたのを覚えています。TAKAPNA R.F.CLUBの子供たちやご父兄は、田園ラグビースクールの生徒の家庭にホームステイして交流を深めたので、今でも交流が続いている人もいるのではないのでしょうか。

私は開校当初より高学年と中学生を担当してきました。当初は特に高学年の生徒が少なく、5年生から中学3年生までが一緒に練習をしていました。この年代の5歳の年齢差は大きく練習メニューに苦労したものです。その後もなかなか生徒が増えず、3年目から川崎ラグビースクールの協力を得て中学生のみ「川崎・田園連合」として一緒に練習し公式戦にも参加させて頂きました。当時の中学生、特に2・3年生の練習はほとんどが川崎の等々力グラウンドでした。その後、多摩ラグビースクールと連合チームを作り、当時の1年生が東京都の大会に参加した事もありました。その後、新しく中学生を立ち上げた麻生ラグビースクールと合同チームを結成し、3年後にグリーンラグビースクールが加わり「DAGS」が誕生しました。

DAGSでは沢山の生徒と優秀なコーチに恵まれ、県大会4連覇という偉業を達成しています。当時の生徒が今、大学やTOPリーグで活躍しているのはご存知の通りです。

3年前に田園ラグビースクールがDAGSから独立して、単独チーム「DJ」として活動を始めました。20年かけてやっとここまで来たかと思うと、感慨深いものがあります。

田園ラグビースクールも生徒数が250人を超える大所帯になりました。この20年間に田園ラグビースクールに関わって頂いた全ての方々に感謝の気持ちを忘れず、今後もラグビーを盛り上げていきたいと思っています。

ラグビーが持つ力

平成8年度卒業(小学部)

佐伯 悠

東京農大第一高校－関東学院大学卒業
釜石シーウェイブス主将



田園ラグビースクール関係者の皆様、開校20周年おめでとうございます。

このような機会に寄稿を載せて頂き、本当にありがとうございました。

今から15年程前、新聞の片隅にあった田園ラグビースクールの記事を父が見つけ、「ラグビーやるか？」と、このひょんな一言が私のラグビーの始まりでした。当時は赤田の遊水地グラウンドや、今では跡形も無くなってしまった国学院大グラウンドで練習を行っており、今でも帰省し、近くを通りかかる時にはとても懐かしく感じております。

私は今、岩手県釜石市に本拠地を置く釜石シーウェイブスというチームに所属しております。この釜石という町は昔、新日鐵釜石が日本選手権で7連覇を果たしたという背景もあり、非常にラグビーが盛んで、根付いている町です。

2011年は特に釜石という名前を耳にすることが多かったかと思います。3月11日に三陸沿岸を襲った東日本大震災。釜石も大津波を受け、甚大な被害を受けました。私のチームも例外ではありませんでした。チームの中には、住む家を流された人、職場を流された人、家族を失った人までもいました。例年であれば、もう練習が再開されている時期。いつも使っているグラウンドは緊急用のヘリポートとなり、室内練習場は家を流された人たちの避難場所となりました。震災当初はライフラインの復旧の見込みもまったく立たず、携帯も使えない、ガソリンの確保も出来ない、そんなひどい状態が続いてお

りました。

そんな中、私達を支えてくれたのは、同じラグビー仲間でした。同じ東北にある秋田ノーザンブレッツの選手とスタッフが、支援物資や炊き出し道具を積んで釜石まで来てくれました。震災後4日目のことでした。私は、その時食べたとても暖かい、きりたんぼの味は忘れることが出来ません。本当に多くの方々に困難を救ってもらいました。仮設住宅の候補地にあがっていたグラウンドは、市民からの声で残してもらえることが決まり、震災2ヵ月後には練習を再開するまでになりました。国内外数多くの方々からご支援をしていただき、2011年もラグビーをやり通すことが出来ました。

昨年ほどラグビーをやっていて良かったなと思ったことはありませんでした。ラグビーの素晴らしさとラグビーが持つ力の大きさを改めて思い知らされました。

私は、ラグビーによってここまで、成長させてもらったと思っています。ラグビーに出会わせてくれた父には感謝していますし、私の原点でもある田園ラグビースクールにも本当に感謝しております。いつの日か、何かの形でこの気持ちを還元することが出来ればいいなと思います。そして、これからも一生懸命ラグビーを楽しんでいきたいと思っています。

御世話になった 7年間を振り返って

平成12年度卒業(中学部)

河村 泰三湘南高校―慶應義塾大学卒業
帆柱クラブ所属

田園ラグビースクール(以下RS)創立20周年おめでとうございます。私が田園RSでラグビーに始めたのは、まだスクールができて間もない、今から18年前で、小学校3年の春でした。今回、記念誌への寄稿の機会をいただき、楽しかった、御世話になった7年間(1994年～2001年)を振り返りたいと思います。

私が初めて田園RSの練習に行ったのは、桜が満開の國學院大学グラウンドでした。練習の最後に大人用の重くて固いダミーに思いきりタックルをしてコーチに「ナイスタックル!」と褒められたのを覚えています。それから毎週日曜日は、自宅から1時間かけて母の車で「國學院グラウンド」や「遊水地」に通う生活が始まりました。

秋には公式戦が天津グラウンドや三ツ沢競技場でありました。小学生の頃は県内でも常に上位クラスで、仲の良かったチームメートや、選手の数より多い(?)素晴らしいコーチの皆様のおかげで、6年生のときに強豪・川崎RSを下し、優勝することもできました。

今でも覚えている小学生のときの名物コーチといえば、上林コーチです。小学4年生のときに練習前の体操であくびをしていたら、円の反対側にいた普段は優しい上林コーチに「河村、あくびをするな!」と怒られたのを今でも覚えています。

中学生になると状況が少し変わり、チームメートの多くが学校の部活動との両立が難しく、10人以上いた6年生の優勝時のメンバーが

5人ほどになってしまいました。上級生も数名しかいなくて単独でチームを組むことができず、同じように人数が少ない麻生RSと合同チームを組むことになりました。

小学生のときは試合で勝つことが当たり前だったのに、なかなか勝つことができなくなりました。2年生のときには東京のリーグに所属し、多摩RSと合同チームを組みましたが、やはり勝てず、3年生のときに神奈川のリーグに戻って、なんとか2勝をあげることができました。

中学生のときの名物コーチといえば、佐藤コーチです。「自分のためにやってるんだから休んでもいいぞ!」と佐藤コーチは何度もおっしゃっていました。「そんなこと言われたら余計に休めないじゃないか!」と心の中で思いながら頑張ったのを覚えています。

田園RSを卒業後も、高校、大学でラグビーを続け、社会人となった今もラグビーが盛んな福岡県・北九州市で、帆柱クラブというクラブチームでプレーしています。日本中どこでもラグビーを通じて友人ができる、これは私の人生にとってかけがえのない大きな財産であるということをしみじみ感じています。

振り返ってみると、ラグビーの楽しさ、素晴らしさを教えていただけたのは、田園RS赤間校長をはじめとしたコーチ陣や、チームメート、父兄の皆さんのおかげです。

今後も30年、50年と田園RSの歴史が続き、ますます発展していくことを祈念いたします。

ラグビーとの縁

平成13年度卒業(中学部)

野原 崇文川和高校―明治大学卒業
三菱東京UFJ銀行ラグビー部所属

ラグビーを始めたきっかけは、「休日が暇だった」。それだけでした。

当時はJリーグが発足しサッカーブーム最盛期で、地元のサッカークラブに入りたかったのですが、年齢制限があり入れませんでした。一歳年上の兄がサッカークラブに入り、休日は練習に行っても私は遊び相手がなくなったため休日が暇になりました。その時、地元の広報誌を見て田園RSのことを知り、ラグビーと言うスポーツも知らずに入校を決めました。

始めた当初は体もそこそこ大きく、ラグビーをやっていて楽しい時期が続きました。しかし、成長期がくるのが遅く、体格で劣ってきた上に週に一回しか運動をしていなかったせいで、徐々に運動神経が鈍っていきました。

ぶつかっても勝てない、走っても追いつかないという状況になり、試合でボールを持つ機会が減りました。仲間とラグビーすることが楽しいとは言え、やはり、このような状況になるとラグビーをすることが嫌いになり、ラグビーを辞めたいと思った時期もありました。それでも続けてこられたのは、厳しい中にも優しさのあるコーチの熱い指導があったからだと思います。

転機となったのは、高校受験の時でした。

ラグビーの強い私立高校へ進学するか、地元のラグビー無名校の公立高校へ進学するかの選択をする際に、強いチームに入りさえすれば自分もラグビーが上手くなると勘違いしていた私に、兄が「今まで本気でラグビーをやってきたのか? 通学時間を短縮できる近所の公立高校

で本気でラグビーをやって、それから強いチームでラグビーをするという夢を追いかけても遅くはないんじゃないか?」というアドバイスをしてくれました。(当時のコーチに怒られるかもしれませんが)私は中学時代までラグビーの為に努力をしたことがありませんでした。

この言葉に心を揺さぶられた私は、受験勉強に取り組み、地元の公立高校へ入学出来ました。そこで3年間ラグビーに打ち込み、チームとしての結果は残せなかったものの、ラグビーを本気でやったと言う自信を持つことが出来ました。「今度こそ強いチームでラグビーをしたい」という気持ちを支えに大学受験をし、明治大学へ入学しました。二度の受験を短期間で集中して乗り切れたのは、ハードなスポーツをやってきたからだと思います。

その後は、大学トップレベルの厳しい環境の中に身を置くことができ、とても良い経験が出来たと思っています。

社会人になった今でも会社のラグビー部に所属し、ラグビーを続けています。弱小チームながら試合が出来、素晴らしい仲間・先輩達と一緒にプレーが出来ている時間がとても楽しく、続けてきて良かったと実感しています。

そして、ラグビーとの縁を改めて感じたのは、始めた当初、ラグビーを知らなかったと思っていた私が保育園の卒業文集の将来の夢に「ラグビー選手!」と書いてあったことです。

こんな縁があるラグビーの楽しさ・苦しさを教えてくれた田園RSに、感謝しています。

創立20周年おめでとうございます

平成13年度卒業(中学部)

佐藤 晴紀東京高校—早稲田大学卒業
NTTコミュニケーションズ シャイニングアークス所属

田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます。

この創立20周年という数字は、第1期生の私にとって田園ラグビースクールの創立年数＝私のラグビー歴という特別な数字でもあります。

今思い返すと始めるきっかけは、父親に兄(佐藤勝英：田園ラグビースクールOB)と一緒に田園RS連れて行かれたことでした。当初はまだラグビーというものを知らず、ただひたすら楕円形のボールを追かけて友達と遊ぶという感覚でやっていたと思います。そこからルールを覚え、基礎を学び、ラグビーにのめり込むのには時間がかからなかったです。毎週日曜日はラグビー！と私自身だけでなく、家族の生活の一部になり、毎週待ち遠しく感じていました。

学年が上がるにつれ、徐々に他のラグビースクールと試合をやるようになり、今までと違った面白さ、楽しさ、そして試合に負けての悔しさをここで学ぶことができ、普段生活している中で経験できない体験をして日々成長できたと思えます。



なかでも一番の思い出、経験になっているのは、夏合宿で初めて親元を離れ、仲間で共同生活を送り、ラグビー漬けの日々を送ることが出来た事は、私の中で貴重な財産となっています。

中学に上がり、合同チームのDAGS(ダックス)として活動することで、また新たな出会いがありました。こういったラグビーを通じての新たな出会いは、高校、大学、社会人とラグビーを続けている限り、敵味方関係なく、多くの仲間が増えていきます。ラグビーを通じて出会った人達は、出会いの早い遅い関係なく、いつまでも仲間として繋がっています。

このすばらしい時間を私がまだ続けていられるのも、田園ラグビースクールとの「出会い」がなかったら実現していないかもしれません。田園ラグビースクール、ラグビーに限らない事かもしれませんが、今、田園ラグビースクールにいる子供たちには、「出会い」というものを大切にしていって欲しいと思います。

最後にこの場を借りて、丈夫に育ててくれた両親、ラグビーのすばらしさ、厳しさ、楽しさを教えて下さったコーチ、関係者の皆様、そしてラグビーを通じて知り合い、共に成長し、戦った仲間へ感謝致します。今の私があるのは、田園ラグビースクールで出会った皆様のおかげです。ありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願い致します。

10年後の創立30周年を迎えるにあたって、これからも田園ラグビースクールのOBとして、恥じぬよう日々精進していきます。

「我慢する力」と「仲間の大切さ」

平成11年度卒業(小学部)

藤田 将大

桐蔭学園高校—立教大学卒業



私は幼稚園の時から小学6年までの7年間を、貴スクールでお世話になりました。

幼い頃はラグビーが嫌いで、親に無理やりグラウンドに連れて行かれ、大泣きした事を今でもよく覚えています。その頃はラグビーの他にも野球、サッカー、水泳、ピアノなど多様な事をしていたにも関わらず、何故か嫌いだったラグビーを選び、大学を卒業するまでの20年弱をラグビーと共に過ごしてきました。

思い返すと田園ラグビースクールではラグビーの楽しさを知り、そして中学、高校、大学ではラグビーの厳しさを知ったように感じています。一緒に汗を流した仲間とは今でも付き合いが続いており、私の宝です。そして、この先も続くことでしょう。

そのラグビーから得たものは沢山あります。「協調性」「規律」「努力」、そして「我慢する力」です。私は、ずば抜けた身体能力があるプレーヤーでも無かったし、器用なプレーヤーでもありませんでした。しかし、厳しい練習に耐えるだけの「我慢する力」はあったように感じます。そうでなければ、高校入学と同時にラグビーをやめていたことでしょう。また、その後においてもラグビーをやめる機会は幾らでもありましたが、しかし、そこでやめなかったのには二つ理由がありました。

一つは自分に「我慢する力」があったから。

例えば試合で格上の相手と戦うなら、ディフェンスの時間が続く事が多いでしょう。しかし、どんなに強い相手と対戦しても「我慢」して

堪えたならば、その先チャンスは必ず来ます。その時に持っているパフォーマンスの全てを発揮すれば、必ず勝機はあると思います。これはラグビーだけでなく仕事でも同様と捉え、この先の長い人生でも活かしたいことの一つです。

二つ目は「仲間の大切さ」。共に厳しい練習をした仲間達と離れることはできませんでした。

小学生の頃の自分を一言で言い表すならば、「小心者な目立ちたがり屋」でした。そんな自分に自信をなくした時、辛い時はいつも傍で励ましてくれる仲間がいました。だからラグビーをやめるまでは至らなかったかと思っています。

私は現在、星野リゾートという会社で、温泉旅館の再生事業に携わっています。一度経営破綻した温泉旅館を立て直す仕事ですから、決して華やかな仕事ではありません。勤務内容はハードで辛い時もありますが、高校時代のラグビー合宿とは比較になりません。業務では判断を迫られる事が多々あります。その判断材料の情報をきっちり取捨選択し、適切な判断ができるよう、日々努力を重ねています。そして、いつしか大きな決断をできるような人間になりたいと考えています。ラグビーで得た「我慢する力」、これを根底に置きながら、この先の困難も乗り越えていきたいと思っています。

最後に、これまで育ててくださった校長をはじめ、各コーチの方々に感謝をすると共に、今後の田園ラグビースクールの益々のご発展を願っております。

ラグビーのおかげで活気ある有意義なものへと変わった大学ライフ

平成11年度卒業(小学部)

佐藤 優梨香

平成12～13年度幼児クラスコーチ



いつから、どんなきっかけでラグビーをやろうと思ったのか、そんなことはとうに忘れてしまいました。ただ、いつからかボールを抱きしめ、走り、仲間とともに泥だらけになりながら練習や試合に臨んでいたのです。

私が小学校6年間ラグビーをやっていた中で特に印象に残っている出来事といえば、まず夏合宿を思い出します。

合宿自体は子どもながらも、なかなか過酷なスケジュールだったことを覚えています。朝は早くに起きてラジオ体操、その後ホテルまで戻り朝食。早起きが苦手な私には、これ以上に1日の中で辛い時間はありませんでした。

その後はグラウンドで夕方まで練習、または試合です。菅平のグラウンドは芝生が全面にキラキラと輝くとても美しい光景でした。当時は練習の辛さからそんな場所での練習や試合が貴重な体験だったと思ってはおらず、そんな自分が今では少し憎く感じます。しかし、今思うと辛かった合宿の出来事ひとつひとつがとても記憶に残り、楽しかったと振り返ることのできる思い出です。試合で勝ったことや負けたこと、強い日差しの中、練習で走りまくってクタクタになったこと、その中で食べるスイカが美味しかったこと、仲間と寝そべった芝生、すべてが鮮明に記憶に残っています。

記憶に残っていることといえば、中学に上がった後に幼児クラスの手伝いをさせてもらったという体験も私にとっては良い思い出です。

幼児クラスではもちろんまだ試合などはしませんが、追いかけてっこをしたり、ボールを持って走るといった単純な動作の中で、彼らはラグビーの基礎を覚えていくのです。そしてそれが後々試合で生きてくるという事、私はそれを間近で見て、彼らの輝かしい将来を想像しました。そんな彼らも、もう中学生かと思うと、今どんな選手に成長したのか考えるだけで胸が躍るのです。

そして私も中学・高校を卒業し、大学へと進みました。

中学を卒業して以降はラグビーとは無縁の環境で育ってきた私ですが、縁とは本当に不思議なものです。大学で入ったバドミントンサークルで、たまたま先輩との会話で出たラグビーの話、その先輩たちも中・高でラグビーの経験があり、先輩たちのおかげでサークルに早く溶け込むことが出来ました。図らずも私の大学ライフは、ラグビーのおかげで活気ある有意義なものへと変わったのです。

最後に、非常にお世話になった田園ラグビースクールも20周年。これからも良き成長を心から願っています。



後端右端

2000~2022

20年のあゆみ 歴代統括コーチ

出会いに感謝！ 田園に感謝！

平成12年～14年度 統括コーチ

大西 智



- 仲宗根 健太
- 吉本 高寛
- 山内 遼太郎
- 青木 大輔
- 西橋 勇人
- 迫田 泰英
- 高野 裕平
- 須藤 惇
- 長縄 由彦

『田園ラグビースクール創立20周年』誠におめでとうございます。

田園ラグビースクールの設立と発展にご尽力された赤間校長をはじめ多くのコーチ、ご父兄、そして何よりもスクールに参加しているプレーヤーの子供達に感謝を申し上げます。

田園RSとの出会いは、今から17年前に西宮から川崎に転勤をした事がきっかけでした。転勤前は、阪神タイガースの本拠地である甲子園で活動をしていた、『甲子園チビっ子ラガーズクラブ』でスクール卒業生として中学生を指導しておりました。29歳で田園RSにお世話になった時は結婚2年目で、まだ子供がいない中でコーチをするという事が先輩コーチ陣に理解をしてもらえず、とても不思議がられ変人扱いをされた事が、田園RSライフのスタートでした。

当時の田園RSは、『楽しい』が全てで、練習は楽しい事、試合も楽しい事、遠征に行く電車中でも楽しい事で、決して子供達を怒ってはいけないという状況でした。その中で、人数の増加と共に規律のバランスが少し崩れ始め、運営を見直す事となり、6年目でしたが、赤間校長、佐藤(篤)副校長の下、初代統括と言う大役を仰せつかりました。特に、当事でも唯一の怖いコーチ・西橋コーチを中心に多くの先輩コーチに溝の口の『たまい』で頻繁に相談にのってもらったものでした。結果的には、子供達にも楽しい事だけではなく、ラグビーの厳しさ・しんどさ・痛さも教え、『挨拶をする』『田園のジャージに誇りを持つ』『練習で100%の力を出し切る』等

ラグビーをやっていく上での姿勢と、赤間校長の強い信念である『基本プレーの徹底』を融合させ、『ラグビー好きの子供を増やす』事を目標に運営して行く事に致しました。『子どもの国遠足』『卒業タックル』『夏合宿のハイパンキャッチ』『夏合宿文集』『年少からの受入』等もスタートさせた当時が懐かしく思い出されます。

さて、現在ですが、平成21年の332人を最後に少しずつ生徒数が減少をしてきております。丁度、ご父兄がスクールウォーズ世代からJリーグ世代に移り変わってきた事もあるでしょう。しかし、それよりも設立当初の頃のように、コーチ自らがもっともっと勧誘をしなければならないでしょう。僕らコーチは、プレーヤーである子供達がラグビーを続けてくれているからこそ、コーチが出来る事を肝に銘じて、もう一度ポスターを貼ったり、子供の学校でPRしたり、地域での勧誘を積極的に実施する時期だと思います。コーチの皆さん、楽しい田園RSライフを送る為にも、ひと踏ん張りしましょう！

最後になりますが、在校生・卒業生のみんなには、田園RSという何時でも帰ってこられる場所があります。ふらりと立ち寄って練習に参加しても良いですし、将来お父さん・お母さんになって子供を連れてくるのもあります。また、自らの経験を活かしてコーチとして戻ってくる事も出来ます。それが、きっときっと地域に根ざした田園RSの発展と継続になりますので、是非、みんなで田園RSの30周年、40周年を一緒に創り上げて行きましょう！

田園ラグビースクール 創立20周年おめでとうございます

平成16年度卒業(中学部)

仲宗根 健太桐蔭学園高校卒業
慶應義塾体育會蹴球部112代主将
高校日本代表-U20日本代表

私は父の影響で、幼いころからラグビーボールと戯れていましたが、小学校3年生から田園ラグビースクールにお世話になりました。振り返ると色々な場面が思い起こされます。

今でも鮮明に心に残っているのが初めてのトライです。ボールを持って走る楽しさ、体を張ってタックルで相手を倒す爽快感。当時サッカーに夢中だった私が、どんどんラグビーの虜になり、週末が楽しみで仕方なかったこと。また、菅平の夏合宿が嫌で、泣いたことも今では懐かしい思い出です。そして、熱い思いで熱心に指導してくださったコーチ。基本スキルはもちろんのことラグビーの楽しさ、チームプレイの醍醐味、仲間との絆など私の礎となる多くの事を学ばせて頂きました。卒業から7年経つ今もそれらは私のベースとなっており原点です。

2009年初めて日本で開催されたU20世界ラグビー選手権で私は、U20日本代表として出場させていただきました。秩父宮ラグビー場にスクールの皆さん、コーチ、父母の皆さんが大勢応援に駆け付けてくださり、熱い声援で支えてくださいました。そして試合中グラウンドから見えた応援の横断幕は何よりも心強く、私に勇気を与えてくれました。ありがとうございました。桐蔭学園高校花園出場時にも電報での激励。温かい配慮に感激したことを思い出します。

現在、私は慶應義塾大学体育會蹴球部112代主将を務めています。チームの勝利に貢献をしたいと感じると同時に、チームジャージの重みを今まで以上に感じています。チームジャージ

の重みは、試合に出ていない人の練習量や想い、サポート、応援していただいている人の想いです。ここまでの道のりは決して平らなものではありませんでしたが、一步一步の全てが私を成長させてくれました。今も、いろいろな場所で赤間校長やお世話になったコーチにお会いすると激励のメッセージをいただきます。多くの方々に支えられていることに改めて感謝しています。

大学卒業後、来春からトップリーグのサントリーサンゴリアスでラグビーを続けることになりました。田園ラグビースクールで学んだことを胸に目標を高く持ち、更にチャレンジを続けます。

今、スクールで頑張っている選手の皆さんもスクールで多くのことを学び、目標を高く持って頑張ってください。

田園ラグビースクールの益々のご活躍、ご発展を祈念致します。



一生涯付き合える仲間を作れたことは大きな財産

平成13年度卒業(小学部)

吉本 高寛國學院久我山高校卒業
日本大学ラグビー部所属

20周年おめでとうございます。

私は幼稚園から田園ラグビースクールに所属しており、小学校、中学校とお世話になりました。田園での最初の記憶は親に無理やり練習に連れて行かれ、泣きながら練習に参加していたことで今でも覚えています。しかし、最初は嫌々だったのが、いつの間にかラグビーをすることが楽しくなり、トライすることや、タックルで敵を倒すことが快感となっていきました。

幼稚園や小学校の低学年時は、ただただボールを持って走ることに夢中だったのですが、高学年、中学校と進むにつれて、仲間と勝つ事に対して協力しながら敵と戦う事の意味や、仲間の大切さなどを学び、ラグビーから人として重要なことも学べたと思います。ラグビーを通じて一生涯付き合える仲間を作れたことは、私の人生にとって大きな財産になりました。

私は現在大学4年生で、日本大学ラグビー部に所属しております。残念ながらリーグ戦6位



と大学選手権に出場することはできませんでしたが、3年生時から試合に出さして頂き、高校、大学と活躍できたのは田園での経験があったからだと感じています。

残念ながら社会人でプレーすることはありませんが、これからは少しでも私が学んできたことを若い世代に伝えていけたらと思っています。そして、田園ラグビースクールに少しでも恩返しをしていきたいです。もし練習に参加させていただく場合は、よろしくお願いいたします。

田園ラグビースクールで 得られたこと

平成16年度卒業(中学部)

山内 遼太郎國學院久我山高校卒業
大阪体育大学ラグビー部所属

私はもともと大阪出身で、小学校卒業と同時に父の転勤のため横浜市に引越してきました。関西から関東への引越しというのは不安だらけでしたが、どこへ行ってもラグビーがしたいという思いから、田園ラグビースクールに入ることを決めました。そうすると青木コーチや慶応大学の仲宗根であったりと、体の大きな選手がたくさんいる中、不安がっている私をお調子者たちが元気付けてくれました。このチームに馴染むのに時間はかからず、練習後によくみんなでセンター南駅で遊んでいたことが印象深いです。ラグビーはチームスポーツなので、練習時のみならず練習後にも一緒に時間を共有できたことは、県大会優勝におおきく関係があると、今になって気づくことができました。

大学で勉強して気づいたことがあります。それは成長期である中学生時に練習して習得した技術などは、高校、大学でも自分のプレイスタイルやプレーをする際に基盤になっていることです。私のプレーに関して言えば、FW、BKのどちらも経験した結果から、密集での仕事であったり、ハンドリングやランニングスキルが高いことを売りにしているプレーヤーで、サッカーをしていた経験からもコンバージョンキックを蹴ったりもしていました。コンバージョンキックは私の一番好きで自信を持っていたプレーなので、接戦であればあるほど、ボールをセットしてからの独特な雰囲気と緊張感がたまらなく好きで、試合を楽しんでいました。この楽しむということが大切で、好きでラグビーをし

ているのだからどのようなきつい練習も、試合で楽しめるためなら頑張れるといった気持ちで取り組むことが大切になってくると思います。このような気持ちで私は田園ラグビースクールで練習でき、高校、大学とプレーすることが出来ています。

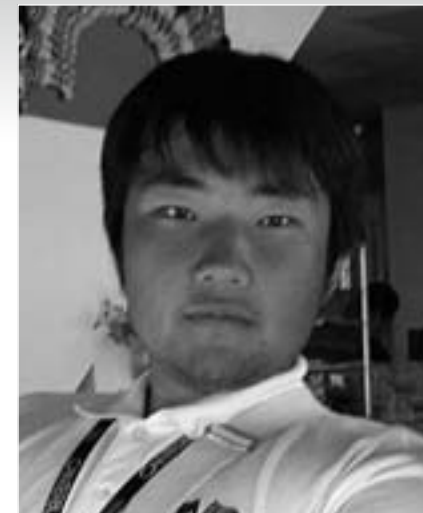
コーチの皆様には大学選手権でプレーしている姿を見ていただくことで、お礼をしなくてはいけないと思っており、昨年はお見せすることができたのですが、今年は怪我のため見ていただくことが出来なくなりました。また違った形でお礼することができればと思います。

スクール生の皆さんは、これからもっとラグビーを楽しんで高校、大学、社会人、日本代表と夢をつないでいてもらいたいと思います。(真面目)(努力)この2つが皆さんのラグビーや自分自身が向上していくための近道になります。私自身が真面目とは言いませんが、体重を増やすことに努力した結果、中学時50kgだったのを現在には105kgまで増やすことができました。こうした努力というものは、結果として出てきて報われるものだと考えているので、スクール生の皆さんも何か1つ、ラグビーとは関係のないものでも良いので努力し続けてみてください。それは絶対に自分にプラスになって返ってくるものなので、自分のために頑張ってみて下さい。

大阪から田園ラグビースクールを応援しています。

ラグビーの痛みを知り、 辛さを知り、本当の楽しさを知った

平成16年度卒業(中学部)

青木 大輔向上高校卒業
田園ラグビースクールコーチ

田園ラグビースクールOB、現・田園ラグビースクールコーチの青木大輔です。2004年に卒業した田園にコーチとして戻り、こうして田園ラグビースクール20周年を祝えてとてもうれしく思います。

昔は、生徒が今みたいに多くなくて、一学年1チーム程度の人数しかいませんでした。あざみ野の遊水地で、幼稚園から小学生まで一緒に練習ができていたのです。今では考えられないですね。

そんな田園ラグビースクールでプレーしていた当時、実はラグビーの練習が嫌で仕方がなかったんです。きつい、痛い、汚い。そんなことを考えていたのを今でもよく覚えています。そんな私が、今は田園ラグビースクールに戻ってコーチを務めるほど、ラグビーに引かれるようになるなんて当時は夢にも思わなかったでしょうね。今思えば、何度もやめようと思ったのに、どうしても止められなかったのは、当時から何処かラグビーに引かれていたのでしょうか。でも、おかげで痛みを知り、辛さを知り、本当の楽しさを知り、大切な繋がりができました。

本当に、ラグビーを通し人として大きく成長したと思います。

元フランス代表キャプテン、ジャン・ピエール・リーヴ氏はこう言っていました。『ラグビーは少年をいち早く大人にし、大人にいつまでも子供の魂を抱かせる』まさにその通り。ラグビーには痛みや、辛さは付き物。そんな中で、自分

に与えられているポジションでの役割を、精一杯やる。それは、痛みや辛さを知り、自分の役目の重要さき気づく。そこから、責任感や、思いやり、優しさを育てることが出来る。ラグビーは人を成長させる一面もあると思います。

今、田園ラグビースクールでコーチになって感じるがあります。それは、コーチの指導の内容なんです。よく、雑誌やテレビで言われるのは、戦術や、戦略や、スキルアップの方法なんかが多いんですが、田園ラグビースクールは違う。朝の集合で言われることは“あいさつ”なんですね。「今日、ちゃんとあいさつできた？」その言葉を何度聞いたかと思うほど、田園ラグビースクールでは、私生活からの基本を大切にしています。なんだ、そんなことか。いやいやそんなことじゃないんですね。あいさつすらちゃんとできない選手が、試合中の本当に厳しい局面でタックルに行けるのだろうか？ 大事なラストパスを出せるのか？ ゴールキックをちゃんと決められるのだろうか？ 私生活と、ラグビーは関係がないようで、実は関係してくるんですね。そうやって始めて、学校や家で自然にあいさつが出来るようになれば、どんなスーパープレーをするよりも素晴らしいじゃないですか。

今後も、元気がよくてラグビーが大好きな子が、ラグビーを通して仲間を作って、立派に卒業していけるように力を注ぎたいと思います。

田園ラグビースクールの益々の発展を祈っています。

田園の思い出と近況

平成17年度 卒業(中学部)

西橋 勇人
桐蔭学園高校卒
早稲田大学ラグビー蹴球部所属
24年度副将

僕は田園ラグビースクールから桐蔭学園に進学し、今は早稲田大学ラグビー蹴球部で日々練習に励んでいます。

田園ラグビースクールは僕の原点です。僕は父の勧めでラグビーと言うものが、どういうものかを知らないうちにラグビーを始めました。ラグビーといってもボールを持って走り、ボールを追いかけるという運動ですが、それ自体がただただ楽しく、毎週日曜思い出の場所遊水地に向かっていた。

スクールで学んだことは「仲間の大切さ」と「リーダーシップ」です。1つのボールを皆で取り合い、取ったボールを皆で協力して前に運びトライをする。これは1人ではなかなかできないことです。

僕も低学年の頃はボールを持って1人でトライまで持っていくことができましたが、高学年になるにつれて、1人でトライまで持っていくことが困難となり、仲間ですら1つのトライを取ることが必要となってきました。この時期から僕は「仲間」という存在の大きさ、また大切さを学びました。

一方、スクール時代にも僕はキャプテンを務めていて、みんなの前で見本を見せたり、話したり、という普通では経験できないことも経験させてもらい、いつのまにか学年の中心的な役目をさせてもらっていました。

今でも田園の仲間とは連絡を取り合い、今はラグビーをやっていない仲間とも思い出話やラグビー談議に花を咲かせ、特別な時間を共有し

ています。

その後、僕はスクールの仲間3人と桐蔭学園に進学し、ラグビーを続けました。高校3年でもキャプテンをさせてもらいました。高校ではその責任の重さの痛感と同時に、周囲で支えてくれる人達がいかに大切かを実感することができました。競技自体の戦績は決してよくはありませんでしたが、キャプテンという重責を背負った1年間は、僕を一回りも二回りも成長させてくれました。

今は大学に入り、非常に高いレベルの仲間達に囲まれ、切磋琢磨の毎日を送っています。大学3年になった今、「委員」というチームの中心メンバーの1人に入り、120名を超えるチームをまとめているキャプテンのお手伝いをしています。僕は大学時代の仲間の上に立つキャプテンにどれだけ役にたっているかはわかりませんが、小中高時代の経験は大いに生きていると思っています。

大学生活も残すところ1年と僅かになりました。スクール時代に学んだ「仲間の大切さ」と「リーダーシップ」を生かし、自分の学年でも必ず日本一になれるように全力を尽くしたいと思います。

僕をここまで成長させてくれた田園ラグビーに心から感謝しています。現在、スクールで頑張っている皆さんにも、もっともっとラグビーを好きになってほしいと思っています!! そしていつか、僕も田園ラグビースクールに戻ってきたいと思います。

人生の自慢

平成17年度卒業(中学部)

迫田 泰英
桐蔭学園高校卒業
立教大学体育会ラグビー部所属
24年度主将

大学3年生になった現在もラグビーを続けている私が初めてラグビーボールに触れたのは、小学2年生の秋でした。もちろん、初めて田園ラグビースクールを見学に訪れた時です。場所は、今も練習場所となっている江田の中学校予定地です。初めて触れる珍しいボールを抱えて必死に走ったのを、今でも覚えています。その日から私はラグビーの虜になり、今でも毎日必死にラグビーに取り組んでいます。

田園ラグビースクールでの生活で特に思い出として記憶に残っているのは、毎年恒例の夏合宿と、小学6年生の時の府中ラグビースクールとの練習試合です。今ではつらい時もある夏合宿ですが、当時は楽しさしかなく、全国各地のラグビースクールとの練習試合、宿舎でみんなと食べるご飯など、3泊4日の合宿が毎年あったという間でした。

府中ラグビースクールとの練習試合は互いに負けたことがなく、その時の負けられないという気持ちを鮮明に覚えています。すでに県大会優勝を決めており、田園ラグビースクールを無敗のまま卒業したかったので、試合前は県大会の時より緊張しました。試合が始まりすぐに先制トライを取ることができ、最後に1トライ取られたものの結果は完勝でした。

こうして私は小学校時代の試合を全て勝つことができ、人生の自慢を1つ作ることができました。この記録はお世話になったコーチ達のご指導、チームメイトの存在、両親の支えのおかげです。今でも感謝しています。

現在私は立教大学でラグビーを続けています。先日行われたAグループ復帰をかけた入れ替え戦では無事勝つことができ、来年度はAグループで戦えることになりました。その試合にコーチが応援に来てくださり、試合後には違うコーチから祝福メールをもらいました。

大学生になった今でも、小学生の時のコーチと関係が続けられていることがとても嬉しく、この文章を作成しながら田園ラグビースクールに入って良かったと、今、改めて思っています。いつになるかはわかりませんが、いつかは子供達にラグビーを教える立場として田園ラグビースクールに関わりたいです。



左から3番目

時に厳しく時に優しく

平成17年度卒業(中学部)

高野 裕平

法政大学第二高校卒業
法政大学体育会ラグビー部所属

左から長縄、迫田、高野

この度は、田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます。

私は平成17年に田園ラグビースクールを卒業して、現在法政大学ラグビー部に所属しています。2011年は大学選手権に出場したものの1回戦で敗退してしまいました。私は度重なる怪我によって、試合に出場することができず、不本意なシーズンとなってしまいました。ですから最終学年である今年こそは、試合に出場して大学選手権優勝を目標に頑張っていきたいと思っています。

私のラグビーを始めたきっかけとなったのが田園ラグビースクールであり、小学校1年から中学校3年までの9年間お世話になりました。田園ラグビースクールでは週に1回の活動だったのですが、ほとんど休むことなく練習に参加させていただき、ラグビーの基本をしっかりと学ぶ

ことができました。またコーチの方々には、時に厳しく時に優しく、また熱く接していただき、ラグビーを通して、様々なことを教えていただけたと思います。

団体スポーツであるラグビーを通じて、仲間たちと共に1つ目標に向かって頑張るという、貴重な体験をさせていただき、人間としても大きく成長できたことをとても感謝しています。

田園ラグビースクールで過ごした日々はかけがえのないものであり、一生の思い出となりました。そして、この経験を社会に出ても生かしていければと思っています。

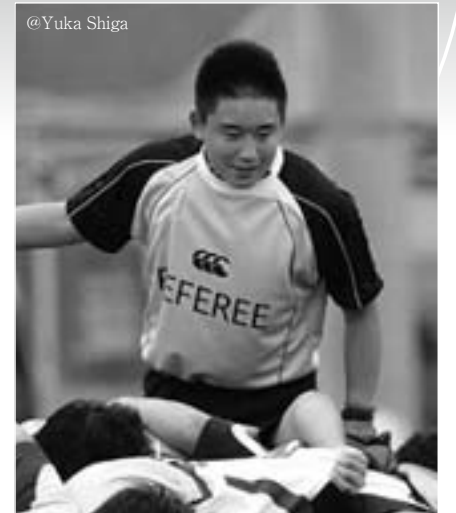
私の心のふるさと、田園ラグビースクールのますますの発展を祈念しています。



ラグビーがあったから

平成17年度卒業(中学部)

須藤 惇

桐光学園高校卒業
帝京大学学友会ラグビー部所属

なぜ、自分は、日本一を目指す集団の一員となれたのか。

…ラグビーがあったからである。ラグビーを好きだったから。

今の自分は、ラグビーがあったからこそ、ここにいる。

なぜ、ラグビーが好きになったのか。なぜ、ここまでラグビーに関わっていただけるのか。

ラグビーの素晴らしさに気付かされたからである。

喜び、仲間…。

ラグビーをしていれば、悔しいことはたくさんある。だが、悔しさを上回る感情を田園ラグビースクールで教わったからこそ、今の自分はラグビーに関わっていただけるのだと思う。

例えば、人生「初」トライ。今でもはっきりと覚えている。相手DFを二人交わし、トライをした。寒い中、応援に来てくれた父・弟。その日は、両親の結婚記念日だった。最高のプレゼントだ、と両親が喜んでくれた。トライをしたことよりも、そのことが嬉しかった。

例えば、仲間。中学生のときに選ばれた神奈川県選抜、そして一貫プロジェクトの仲間。今でも、会えば必ず話をする。仲間がいる良さを初めて感じたのは、高校生になってからだった。それまで同じチームでプレーし、毎週末に会うのが当たり前になっていた顔。だが、高校に上がると、当然会うことはなくなる。だが、高1の菅平で歩いていた自分に「おい、じゅーん！」と走っていたバスの中から呼びかけてくれた仲間

がいた。嬉しかった。一緒に戦った仲間だからこそ、分かり合えるものがあると信じることできたし、そこには、絆があったと思う。

絆ができていく過程は勝利につながり、喜びになる。

喜びを作り出すことができるのが、ラグビーというスポーツの素晴らしさだと身をもって知ることができた。

人生での大切な感情をたくさん教わったのも、ラグビーをしていたからだし、田園ラグビースクールにいたからだと思っている。そして、その場所はたくさんの方々の思いで成り立っている。

感謝。

高校に上がり、最初にしたことは、「道具は自分たちで持っていくこと」だった。ラグビースクールのときは、コーチが車に積んで持っていかけていた。自分たちがラグビーをする環境を整えてくださっていたコーチ陣、保護者の皆様、そして家族に、心の底から、感謝している。本当に、本当にありがとうございました。

自分の夢は2つある。1つはワールドカップである。2つ目は、日本中で、ともに戦った仲間たちの試合で笛を吹きたい。そのために日本でトップレフリーになりたい。夢に向かうことができるのも、これまで関わってくれた方々の思いがあることを感じている。夢の舞台に立つことが、最大の恩返しになると信じて、ただひたすらに走るのみである。

田園ラグビースクールの思い出

平成17年度卒業(中学部)

長縄 由彦
目黒学院高校卒業
関西学院大学体育会ラグビー部所属

スクール創設20周年おめでとうございます。

私は小1の時から中3まで約8年間お世話になりました。スクールを卒業して約6年が経ちましたが、私が今日までラグビーを続けていられるのも、田園ラグビースクールで基本の基本を徹底して教えていただいたからだと思っています。ボールを両手で持って走ること、キックを蹴らずに前につなぐこと、ミスをしてタックルで取り返すなど、高校から大学とレベルが変わっても基本が変わりはありませんでした。

スクール時代にはたくさんの思い出があります。小2の時はひたすらタックル練習をしたこと、小3から小6までの公式戦で一度も負けなかったこと。そして、小6の時のメンバー16人全員が対外試合でトライしたことが一番印象に残っています。メンバーの迫田くんのお父さんが全試合をビデオ撮影してくださり、小6の卒業する前に16人全員の代表的なトライシーンを見せていただき、大いに盛り上がっていたことを覚えています。私も、自分のトライよりも、ボールをつないで皆の力でとったトライシーンに感動しました。ですから、メンバー全員がトライをして卒業できたことが一番の思い出です。

正直言って、ラグビーは痛くてつらいスポーツです。私はスクールに参加した最初の日に、1年先輩の大きなお尻につぶされて泣いてしまいました。それでもコーチの皆さんが優しく励ましながら指導してくださり、そのうちにタックルができるようになり、トライもするように

なり、ラグビーの真の面白さを知ることができました。

ラグビーには怪我が付き物です。小さな怪我はよくありますが、大きな怪我はつらいものです。私の場合は、中学3年と大学1年の2回、左膝の前十字靭帯を切断し、それぞれ約1年間をリハビリで棒に振りました。最近も脳震盪や、小さな怪我が続き、約2ヶ月の戦線離脱を経験しました。ラグビーボールを持って走れないことは、本当に辛いです。なので怪我をしない身体作りをすることが非常に大事で、入念な準備と細心の注意が必要です。

最後に、ラグビーの素晴らしさは何と言ってもし真の友人ができることです。1つのボールにかける連帯感が無二の友情を生み出してくれます。私もスクール、高校、大学とラグビーを通じて数多くの友人を作ることができました。また、関西の大学に来れたことで関西より西の出身の多くの友人ができました。全てはラグビーのおかげです。私自身、大学体育会でのラグビーがあと1年になりました。最後の1年を悔いのない1年にするために頑張っていきたいと思います。

これからも田園ラグビースクールの発展と、関係者皆様のご健勝を心よりお祈りします。ありがとうございます。

2003~2007

20年のあゆみ 歴代統括コーチ

霧と雨の夏合宿

平成15年度～16年度 統括コーチ

平成17年度～19年度 副校長

金津 文貴


- 古澤 陸
- 山谷 大樹
- 机元 雄介
- 宮澤 尚人
- 西橋 誠人

田園ラグビースクールも20周年を迎えることになりました。私も保護者およびコーチとして、約15年にわたりお世話になっております。その間、統括コーチや副校長といった重い役割も任せていただきました。私ごときでは力不足ではありましたが、校長はじめコーチスタッフの皆様、ならびに保護者の皆様の暖かいお力添えをいただいて何とかやってこられたと、今でも感謝の気持ちで一杯です。

今思えば、私が統括コーチを行っていたのは2003年～04年で、この頃は生徒数も少なく、のんびり、ほのぼのとした時代でしたので、私でも統括が務まったのだと思います。当時は夏合宿も参加生徒数は100名程度で、バスは3台あれば余裕がありました。宿舎のまるみ山荘に、貸切で使わせて欲しいとお願いしても「人数が少なく空き部屋ができるから嫌だ」と言われ、「そこを何とか」とお願いしていた時代です。今では考えられない時代でした。

私が統括時代の夏合宿と言えば、霧と雨の夏合宿を思い出します。合宿初日に菅平に向かう途中、菅平湖のあたりから霧で視界が悪くなってきました。宿に到着し、とりあえず雨ではないからと練習を強行したのですが、霧がひどくて2m先は何も見えない状態。そのうち霧が雨に変わってしまい、散々なことになりました。あの時、風邪をひかせてしまった子供達には本当に申し訳なかったと思っています。それでも息子に聞くと、当時は練習の合間にスイカを食べたり、お土産を買いに行った帰りにみんなで

アイスを食べたり、練習は厳しかったけど、まったくとした時間があって楽しかったようです。

また、非力な私を見かねてか、県下の他のスクールさんにも様々な形で随分と助けていただきました。本当に感謝しております。有難うございました。

その田園ラグビースクールも今では神奈川で一・二を争うマンモススクールになりました。少子化の時代に生徒数を拡大してこられたスタッフや保護者の皆様の並々ならぬ努力の結果だと思います。また、その運営を行っている校長・統括のご尽力と保護者の皆様のご協力には本当に頭が下がります。

実は以前、私も田園での役割は終わり、コーチを引退しようと思った時期があります。しかしながら、今では高校・大学・社会人等で活躍している、昔自分が教えていたスクール卒業生達が時々グラウンドに遊びに来てくれるのが嬉しくて、時間と体力が許す限り、グラウンドには顔を出し続けようと思うようになりました。

また、青木大輔君や矢崎ちひろさんのようにスクール卒業生でコーチとして戻って来てくれる子達も本当に嬉しいです。なんだか自分がやってきたことが認めてもらえたようだと思いに解釈して喜んでいます。こうした若者達が支えてくれるのですから、田園ラグビースクールの未来は明るいと確信しています。

私も微力ながら田園ラグビースクールの発展に係わり続けていくことができればと願って止みません。

田園ラグビースクール 創立20周年おめでとうございます。

平成18年度卒業(中学部)

古澤 陸國學院久我山高校卒業
明治学院大学ラグビー部所属

「僕は今日、ラグビーを見学しにきたんです。ラグビーをやりにきたんじゃないです」

これが、田園での自分の第一声です。ラグビーの『ラ』の字も書けない当時幼稚園の自分が、突然父親に、遊水地に連れて行かれ、坂の上で西橋勇人君にジャージを手渡された時、自分のラグビー人生が始まりました。なぜ日曜日の朝、戦隊もののテレビを我慢してラグビーをしなくてはならないのか、なぜ周りの友達がやっているサッカーや野球じゃなくラグビーなのか、なんで泥んこまみれになりながら痛いことをするのか、当時の僕はブツブツ言っていました。けれど学年が上がるにつれて、自分はだんだんとラグビーの魅力にひかれていきました。

中学生の時、DAGSの異常なほどの走り込みでラグビーが嫌になり、一時期まったく痛みのない安全なテニスに心を奪われました。その結果、母さんだけが夏合宿に参加するという異例な事態を起こしたりもしましたが、中学3年の時、グループリーグで負けていた横浜RSに決勝リーグで勝ち、DAGSが三連覇した事は今でも糧になっています。

自分は今、明治学院大学でラグビーを続けています。ポジションは小さいながら1番、3番をやっていて2番に挑戦中です。

自分の今の目標は、久我山の同期だったやつと秩父宮で対戦することです。年に一回オフ期間に久我山の同期のやつとラグビーをするのですが、なんでパスがここまで正確に伸びるんだとか、またあいつ足が速くなったとか、驚きやす

ごさで楽しくてしょうがないです。そんなやつらと秩父宮で試合が出来たら最高じゃないですか！ だから自分は明治学院をAグループに上げて、そんなやつらと試合します。そのために毎日精進していくつもりです。

田園で続けていたから、國學院久我山に入ることができ、あの最高の仲間と出会えたと思っています。自分がプレーで悩んでる時、田園に戻るとコーチたちと話ができて、また頑張っている後輩たちを見ると元気が出ます。

泣き虫だった自分を強くしてくれた田園ラグビースクール。仲間の大切さや思いやる気持ちを教えてくれた田園ラグビースクール。勝つ喜びと負ける悔しさを教えてくれた田園ラグビースクール、自分は田園とそのコーチ陣が大好きです。自分も20歳になったのでコーチと飲みにいきたいです。

自分は小学校で楽しいラグビーを知り、中学で厳しいつらいラグビーを知り、高校で上下関係や勝つラグビーを知りました。下手な横好きと言いますが、やっぱりラグビーはやめられません。ラグビーの楽しさを教えてくれた田園のコーチ陣に感謝です。

社会人になって、これでもかってラグビーをしたあと、僕は田園のコーチになろうと思います。先輩方、ご指導をよろしくお願いします。

最後にドロドロなジャージを嫌な顔一つせず洗濯してくれた母さん。10年間、毎週日曜日おれを車で送り続けてくれた親父。あの日、ラグビーに出会わせてくれてありがとう。

創立20周年記念 おめでとうございます

平成18年度卒業(中学部)

山谷 大樹常総学院高校卒業
拓殖大学ラグビー部所属

私はラグビーを始めて今年で13年になります。

田園ラグビースクールにお世話になったきっかけは、兄の影響でラグビーを始めた事です。最初はあまり好きではなかったラグビーですが、今では生活の一部となり、毎日目標に向かい日々切磋琢磨し充実した時間を過ごさせて頂いています。

今思い返すと私のラグビーの原点は田園ラグビースクールにあり、さまざまな方々との深い関わりや、コーチや父兄の方からの指導や愛情に触れる事が出来たと思っています。田園ラグビースクールでの思い出は小学校6年生の時の県大会の決勝戦が心に深く残っています。

当時の対戦相手の横須賀ラグビースクールは



大型のボックスの選手がいるチームで、とても強かった記憶があります。強いチームに対して田園ラグビースクールの6年生が1つになった結果、優勝という最高の成績を残す事が出来た事に感動した事が、中学に進んでもラグビーを続けようと思った大きな理由になりました。

また小学2年生の時に、当時、鬼コーチとして恐れられていた西橋コーチに低いタックルに入るという基礎を叩き込まれた事は、今も私のラグビーに大きな影響を与えていると思います。とても感謝しています。

私は今、関東ラグビー1部リーグの拓殖大学ラグビー部に所属しています。ポジションはCTB、WTBです。まだまだ未熟ですが、リーグ戦の第2戦から出場させて頂き、今は先発として試合に出場しています。これからも練習をして活躍をし、良い成績を残していきたいと思っています。また、これからも田園ラグビースクールから高校大学と活躍する選手が出てきてくれる事を願っております。

田園ラグビースクールの 思い出と近況報告

平成13年度卒業(小学部)

机元 雄介慶應義塾湘南藤沢高校卒業
慶應義塾体育會蹴球部所属

私が田園ラグビースクールに通い始めたのは幼稚園の年長の時で、もう15年近く前のことになります。それから小学6年生までの時期を田園ラグビースクールで過ごしましたが、今となっては、その時の記憶は漠然としたものになっています。しかし、そんな中でも、小学校中学年から高学年にかけてお世話になったコーチの方々が、鬼のように怖かったことが印象に残っています。

その時の練習はとてもきつかったような覚えがありますが、同時に田園ラグビースクールの仲間たちとともに楽しく練習していたことが強く印象に残っています。週一回の3時間ほどの練習時間でしたが、仲間たちと過ごした時間はそれ以上に濃いものだったように思います。特に毎年あった菅平での夏合宿は練習がきつかったのですが、それでもバーベキュー大会などもあり、仲間たちといつも以上に長い時間を過ごすことができたので、毎年楽しみにしていたのを今でも覚えています。

小学校高学年になると他のラグビースクール

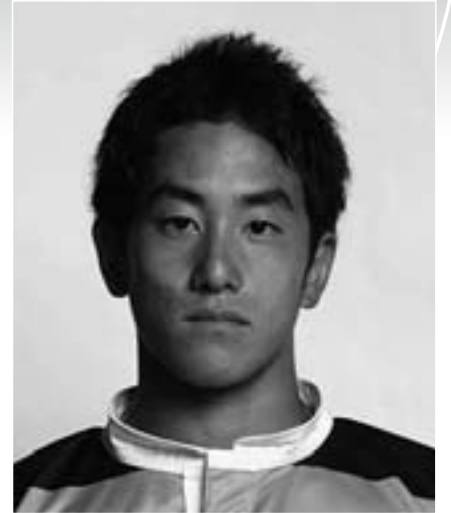


との公式戦も含め、試合をする機会が多くなりましたが、普段きつい練習に取り組んでいた分、勝利した時の喜びはとても大きく、それは大学でラグビーをする今でも変わりません。

私は、父のニューヨーク転勤の影響で、中学・高校ではラグビーから離れていたのですが、現在、慶應義塾大学のラグビー部でラグビーを続けています。高校でラグビーをしていなかったのは大きなハンディキャップですが、それを埋めて上達できるよう、日々練習に励んでいます。こうして中・高でのブランクがありながらも再び大学でラグビーを始めようと思うに至ったきっかけには、田園ラグビースクールでラグビーの楽しさを学んだということがあります。そのため、今の自分があるのは田園ラグビースクールのおかげであるといっても過言ではないと思います。ラグビーの楽しさを教わり、再び大学でラグビーを始めたからには慶應の黒黄ジャージを着て試合に出場できるように、これからも日々努力し、精進していきたいと思っています。

原点

平成16年度卒業(小学部)

宮澤 尚人慶應義塾高校卒業
慶應義塾体育會蹴球部所属

こんにちは。慶應義塾体育會蹴球部(ラグビー部)の宮澤尚人です。この度は田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます。卒業生として非常に嬉しく思うとともに、自分の文章を載せて頂けることを大変光栄に思っております。

僕がラグビーと出会ったのは小学校一年生の秋でした。父がラグビーをやっていた影響で、地元の田園ラグビースクールに体験で行った事が始まりです。当時から西橋君が1～2学年上の練習に参加していて、凄いなと思いつつ、自分も負けてられないと思ったのを覚えています。

体を動かす事が好きだったので、最初はとにかくみんなで楕円球を追うのが楽しく、ラグビーに惹かれていきました。しかし、練習が日曜日の午前中ということもあり、友達と遊びたい、サッカー習いたいから練習を休みたいと思うこともよくありました。そんな中、3年生になると県大会が始まり、神奈川県のようなスクールと試合をするようになりました。田園ラグビースクールからは2チーム出たのですが、僕がいたチームは優勝できず、もう一つのチームは優勝しました。その事がとても悔しく、上手な仲間達に追い付きたい、優勝したいと思うようになり、一気にラグビーにのめりこんでいきました。その結果、4、5、6年生時は優勝することができました。

中学から慶應に入学したのでD A G Sにはあまり参加できませんでした。しかし練習や試合

で久しぶりに顔を出した時は、コーチも仲間も暖かく迎え入れてくれ、嬉しく思いました。

高校生になると、仲間達が色々な強豪校に行ってラグビーを続けました。彼らは常に自分を高め、励ましてくれる存在でした。桐蔭学園へ行った西橋君、高岡君とは同じ県下のライバルとして凌ぎを削りました。国学院久我山へ行った大相君と檜山君、東京高校へ行った小泉君とはよく練習試合で戦いましたし、国学院久我山とは花園でも戦いました。残念ながら負けてしまいましたが、花園のような大きな舞台で対戦出来たことは、自分にとって貴重な良い経験となりました。

そして今、大学でラグビーを続けている仲間がいます。彼らは最高のライバルであり、秩父宮や国立のような大舞台で対戦できる日を夢見て、毎日練習に取り組んでいます。

田園ラグビースクールは自分のラグビーの原点です。熱心に指導して下さったコーチの方々と、保護者をはじめとする様々な方の支えのおかげで強いチームになることが出来ましたし、素晴らしい仲間に出逢い自分は成長してきました。そして、ラグビーの面白さと厳しさ、かけがえない仲間との絆、勝利の喜び、田園ラグビースクールで学んだ全ての事が今の自分の基礎となっています。

今まで支えて下さった多くの方々、本当にありがとうございました。田園ラグビースクールで培ってきたことを忘れずにこれからも努力して参りますので、応援よろしくお願い致します。

田園の思い出と近況

平成19年度卒業(中学部)

西橋 誠人
桐蔭学園高校卒業
明治大学ラグビー部所属

私は田園ラグビースクールでラグビーを始めて、高校は桐蔭学園に進み、高校1年で全国大会ベスト16、2年で準優勝、3年で優勝しました。大学は明治大学に進学し、今は明治大学ラグビー部に所属しております。私がこの様にラグビーの道に進めたのは田園ラグビーのお陰です。

私は当時日曜日の朝、父に遊水池に連れていかれ、それからラグビーというものに出会いました。しかし、最初は誰も友達などおらず、小学校1年生の時は私の一つ上の人達と一緒にラグビーをやっていました。私が2年生になったときに田園に同期が入ってきて一緒に練習出来るようになりました。それからたくさんの楽しいこと、苦しいこと、悔しかったこと、嬉しかったことがありました。

小学校低学年の頃は毎週日曜日が行くのが嫌やで、ほんとにラグビーの痛くてキツイ練習が嫌いで仕方ありませんでした。でも本気でやめるとい気にはなりません。きつと私が意地っ張りやで、逃げるのも嫌だったからだと思います。また父の存在も影響していたとも思います。

高学年になると、どんどんラグビーが好きになっていきました。そして、私がラグビーをやっている中でも強く印象に残っているのが、6年生の菅平での合宿で、これが一番キツくて悔しかったです。

その時のコーチが竹谷コーチで、本当に走らせて走らせて、走らせまくる練習ばかりさせられました。6年生ながら挫折しそうになりま

した。でも、そんな練習を耐えながらも合宿最終日まで全ての試合を勝利していました。しかし、最終日のラストゲームの桐生戦で、最後の最後にトライをとられ負けたのを今でもしっかりと覚えています。たくさん練習したのに負けたことが悔しくて、この時からラグビーで相手には絶対負けたくないという気持ちになり、精神面でも強くなったと思います。

スクールでは、ラグビーを通じて何よりお互いを信じあえる大切な仲間が出来ました。いっぱい笑って楽しんで、たまには言い争いやケンカもし、たくさんの良い思い出が出来ました。スクールは私も含め、いろんな人にラグビーの素晴らしさや練習や試合で仲間どうし声を掛け合ったり、励まし合ったりする大切さを教えてくれたと思っています。このことは、私の中学、高校そして今大学においてとても大変役にたっています。

私は大学では、まだ上位チームに入れていませんが、田園ラグビーで培った負けない気持ちで日々一生懸命努力することを忘れず、一日でも早く上位に上がり、対抗戦や大学選手権に出場したいと思っています。そして大学で活躍しているところを今いる田園ラガーに観てもらい、「誰にだって懸命に努力をすればできる！」

この舞台に立つことができる！」という希望を持ってもらいたいと思っています。そして田園ラガーにもっとラグビーを知ってもらい、もっとラグビーを好きになってもらえればと思っています。

2005~2007

20年のあゆみ 歴代統括コーチ

過去と未来の真ん中で

平成17年度～19年度 統括コーチ

平成20年度 副校長

竹谷 誠


- 杉森 美智子
- 浅沼 美和子
- 机元 雄介
- 高橋 美穂
- 片野田 美加

ずっとずっと先の日曜日の練習後に、若きパパコーチがふと立ち寄ったクラブハウス『パティオ』で、何気なくこの記念誌を読んで欲しいな…。パティオの片隅に置かれたこの記念誌が、そんなパパコーチに「持って帰って読んでみよう」なんて思われたら、もっと嬉しいな…。その時のスクール関係者たちに、今のこのみんなの熱いメッセージが上手く届けばいいな…。そして今を取り巻くこの空気が、その人の心の中に違和感なく入っていけばいいな…。そうだとしたら、このスクールを司る多くの人たちの汗や努力が実りあるものになっているということだろうから…。文章に出来ることや、言葉に出来ることが変わっても、その中に流れるみんなの「あ・うん」が変わらなければいいな…。コーチとコーチだったり、父兄とコーチだったり、父兄と父兄だったり。本当に大切なものは文章にならず、言葉に出来ず、何となく奥の方から染み出してくる。そんなものだろうから…。いつまでも「あ・うん」で伝わるそんなスクールだったらいいな…。

子供たちの瞳が発する綺麗なエネルギーに、何度心が洗われたことだろう。他愛もない父兄との会話のなかで、わが子を思う強い思いをどれだけ心地よく感じられたことだろう。菅平の空はどこまでも青かったし、星はいつもキラキラしていた。遊水地の周りの土手是我が子を見守るには最高のスタンドだった。ハーモスの雑草は国立より、秩父宮より、みんなにとっては素敵な芝生だった。魚民のビールはどんな店の

ビールより美味かったし、先輩コーチの一言は外国人コーチのビデオより役に立った。漫才の舞台を照らすヘッドライトは難波グランド花月のそれより眩しかった。そんな時間をたくさんたくさん通り越して、どんどんと未来へ流れていく。

数年後コーチを辞めてから、それからもっともっと時間が経ってから、知っている人がみんななくなってから、ふらっと練習を見に行ってみたいな。元気なラグビー小僧たちがグランド一杯にたくさん溢れて、ラグビー面した熱血コーチが一生懸命教えていたら楽しいな。コーチの中に立派に成長した教え子たちがいたりしたら、もっと嬉しいかな。ちょっと恥ずかしいから、見つからないように、やっぱりキャップは被って行こう。

その時に胸に去来すること…。素晴らしい仲間と出会えた幸せ。素晴らしい生徒たちと巡り合えた喜び。真面目に議論したあの日、バカ騒ぎをしたあの日、彼等の悔しそうな顔、彼等の嬉しそうな顔、みんな凄く充実していた、そんな輝く今日この日のことなのだろう。そうだ。帰り道に誰か昔の仲間に電話しよう。待ち合わせまでちょっと時間があったら、パティオに寄って時間を潰したいな。この記念誌でも読みながら…。 2005年から3年間統括をやらせて頂きました。多くの方に支えられ大過なく終えることが出来たと思います。お世話になりましたすべての皆様に心から感謝いたします。さあ、未来に向かって…。

感謝を込めて

杉森 美智子

杉森 健太郎 平成20年度(中学部)卒業



菅平はその日、バケツをひっくり返したような突然の豪雨にみまわれ、グラウンドにいた全員急ぎテントの中に避難しました。雨はなかなか止まず、寒さの中でどうなるのか少し気がもめてきた頃、ぎゅうぎゅうのテントから何故かコロコロ…とあの楕円のボールが雨の中に転がりで行きました。あらっと思っていると、笑い声の中、誰かがザザザーッという水しぶきを上げながらボールめがけてスライディング！キャッチ！…どっと上がる歓声。彼がボールを大事そうに抱えて走り帰ると、ちょっと間をおいてまたコロコロ…。今度は別の誰かがザザザーッ。やんやの歓声。拍手。そしてまたコロコロ…。ひとり、またひとり。転がしているのはおそらくあのMコーチでしょう。けむりが上がるような土砂降りの中、わあわあ盛り上がって、それは心から楽しいひと時でした。男っていいな～、こんな仲間やコーチに囲まれて良かったな～。素敵な経験ができて良かったね、と親として胸が熱くなりました。

今、花園に出るのが当たり前の使命をもった厳しい高校のラグビー部で練習しているわが子、健太郎が、ある日私にぼつりと「俺はラグビーの楽しさを知っている。だけど高校からラグビーを始めたやつらは知らないかもしれない」。その言葉を聞いた時に母として、私が思い出したシーンは、実は雨の中のあのスライディングシーンでした。

学年が進むにつれて、毎週末共に練習する仲間との絆も深まっていき、友情も育み、徐々に

「この仲間で勝ちたい。いい試合をしたい」という意識が芽生えて苦しい練習にも耐えていける力がついていったように思います。親たちも、どの子も小さな時から見ているので、わが子と同じように思うようになっていきました。

その中で、コーチの皆さまはもしかしたら親よりもしっかりと、また客観的な視線で子どもの資質と成長とを熱意を持って見守ってくださいました。

6年の時にはキャプテンをおおせつかり、それは本当に周囲のみなさま全員のお力で何とか終えた感がありますが、記念すべき「スクール歌」初披露のために、出だしを親子で何度も練習したのも楽しい思い出です。

そしてなんといっても卒業タックル。お兄さんたちの卒業タックルの間しゃがんで砂に字を書いていたあの子たちが、こんなタックルを…と思うと感無量の思い出です。

中学に入ってから健太郎は一つの山にぶつかり、一時はどうなるのかと思った時がありました。それを自分でみごとに乗り越えて今日があるのは、本当にラグビーと、仲間と、コーチの皆さまと、わが子のように見守って下さる父兄のみなさま、そして田園での経験のおかげではなかったかと思っています。

最後に淡い母の夢は、いつかあの子たちが一緒に田園のコーチを手伝っている姿を見ることでしょうか。

20周年、本当におめでとうございます。そしてありがとうございました。

田園ラグビースクールで 過ごした年月をふりかえり

浅沼 美和子

浅沼 北斗 平成20年度(中学部)卒業

浅沼 陸 平成23年度(中学部)在籍中



早いもので、田園ラグビースクールにお世話になり、12年も経ちます。

現在高校3年生の長男が小学1年生の時からお世話になっていますが、当時といえば、サッカー人气が絶大、同年代の男子のほとんどが、とりあえずサッカーチームに入っていたように記憶しています。

そんな中、あえてラグビースクールに入れるのですから、親がラグビー経験者、またはラグビー好きなど、余程のこだわりがあつてのことと思われるかもしれませんが、息子にラグビーをやらせた理由は「ラグビーなら多少ポッチャリしていても大丈夫かもしれない…」という何とも安易な理由でした。

そんな、ラグビーの「ラ」の字もない私が、息子達と毎週日曜日はグラウンドに通うようになったわけですが、入会動機はさておき、田園ラグビースクールを選んで間違いはなかった！と思ったのはもちろんのことです。

田園ラグビースクールでは、挙げればきりがなくたくさん大切なことを教えていただきました。2人の息子は田園ラグビースクールに育てていただいたと言っても過言ではありません。あれだけたくさん大人の関わっていただきながら、成長できる場所はなかなかありません。田園ラグビースクールのコーチ陣といえば、非常に個性豊かな面々ですが、共通しているのは、子ども達への愛情、熱く厳しく、常に前向きに全力で向き合ってくださいる姿でしょう。

4月に今年度のコーチが発表されると、

「えー！」「やったー！」と、子どもたちが勝手なことをワイワイ言うのが毎年恒例ですが、そんなスタートから、合宿、県大会シーズンを通じて、仲間同士の結束が固くなるのはもちろん、子ども達がコーチに向ける眼差しが絶対的に信頼している表情に変わっていく様子が、とても印象に残っています。そういう経験ができたこと、信頼できるコーチの皆さんに育てていただいたことに、親としてとても感謝しています。

田園ラグビースクールを卒業すると、ラグビーを続ける者も、それぞれが違う進路に分かれていきますが、その軸はスクールで育てていただいたものですし、その軸があるからこそ今があるのだと思います。また、違うことで頑張っていく者も、ここでの経験は必ず生きていると思います。

最後になりますが、田園ラグビースクールという子ども達の成長の場を作ってくださいった赤間校長、また、ご尽力いただいたコーチの皆様方に心よりお礼申し上げます。

創立から20年を経て、田園ラグビースクールは少しずつ変わってきているでしょうし、この先も世代の変化で変わっていくことが必要な部分もあるかと思いますが、これからも変わらずに、熱く厳しく、そして「うるさいこと」もちゃんとってくれるスクールであってほしいと思います。

田園ラグビースクールの増々の発展を願っております。

駿と団の話

高橋 美穂

高橋 駿 平成21年度(中学部)卒業
高橋 団 平成20年度(小学部)卒業



我が家は、長男(駿)が小1から中3、次男(団)は、幼中から小6まで田園ラグビースクールにお世話になりました。週末には、家族揃ってグラウンドに通い、練習後は、行きつけのお蕎麦屋さんで昼食、デザートは、駅前のアイスクリーム屋さんでダブルアイス…懐かしく思い出されます。

駿は、線が細くヒョロヒョロプレーをするので、「柳腰の駿」と呼んでいました。小1の頃は、試合に出ても一度もボールに触れず両手を前に組んで、あっちヒョロこっちヒョロ…。

そんな駿の初トライは、小2の夏合宿。センターの仲間が上手く相手を引き付け、ノーマークになった駿にパス、両手でしっかりとボールを持ち、死にそうな形相で右サイドを走り抜けた姿は忘れられません。「中学ではラグビーはやらない」と言っていた駿ですが、仲間や、我が子のように可愛がってくれた保護者の皆さんに背中を押されDAGSでプレーすることになりました。「気持ちがあればチャンスは掴める！」という先輩のお母様の言葉に励まされ、中3では花園ラグビー場での全国大会に出場！ 現在、高校2年生。「彼女欲しいよな～」と呟きながら、ラグビー漬けの毎日です。

一方、団は、幼稚園時からどんな大きな相手にも怯むことなく果敢にタックルしていく凄い男でした。悔しいことがあると壁に向かって涙を流し、合宿のコーチ部屋では腹芸を披露する、将来凄いラグーマンになることが容易に想像できるような子供でした。しかし、県大会に出場

し始めた頃から、段々と週末が近付くと溜息を洩らすようになり、「上手く出来ない」という言葉が口から出るようになり、ある日、私から「少しラグビーから離れてみても良いんじゃない？」と切り出しました。すると、「途中で辞めることは出来ない」とポロポロと涙を流し、「卒業までは続ける」と。団なりの筋の通し方です。家族皆でそんな団の気持ちに沿うように見守る週末となりました。

そして、なんとか無事に迎えた卒業タックルの日、兄弟揃って大変お世話になった上田コーチ、幼稚園の頃から可愛がってくださった竹谷コーチに力一杯のタックルをさせていただきました。「あ～終わった～」と高橋家全員が思った瞬間でした。

田園ラグビースクールの思い出は、楽しいものばかりでない所が好きです。心に刻まれた全てが私達の宝物です。今も、我が愚息共のように泣いたり、笑ったり、苦しんだりしているスクール生が大勢いると思うとワクワクします。皆、大切な宝物を胸に成長していくのですね。

このような、子供の成長に大きく関わるスクールを創設してくださった赤間校長、愛を持って指導にあたってくださいさるコーチの皆さん、大所帯のスクール生の事務処理をしてくださる事務局の方。感謝の気持ちで一杯です。今後も、胸に宝物を沢山抱えた田園ラグビースクールの子供たちが、それぞれのフィールドで最高の自分を演じてくれることを楽しみにしています。

ラグビーとの出会い

片野田 美加

片野田 大輝 平成18年度(小学部)卒業
片野田 将 平成21年度(小学部)卒業



ラグビーがこんなに素晴らしいスポーツだということを、田園ラグビースクールを通してはじめて知ることができました。

長男が2年生、次男が年少さんの時からお世話になり、息子たちの成長とその思い出は、田園ラグビースクール抜きでは語ることができません。

幼稚園時代のママ友(上田コーチの奥様)から、ご主人様がコーチをされているラグビースクールの2年生の人数が少ないので、一度見学に来て、とお誘いを受けたのがきっかけでした。当時おとなしかった長男は、きっと嫌がるだろう…正直、私自身も、いつもドロドロで汗まみれ、痛そうなタックルをするラグビーをさせることには、それほど乗り気ではありませんでした。しかし、予想に反して長男は、やってみたいと言ったのです。それが我が家とラグビーとの出会いでした。(上田夫妻には、とても感謝しております。)

入校したものの、内気だった長男は、なかなか馴染めず、練習を嫌がるようになった時期もありました。そんな息子をいつも温かく見守り、励まし、受け入れてくださったコーチの皆様や同級生の仲間達のお陰で、卒業まで続けることができました。そしてラグビーを続けることで、自分に自信を持つようになり、卒業後も中学、高校とラグビー部で活動が続けております。

次男も中学のラグビー部の傍ら、時間のある日曜日には、練習のお手伝いに参加させていただいております。思春期の難しい年頃の息子も、

温かく迎えてくださるコーチの方々や田園の後輩のみんなとの練習は、本当に楽しく、居心地の良い空間のようです。

スクールで学んだラグビー精神とラグビーでつながった絆が、彼らの人生の中で、大きな支えとなるに違いないと感じています。ラグビーというスポーツを通して、コーチの皆様から、子供たちから、父母の方々から、本当に数々の感動をいただきました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

少子化の中、発展するスクールには、理由があります。赤間校長先生の高い志、コーチの皆様の人間力の高さ、情熱、指導力、愛情…、それをサポートする父母達の献身…、ラグビー精神に基づく絆で結ばれた人々が集うラグビースクールです。そんな大人たちに見守られ、指導を受けることができた息子達は本当に幸運でした。

そして、私自身もその場に立ち会えたことに、とても感謝しています。

スクール設立20周年を迎えられ、田園精神を継承し、ますます素晴らしいスクールへと発展されることを祈念いたしております。

最後になりましたが、田園ラグビースクール関係者の皆様、お世話になったすべての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

2008~2012

20年のあゆみ 歴代統括コーチ

親子三代田園ラグー

平成20年度～23年度 統括コーチ

永田 雅人



●須藤 章
●松山 隆幸
●大西 秀紀
●山同 建
●守安 博章

「もう一回ラグビースクール(RS)を始めるぞ」。

父(故人)が意気揚々と話していたことを思い出す。私がか社のラグビー部グランド横の独身寮で生活をしていた頃なので、言われてみれば20年前。当時、半年に一度くらいしか実家に帰宅しない息子に、久しぶりに会って最初の一言がこれであった。余程嬉しかったのだろう。クラブハウスも出来るので、家にある記念ネクタイもブレザーも全部持っていくと言う。これ等は筆筒の肥やしとなりつつあったので、ネクタイ自身も、タンスに新しいスペースを確保した母も大喜びであったろう。聞けば、ラグビー協会役員仲間の赤間さんが始めるRSを、田園都市沿線の役員仲間達で手伝うのだという。

少し遡るが、私は物心付いた時から、大学ラグビー部監督であった父親に、毎週グランドで放置(笑)されていた。夏休みは毎年毎年、菅平高原で大学生の「ランパス見学」の日々であった。ことほどさように、我が子よりもラグビー中心の父であったが、私が小学6年の3月に「ラグビースクールに入りたい」と言い出してから、その父子関係は一変した。私が東京RSに入ると同時に、父もそこでコーチになった。

いきなりの師弟関係であった。東京代表チームでは監督と主将の関係も経験した。そして父は、私がRSを卒業してからもずっとコーチを続けた。しかし、東京RSが「少年ラグビーの普及」という当初の役割を終え、発展的に解消した後は、時々来日する外国チームの引率以外は、

所在のない週末を送っていた事と思う。そこに赤間校長から声を掛けて頂き、正に渡りに船であったことだろう。その頃から実家の車には常に少年ラグビー用品が載っているようになった。夏休みには子供たちと夏合宿に行っているという。それはそれはイキイキした時間であったと思う。

そして今から9年前、私は愚息が3歳になったのを機に、35歳で会社のラグビー部を引退し、愚息と一緒に田園RSのお世話になることになった。孫が田園RSに入ると伝えた時、父は既にコーチを引退していた。グランドにもご無沙汰をしていた様である。しかし、これを機にグランドにも顔を出すようになり、期せずして「親子三代、田園RSのグランドに田園ジャージを着て同時に立つ」幸せな日々が続いた。

そんな父も、田園RS15周年記念試合で孫のプレーを観戦した後に入院し、他界した。私も9年間コーチをやらせて頂いている。愚息には細くても長くラグビーを続けて欲しい。そして、もし一つだけ叶うのであれば、彼が現役を引退した時には、田園RSの「三代目永田コーチ」になって欲しい。コーチジャージの背番号、父は17番、私は86番。彼がコーチになる頃、何番まで行っているのだろう…。

20周年に「我が親子三代」の思い出話。何とも相応しくございませんがご容赦くださいませ。そして、今後も益々、田園RSをご指導・ご支援賜りますよう、皆様方には宜しく願いを申し上げます。

田園ラグビー
スクールよ永遠に！

須藤 章

須藤 空良 平成23年度(中学部)在籍中



息子：「なんか気持ち悪い。」

母：「とりあえずグラウンドには行きなさい！」

息子の空良が小2になるくらいまでは、我が家の日曜日の朝の日常でした。もともとはラグビー好きの私が息子にラグビーをやらせたくて、年中の頃から田園ラグビースクールに入らせていただいたのですが、最初の内はなかなか慣れることができなかったようです。

そんな息子も現在中3となり、立派に(?)キャプテンまで務めさせていただけるまでに成長しました。幼少の時の姿からは思いもよらなかったことです。兄の姿を見て、自分もラグビーをやりたいと、年少から田園ラグビースクールに入った娘の風子は、残念ながらコーチの皆様にも遊んでもらうのは楽しかったようですが、ラグビー自体にはなじみず、1年で辞めてしまいました。しかし、今でもグラウンドに行くと当時のコーチに親しげに話かけていただけるのを喜んでおり、貴重な思い出として心に残っているようです。

我が家では良く連れ合いと話をしますが、昨今、子供たちは親以外の大人と関わる機会がとてま少なくなっています。そんな中で、コーチ陣が子供たちに真剣に対峙して、あいさつの重要性や周囲への感謝を説き、時には子供たちの行動を怒鳴りつけてくれる田園ラグビースクールは、子供たちにとって貴重な成長の場になっているのだと思います。

勝利至上主義に偏らない今の方針も、是非そのまま続けていただければと思います。これも

我が家で良く話すのですが、もし田園ラグビースクールが小学生の頃から上手な子を優先するようなスクールであったら、息子は今ラグビーを続けていなかったと思います。少なくとも小3の頃までは、どちらかというチームの足を引っ張っているような選手でしたから。今後も、多くの子供たちが田園ラグビースクールでラグビーを楽しみ、ラグビーを通じて成長していくことを願います。

私も、息子が小5の時と、中3の時に父兄ヘッドとして、わずかながらスクールのお手伝いをさせていただきました。合宿・県大会・日常の運営とコーチ陣や事務局の宮下さんには本当に頭が下がる思いでした。どんどんスクールの規模が大きくなり、運営も大変さを増しているとは思いますが、今後もよろしく願いしますという気持ちでいっぱいです。

息子も娘(在籍は短かったですが…)も田園ラグビースクールで大きく成長させていただきました。今の私のささやかな(?)夢は、このまま息子がラグビーを続けて、田園ラグビースクール30周年の時には、コーチ陣の一人としてそこに名を連ねていることです。

田園ラグビースクールよ永遠に！

田園ラグビースクール 20周年にあらためて思う絆 — One For All, All For One —

松山 隆幸

松山 隆太 平成23年度(中学部)在籍中
松山 幸平 平成23年度(中学部)在籍中



2011年の日本は3.11の東日本大震災、原発事故や夏の台風被害など未曾有の災害に見舞われ、悲しみや不安に覆われた一年となった。しかしそのような中でもグラウンドにはコーチの笛の音が響き渡り、子供達は大きな声を出しボールに向かいボールを繋いでいく。そこにはラグビーを楽しむ子供達、コーチ達、そして彼らをあたたかく見守る親達の姿があるだけだ。その光景は昔も今も何も変わらない。

今年中3になる長男は3歳で田園ラグビースクール(DRS)に入校し12年間在籍させていただいた。中1の次男も10年になる。結局私たち家族みんなが12年間お世話になっているわけで、DRSと私たち家族の歴史を重ね合わせてみると、そこには大切な絆に守られ支えられてきたことにあらためて気づかされる。

幼児コースで始めた楕円ボール。子供達は一生懸命ボールを追い、ボールを持ったら一目散にゴールラインめがけて走る。中にはボールに興味のない子、泣き出す子、親のもとを離れない子、子供達の姿もさまざま。その子達をコーチが上手に仲間の輪の中へ入れボールを追わせる。私たちは、子供同士、そして子供とコーチとの絆が自然と芽生えていく姿をただ遠くから見守るだけだった。

小学コースからは本格的にタックルの練習も始まり遠征も経験する。そして、DRSの一大イベントといえばやはり夏の菅平合宿。親達も合宿を支える一員として活躍する。小学3年生になると県大会を意識した練習も始まり、スキル

アップだけでなく同時にチームの中での自分の役割を覚え、チームとしての結束も求められる。次第に“One For All, All For One”の絆が芽生える。親達もさまざまな役割の担いながら合宿を支え、その結束も次第に固くなっていく。まさに、この夏合宿こそがDRSの固い結束の源であり、“One For All, All For One”の絆が太く強く逞しく成長していく大切な機会となっている。

DRSの中学部・DJに進むと、個々のスキルアップは当然のことながら1試合40分全力で戦う体力を作り、そしてチームの中での自分の役割を正確にプレイで表現することを求められる。弱音を吐くプレイヤーも中にはいるが、仲間が声をかけ合い励まし合って最後まで食らいつく。しかし、そのような厳しい練習を繰り返しながらも思うように勝てない現実と向かい合う。負けて、負けて、負けを繰り返しながらなぜ勝てないかを考える。そしてDJ最後の県大会・最終戦。勝利の後の彼らの涙に、この12年間の“One For All, All For One”の絆が結実された。私たちも一緒に泣いた。

この12年間を通して、息子達は強く逞しく人間としても大きく成長した。そして“One For All, All For One”の絆は、プレイヤーだけでなく確実に私たち親にも深く心に刻まれてきた。今ここにあらためて私たち家族の成長と共にあったDRSの存在の大きさを感じる。DRSに関わるすべての人々に心から深く感謝したい。

忘れ去られたサッカーボール

大西 秀紀

大西 宏和 平成21年度(小学部)卒業
大西 哲平 平成22年度(小学部)卒業



私の名前はサッカーボール。この家の主が子供の時から大の仲良しである。その私が最近無視されている。なんでも、楕円球のラグビーとか言うスポーツに家族全員が夢中になっている。

この家には、宏和と哲平という悪ガキがいる。幼稚園の頃よく私と遊んだものだが、最近では寄り付きもしない。ある日主の奥さんが「田園RS」という広告を見つけた。その日が私にとっての悪夢の始まりだった。

宏和はすぐに入校したが、哲平はソファでタックル練習をしているにも係わらず、ボタンのある練習着がどうしても着れないらしく、もう辞めるみたいだ。ところが、山谷というコーチが、それはそれは熱心に勧誘し、とうとう入校した。ようやく始めた哲平も、小谷というコーチの鬼練習にべそをかき、村田というコーチの時、彼の自由気ままさが爆発し、ラグビーを面白いと思ったらしい。

宏和は食欲旺盛で、このままでは私をキャッチするゴールキーパーも出来ないぐらいにどんどん大きくなっている。ラグビーでもFWというぶつかり専門のポジションをやっている。永田という、宏和同様に太ったコーチに出会った時、主はラグビーに係わっている大人が大好きになったようだ。

宏和は声が大きく(内緒だが、グラウンド以外は人見知りだ)それに騙された豊田というコーチが、なんと彼をキャプテンに任命した。その任命の失敗が原因で、豊田は海外支部に移動になった。しかし、その後を引き継いだ、百田と

いう若いコーチが、宏和をそのまま使い続けている。おまけに6年生の時には優勝までしてしまった。もう駄目だ、このままでは2度と私のところには帰ってこない!

哲平は足が速く、中山・田中というコーチは、彼をBKというポジションで使っている。彼が右へのパスが出せないのを知っているのか?

竹谷・大西などの謎のコーチ集団が、まだ小学生の2人に真剣になって怒っている。熱血指導というものらしい。加えて、主と奥さんまでもが、毎試合応援しながら一喜一憂しているではないか。主は日曜は仕事なのに、何回サボるつもりか?

最近、私にも少しわかったことがある。ラグビーはその魅力だけでなく、それに係わる人達が実に素晴らしいということ。私と大阪が一番好きであった主が、楕円球と横浜が好きになったのも、この「田園RS」のおかげらしい。

今、主は、Ryuとか言う変なTシャツが欲しくてたまらないらしい。『ちゃらちゃら丸い球蹴るな、男は楕円球や』私は“ちゃらちゃら”か?

大西家は、最近大阪に戻り、昔のように私に興味を示すかと思っていたが、またまた「吹田RS」という楕円球集団に入り、なんとそのチームが「田園RS」と戦う為に、横浜遠征までしてしまった。いったい、どこまで楕円球の絆を広げることやら?

まだまだ大西家は私のところには戻らないけれど、私も負けずに広げよう、「田園RS」で学んだ人と人との絆を!



田園の最大の魅力は 熱きコーチ陣

山同 建

山同 走 平成23年度(中学部)在籍中
山同 光 平成23年度(小学部)在籍中



全人格をかけて拒否する長男・走に、「変身ベルト」を買ってやることを条件に遊水地に連れて行ったのは2003年2月のこと。その数日前、全ては大学時代の親友である永田(現統括)と久しぶりに呑んだ時のあの一言がキッカケだった。

「現役を引退して今年からラグビースクールのコーチをやるから、山同も一度、走を連れて見においでよ」

そんな偶然が偶然を呼び、その後、次男坊・光もお世話になるようになり、山同家の日曜日はまさに「ラグ日」となったのである。

前置きが長くなりましたが、この記念すべき田園ラグビースクール創立20周年記念誌制作にあたり、私以上に熱い思いをお持ちである多くのご父兄達を差し置いて、「感謝」の気持ちを文書に残す機会を頂き、この上ない光栄であります。本当に有難うございます。

さて、それまで縁が薄かったラグビーに、子供達はもちろんのこと、まさか学生時代から社会人までの14年間、アメリカンフットボールに青春の総てを注いだこの私までが、ここまでハマってしまうとは…。それは間違いなく、直向きにボールを追い、身体を張ってプレーする子供達の姿に、勇気と元気と希望を与えてもらえるからなのだが、敢えて言いたい。このスクールの最大の魅力は「コーチの皆さん」なのである。

歴代200名を超える田園ラグビースクールのコーチングスタッフ。その全ての皆さんを存じ上げるわけではないが、今まで関わって下さったどの皆さんも決して色褪せることなく、記憶

に残る方々ばかり。この場を借りて、特に感謝の意を表したい3名のコーチをご紹介させて頂きたい。

まずは、入園早々から圧倒的な存在感で、集団生活の規律を教えてください、泣く子も黙る？(もっと泣く?)小谷コーチを語らずにはいられない。親以外から叱れることの少ない昨今、小谷コーチの愛情は永遠に不滅です。ただ、最近では少し丸くなられて寂しい限り(笑)だが…。

走が4～6年生時のヘッド・百田コーチとの思い出は今でも目頭が熱くなる。特に6年生の県大会全勝対決の横浜ラグースクール戦は、色々な意味で一生忘れることのできない一戦として心に刻まれている。また、中学受験に失敗した走を励まそうと、早朝練習にわざわざ駆けつけてくださった。あの心の器の大きさに、どれだけ夫婦共々救われたことか……。中学になった今でも、時よりアドバイスを頂くなど、走にとっての一生の恩師である。

そして冒頭にも紹介した永田現統括。彼がいなければ、今の我が家の充実した日々はないでしょう。常に子供達の安全を第一に、その芯がブレない指導方針には、心底頭が下がる。親友に大変照れ臭いのだが、最大限の感謝!! そして、これからもまだまだ宜しく!

信頼なるコーチの皆さん、「少年を大人にし、大人を少年に戻す」と言われるラグビーの指導を通じ、これからも田園RSの伝統と文化を継承していって下さい。田園ラグビースクールは皆さんがいらっしゃる限り、永遠に不滅です。

DJ1、我が家の思い出

守安 博章

守安 真成 平成23年度(中学部)在籍中
守安 史成 平成23年度(小学部)在籍中



この度は、20周年おめでとうございます。これまでスクールを支えてこられた皆様に心よりお祝い申し上げます。

私は、スクールに参加させて頂き既に10年になります。この間、現DJ1の一父兄として、そしてスクールHPのGallery担当として、田園生活に加わらせて頂きました。カメラの方は、スポーツモードしか使えない素人カメラマンではありますが、年賀状など、皆様に使って頂いているのを拝見した時は、お粗末ながらもスクールの活動に少しでも役立たせて頂けているのかなと勝手に自己満足しております。

さて、DJ1そして我が家について、思い出を振り返らせていただきます。ラグビーは子供の教育に最高に良いと聞き、ラグビー素人ながらも飛び込んでしまった次第ですが、まさか幼稚園、しかも年少から?と半信半疑のまま遊水地に行ってみると、可愛らしいユニフォームに包まれた沢山の子供たち。そして子供たちを仕切る強烈なコーチ。初めての体験を終えた帰り道は、それまで少食だった愚息が「お腹すいた」の一言。

とにかく一目ぼれでした。そこから我が家の田園生活がスタートです。しかし、さっそく大きな壁が。愚息はなかなか練習に馴染めなく脱走の常習犯に。いや いや、愚息だけじゃない。共犯も結構いる。コーチの言うことが聞けず担ぎ出される子。子供が泣くからとコーヒー店に隠れている父親。この世界は一体…。実はこれが今のDJ1の始まりです。

今にも脱落しそうな幼稚園時代をなんとか乗り越え、小学生となり、仲間も増えたところで初めての夏合宿。しかし、それは小学生とは思えないような伝説の夏合宿。

とにかく、こういった数々の壁を乗り越え、皆はまるで映画でも見るかのように強力なチームに大変身。一生かかっても得られないような経験をさせていただき、本当に感謝しております。また、この学年はとにかく最高のコーチに恵まれたことも、合わせて感謝させて頂きます(全学年そう思われていることと思いますが、勝手ながら特別声を大にさせて頂きます)。

そして、何よりの感謝は、ラグビーを通じ理想とすべき最高の大人である姿を、彼らの幼少期に渡って示し続けて頂いたこと、そして体をぶつけ合い、泥んこになりながら、心と体の限界に挑戦させて頂いたこと。これらは子供達の心に一生焼き付き、必ず立派な大人になってくれると確信しております。

彼らは、これからそれぞれの人生をたどると思いますが、大人になってもいつまでも集まり、助け合い、励まし合い、そして彼らの子供たちにもこの伝統と心を伝えていってくれるものと思います。

最後、私事ではありますが、実はDMM1には生まれる前から田園に通わせて頂いた次男がおります。あと10年、きっと30周年近くまで、この田園生活をご一緒させていただくことになりそうです。体力の衰えを心配しつつも、今後ともよろしく願いいたします。

Rugby magazine

ラグビーマガジン

A4変型判
毎月25日発売
定価920円(税込)



トップリーグ、社会人、学生、
そしてジュニアまで、
あらゆる年代のラグビーを
網羅した専門誌。
タイムリーな話題&試合詳報から
技術解説まで、ラグビーに関する
すべてがこの一冊に!

定期購読料金 1年間12冊分 11,040円(税込)
半年間6冊分 5,520円(税込)

ラグビー クリニック

すべてのプレーヤー、
指導者のためにおくるバイブル。
ラグビーの基本から応用まで、
トップコーチ陣が誌面で指導。
この一冊がプレーヤーを
上達へと導く!

A4変型判
年4回発行<2,4,7,10月>
定価950円(税込)



定期購読料金 1年間4冊分 3,800円(税込)

「ラグビーマガジン」
「ラグビークリニック」
年間定期購読の
お申し込みは

電話で ☎0120-413490
FAXで ☎0120-594134
HPから ▼
<http://www.sportsclick.jp/subscribe.html>



ぐんぐん↑ラマくなる! 7人制ラグビー

岩渕健輔 / 著 定価1,260円(税込) ◎好評発売中!

スキルと速さをみがこう! 試合に勝つ楽しさを覚えよう!
15人制ラグビーとの違いや、攻略に必要な技術とベーシックアイデアなど、
効果的な練習方法をビジュアル解説!

ベースボール・マガジン社 bookcart 検索 受注センター ☎025-780-1231

目覚めよ、俊敏力。



軽量化と突き上げ緩和により、スムーズで力強いプレーをサポート。
ラグビー日本代表も使用する、サムライを加速させる一足。

WAVE SAMURAI 4



ウェーブ サムライ 4

□14KR-14009 ¥14,175(本体¥13,500) サイズ:26.0~29.0、30.0cm(インドネシア製)

※記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。()内は消費税抜き本体価格です。

• www.mizuno.co.jp • ☎0120-320-799

明日は、きっと、できる。



賃貸・管理・売買・法人社宅代行

人と人とのつながりを大切に、
全国ネットでお応えします。

タイセイ・ハウジーグループ

(株)タイセイ・ハウジー
あざみ野不動産(株)
ハウジングセンター(株)
(株)タイセイ・ハウジープロパティ
(株)タイセイ・ハウジーリバース
東京保証(株)

タイセイ・ハウジーグループでは
首都圏、札幌、仙台、名古屋、大阪、神戸、広島、福岡をはじめ
国内58拠点、中国2拠点を展開しています。

国土交通大臣(7)第3440号
 株式会社 タイセイ・ハウジー
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-32-10 南新宿SKビル TEL.03-3350-6180
<http://www.aisei-hs.co.jp>

代表取締役社長 赤間 敏雄

【全国58拠点】 【東京】本社・新宿・新宿お客様センター・池袋・上石神井・渋谷・練馬下赤塚・吉祥寺・八王子・八王子駅前・立川・錦糸町・西葛西・東京西お客様センター
【神奈川】横浜・上大岡・横浜工事センター・横浜お客様センター・向ヶ丘・藤沢・菊名・綱島・武蔵小杉・相模原 【埼玉】浦和・川口・北関東お客様センター
【千葉】千葉駅前・千葉お客様センター・津田沼・西船橋・東関東お客様センター・柏 【主要都市】札幌・仙台・名古屋・大阪・大阪支店・神戸・広島・福岡・
北九州・グループ会社16拠点

【中国2拠点】 上海・蘇州



20th Anniversary

田園ラグビースクール 20年のあゆみ

歴史

戦績

ジャージの紹介

コーチ背番号一覧

コーチの出身地マップ

スクール歌の紹介

パティオの紹介

合宿の変遷

海外支部便り

田園ラ・ガールズの部屋

練習グラウンドの変遷

生徒数推移

田園クラブの紹介

年度	社会の動き	ラグビー全国大会決勝 (優勝・準優勝)	日本選手権 大学選手権 高校全国大会	田園ラグビースクールの主なトピック	
平成4年	バブルコロナ五輪 岩崎恭子選手(現・斉藤裕也選手夫人) が200m平泳ぎで史上最年少の金メダル 日本人宇宙飛行士毛利衛さん宇宙へ 東京佐川急便事件 尾崎豊さん急死	神戸製鋼 法政大 伏見工高	41 - 3 30 - 27 15 - 10	法政大 早稲田大 啓光学園高	田園RS事務局を横浜市青葉区新石川11-6-2あざみ野不動産㈱に設け、事務責任者として社員の松本春子氏就任 田園RS打合せ (第1回 3月29日、第2回 4月5日 赤間校長、永田副校長、水谷、浜本、堀内、樟、吉田、伊藤武、伊沢、村上、小池、伊藤隆、高橋、大宝、高野、竹本、三角、宮田、飯田、今井、内田、佐藤薫、佐藤真) 田園RS開校式 生徒数67名 (4月12日 国学院大学あざみ野グラウンド) 幼稚園児 8名、小学1年 18名、小学2年 15名、小学3年 13名、小学4年 3名、小学5年 3名、小学6年 3名、中学生 4名、合計 67名 赤間校長コンピネーションの練習中右ふくらはぎ筋断裂 (全治1ヵ月半) 基本プレーマニュアル初版作成 (FW: 演本剛志・伊藤隆 BK: 伊藤忠幸・水谷眞) 夏合宿 (山中湖) 専修大学セミナーハウス 東大山中湖G 秋の公式戦 (5-6年) 初参戦 (無得点・全敗)
平成5年	細川連立内閣発足 皇太子殿下、雅子様結婚の儀 北海道南西沖地震、大津波が奥尻島などを直撃 Jリーグ開幕	神戸製鋼 明治大 相模台工高	33 - 19 41 - 12 19 - 6	明治大 法政大 東農大二高	5年生以上王禅寺小学校Gで練習試合 (vs麻生) TAKAPUNA戦に備えて NZタカプナクラブと交流試合 TAKAPUNA R.F.CLUB 会場: 三菱銀行あざみ野グラウンド (現在の劇団四季) あざみ野祭りパレードに参加 横浜スタジアム交流大会に初参加
平成6年	日本人初の女性宇宙飛行士向井千秋さん宇宙へ 村山連立内閣発足 関西国際空港開港 松本サリン事件発生	神戸製鋼 大東文化大 相模台工高	102 - 14 (神戸製鋼V7達成) 22 - 17 27 - 12	大東文化大 明治大 長崎北陽台高	バーベキュー&トン汁パーティー (国学院大学あざみ野G) おにぎり3個ずつ持ち寄りで…… 菅平初合宿 (菅平国際ホテル ベルニナ) 初遠征試合 vs 川崎RS (等々力G) 7月10日 クラブハウス完成、クラブハウス開設記念パーティー開催
平成7年	阪神淡路大震災発生、6,308人が死亡 地下鉄サリン事件 野茂投手が米大リーグで活躍、新人王獲得 ワールドカップ 南アフリカ大会	サントリー 明治大 大阪工大高	49 - 24 43 - 9 50 - 10	明治大 早稲田大 秋田工高	大西智コーチ、阪神大震災で東京転勤により田園RSに20歳台初コーチとして入会 4年生と6年生がYCAG 7人制大会参加 田園RS Tシャツ作成 (300枚) 中学生が川崎市RSと連合チームで公式戦参加 小学3年生 県大会単独チームで初優勝 スクール横断幕完成 スクール指導者研修会 (菅平・山喜荘) 初参加 <赤間校長、永田副校長 (関東協会RS委員会委員長)>
平成8年	O-157流行 ペルー 日本大使館事件 英狂牛病騒動	東芝府中 明治大 西陵商高	69 - 8 32 - 22 26 - 25	明治大 早稲田大 啓光学園高	夏合宿の夕飯のおかずが「ポテトチップス!?」 (O-157のため) JAPAN SEVENS参加 (前座試合&ボールボーイ) 田園クラブ赤ジャージ完成
平成9年	消費税5%スタート 山一証券など金融機関の破綻が続く 英タイアナ元妃事故死	東芝府中 関東学院大 国学院久我山高	35 - 11 30 - 17 33 - 29	トヨタ自動車 明治大 伏見工高	田園クラブ ビーチタッチ参加 (平塚) 横浜国際総合競技場 (現日産スタジアム) 記念試合参加
平成10年	長野冬季オリンピック開催 和歌山毒入りカレー事件 若乃花連覇で若貴兄弟横綱誕	東芝府中 (東芝府中V3達成) 関東学院大 啓光学園高	24 - 13 47 - 28 15 - 12	神戸製鋼 明治大 大阪工大高	リコークラグビー祭初参加 RS指導者研修会 (湘南工大) 初の幹事を担当 従来活動期間ではなかった1月〜3月を自主練の形で活動を開始した
平成11年	ヨーロッパで単一通貨「ユーロ」を導入 西武 松坂投手プロデビュー 団子3兄弟ヒット トルコでM7.4の大地震が発生し死者1万7,000人を超える ワールドカップ ウェルズ大会	神戸製鋼 慶應義塾大 (ラグビールーツ校慶應義塾大が創部100周年) 東海大仰星高	49 - 20 27 - 7 31 - 7	トヨタ自動車 関東学院大 埼玉大深谷高	ラグビーカーニバル in 府中に参加 横浜青葉インター下広場で初練習 多摩市陸上競技場リニューアル記念試合出場 募集ポスターキャッチフレーズ「小さくたって、太ってたって、ひょろひょろだって、女の子だって、みんなで楽しめる「ラグビーやろっ!」」(中屋コーチ・コピーライター) ホームページ開設
平成12年	有珠山噴火 三宅島噴火で全島避難 シドニー五輪 高橋尚子選手が金メダル イチロー選手 マリナーズと契約 沖縄サミット開催	神戸製鋼 (同点により双方優勝) 関東学院大 伏見工高	27 - 27 (同点により双方優勝) 42 - 15 21 - 3	サントリー 明治大 法政大 佐賀工高	田園RS事務責任者にあざみ野不動産 宮下かおり氏就任 (松本春子氏から引き継ぎ現在も在籍中) コアラリーグ参加 (2年生以下のちびっ子ラグーマン対象) 東京、神奈川5チーム参加 (東京ガスグラウンド) 田園RSコーチ指導による子どもへのタグラグビー大会開催 ワールドセブンス2000 南アフリカとパレード / ボールボーイ 卒業タックルスタート 卒業遠征スタート 幼児クラス年少からの受入をスタート
平成13年	小泉内閣発足 雅子さま女児出産 9.11米同時多発テロ発生 メジャーリーグでイチロー-新人王・MVP	サントリー 関東学院大 啓光学園高	28 - 17 21 - 16 50 - 17	神戸製鋼 早稲田大 東福岡高	第1回春季ミニ・タグラグビー交流大会参加 中学部DAGS (田園・麻生・グリーン) で合同チーム活動 こどもの園遠足スタート 創立以来始めて6年生が県大会に単独チームでエントリーし、優勝
平成14年	「千と千尋の神隠し」がベルリン国際映画賞最高賞受賞 北朝鮮拉致被害者が帰国	NEC 早稲田大 啓光学園高	36 - 26 27 - 22 26 - 20	サントリー 関東学院大 東福岡高	小学4年、5年、6年が浜名湖RSに遠征
平成15年	北島康介選手が200m平泳ぎで世界新記録 米英軍とイラクが開戦 ワールドカップ 豪州大会	東芝府中 関東学院大 啓光学園高	22 - 10 39 - 7 15 - 0	神戸製鋼 早稲田大 大分舞鶴高	創立以来始めて県大会で小学生全学年が優勝 霧の菅平合宿 (金津元統括コーチの寄稿ページ参照)
平成16年	新潟県中越地震 (M6.8) 発生 イチロー年間262安打、大リーグ最多安打記録を84年ぶりに更新	NEC 早稲田大 啓光学園高	17 - 13 31 - 19 31 - 14	トヨタ自動車 関東学院大 天理高	中学部 (DAGS) 県大会初優勝
平成17年	中部国際空港開港 愛知万博開催 JR福知山線脱線事故	東芝府中 (同点により双方優勝) 早稲田大 伏見工高	6 - 6 (同点により双方優勝) 41 - 5 36 - 12	NEC 関東学院大 桐蔭学園高	中学部 (DAGS) 県大会2連覇 (2007年まで4連覇) 基本プレーマニュアル改定 小学4年の中島信太郎君 (スクールドクターご子息) がウィーン少年合唱団に入団
平成18年	「一八蒙雷 (いちちごうぜつ)」 トリノ五輪 荒川静香金メダル WBCで王ジャパン優勝 ライブドア事件、堀江社長逮捕	東芝 関東学院大 東海大仰星高	19 - 10 33 - 26 19 - 5	トヨタ自動車 早稲田大 東福岡高	高学年用新ジャージ キャッチフレーズ公募スタート 15周年記念式典 (国学院大学たまブラザーキャンパス[ヒルトップ]) 15周年記念試合 (世田谷区リコー総合グラウンド)
平成19年	食品偽装事件が相次ぐ 東国原氏が宮崎県知事に当選 郵政民営化スタート ワールドカップフランス大会	三洋電機 早稲田大 東福岡高	40 - 18 26 - 6 12 - 7	サントリー 慶應義塾大 伏見工高	夏合宿小学生宿舍分割 まるみ山荘 (2〜6年)、白明館 (1年) 卒業生の仲宗根健太君 (桐蔭学園) 高校日本代表に選出される
平成20年	北京オリンピックで平泳ぎの北島康介選手が連続2冠達成 米大統領にオバマ氏当選	三洋電機 早稲田大 常翔啓光学園高	24 - 16 20 - 10 24 - 15	サントリー 帝京大 御所工・実高	小学6年が県大会に初の2チームエントリー 第1回フセダクラブカップ参加
平成21年	新型インフルエンザが世界で猛威、死者1万人を超える 裁判員裁判スタート プロ野球日本代表WBC連覇 マイケル・ジャクソン氏が急死	三洋電機 (三洋電機V3達成) 帝京大 東福岡高	22 - 17 (三洋電機V3達成) 14 - 13 31 - 5	トヨタ自動車 東海大 桐蔭学園高	中学部DJとして独立 県大会に中学部単独チームでエントリー 2019年ワールドカップ日本開催決定 卒業生の仲宗根健太君 (慶大) U-20ワールドカップ日本代表に選出される
平成22年	小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶりに帰還 チリの鉱山落盤事故で閉じ込められた作業員33人を救出 上海万博開催	サントリー 帝京大 桐蔭学園高 (同点により双方優勝) (高校90回記念大会)	37 - 20 17 - 12 31 - 31	三洋電機 早稲田大 東福岡高	小学6年生 第1回ファイナルカップ優勝 小学部卒業試合に吹田RS (大阪府) 招待 (キャンノンイーグルス川崎グラウンド) 卒業生の高平祐輝君 (明大) がU-20日本代表に選出される 卒業生の大瀬慎也君 (久我山) が高校日本代表に選出される
平成23年	東北大地震 なでしこジャパン ワールドカップドイツ大会優勝 ワールドカップニュージーランド大会	(本誌編集時点日本選手権は開催前) 帝京大 (帝京大V3達成) 東福岡高 (東福岡高V3達成)	15 - 12 (帝京大V3達成) 36 - 24 (東福岡高V3達成)	天理大 (東福岡高V3達成)	神奈川県協会女子ラグビー部 (神奈川プリンス) 発足・参加 20周年記念事業プロジェクト 中学部3年在籍中の山本実さんが日本協会女子セブンスアカデミーに選出される 早慶戦で卒業生の慶應主将仲宗根君 (CTB) と早稲田西橋勇人君 (SH) の直接対決実現



初年度の修了式



世田谷 RS との交流試合



夏合宿（菅平）左端が赤間校長、右端は浜本コーチ



ワールドセブンス 2000 南アフリカとパレードボールボーイ時



ワールドセブンスパレード



幼児担当の水谷コーチ



國學院大學あざみ野グラウンド練習風景



クラブハウス「パティオ」開設パーティ



ワールドセブンス 2000 パレード



府中祭 伊藤選手と高学年



NZ TAKAPUNA RFC 来日時 (三菱あざみ野グラウンド、現在は劇団四季)



あざみ野まつり



夏合宿エーデルグラウンドにて

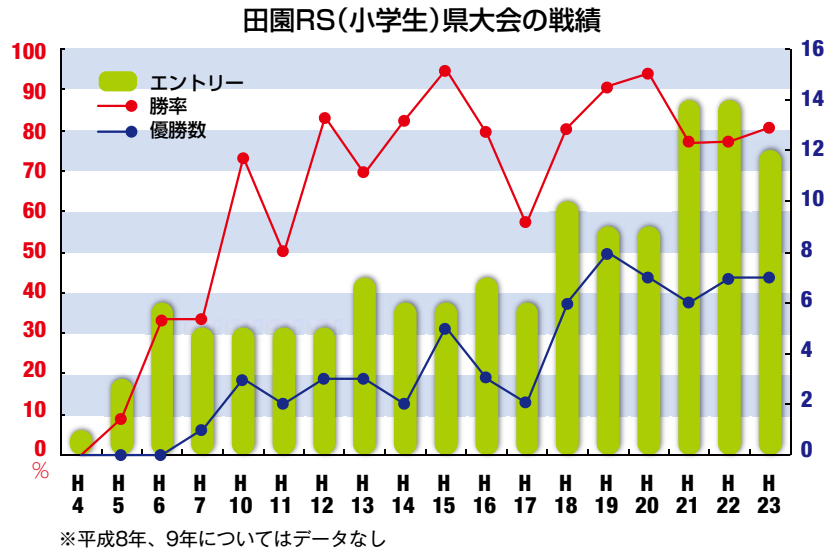


ワールドセブンスパレード



ジャパンセブンス パレード

1. 神奈川県大会 戦績

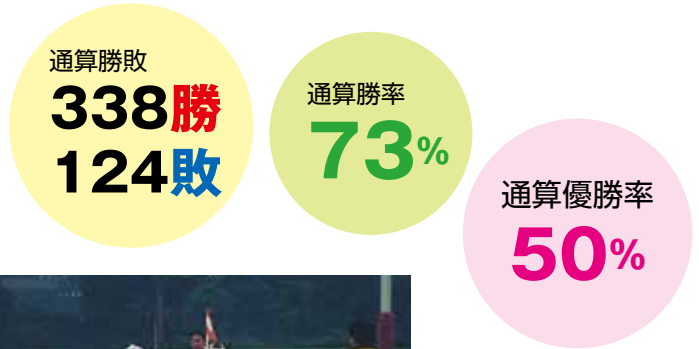


西暦	勝ち	負け	勝率	エントリー数	優勝数	優勝率
H.4	0	3	0%	1	0	0%
H.5	1	10	9%	3	0	0%
H.6	6	12	33%	6	0	0%
H.7	6	12	33%	5	1	20%
H.10	11	4	73%	5	3	60%
H.11	9	9	50%	5	2	40%
H.12	15	3	83%	5	3	60%
H.13	18	8	69%	7	3	43%
H.14	24	5	83%	6	2	33%
H.15	18	1	95%	6	5	83%
H.16	19	5	79%	7	3	43%
H.17	12	9	57%	6	2	33%
H.18	29	7	81%	10	6	60%
H.19	29	3	91%	9	8	89%
H.20	31	2	94%	9	7	78%
H.21	40	12	77%	14	6	43%
H.22	37	11	77%	14	7	50%
H.23	33	8	80%	12	7	58%
通算	338	124	73%	130	65	50%

実力均等割りで驚異的な勝率

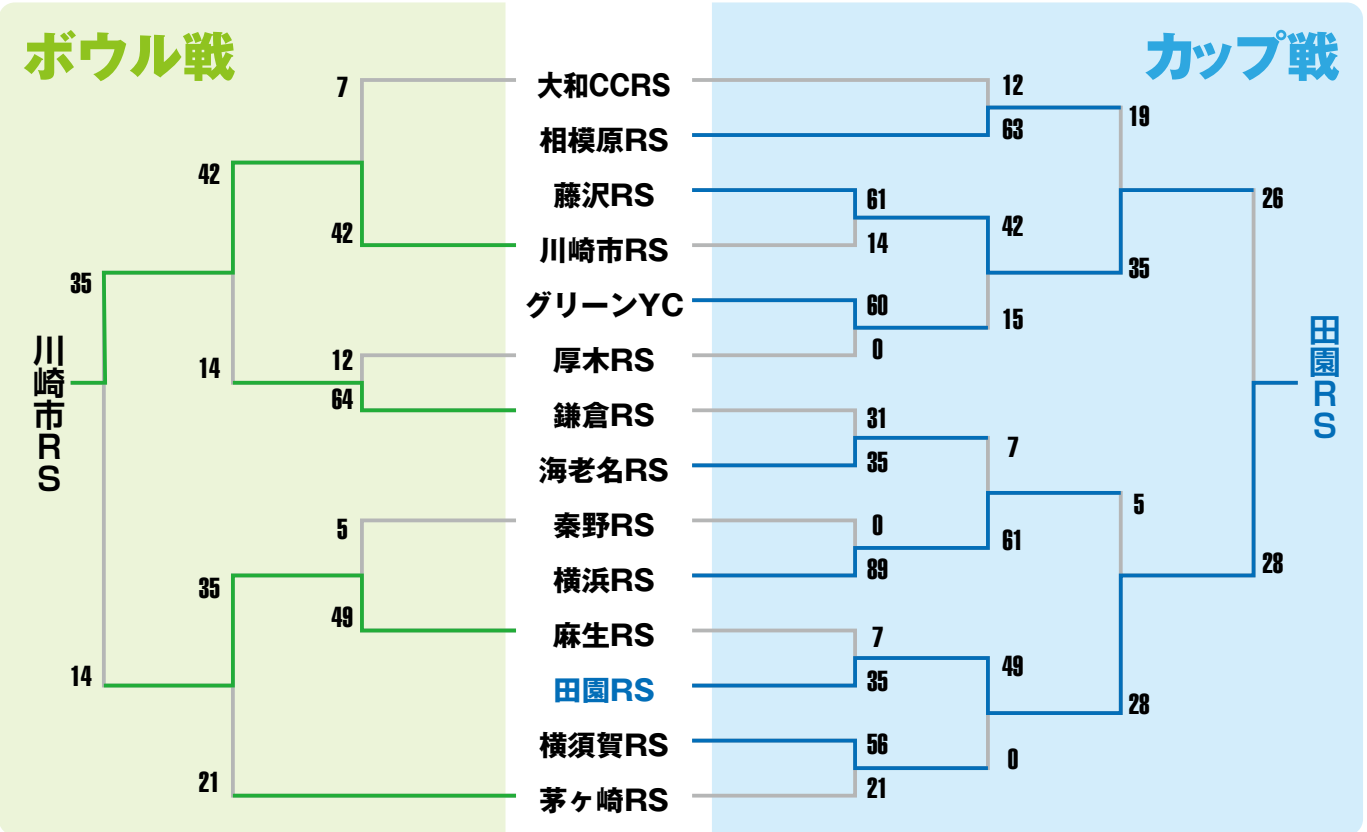
開校当時は、ほとんどが100点ゲームでの敗戦。開校4年目の平成7年に小学3年生が同率ながら初優勝。単独での初優勝は、それから2年後の平成9年の小学4年生と6年生でした。田園の県大会に臨むポリシーとして、ベースに全員が参加するラグビーがあり、複数チームをエントリーする場合は、実力均等割りのチーム編成を行い、その中で優勝を目指すという学校の強い信念があります。そういった意味では、優勝の数も重要ですが、平成19年の9チームエントリーで29勝3敗、平成20年の同じく9チームエントリーで31勝2敗という結果は、スクール信念の中で驚異的な結果だと思います。

また、記録でいけば、平成14年小学部卒業の西橋隼人組は、県大会4年連続優勝かつ、小学6年間練習試合も含め1度も負けずに卒業していきました。平成20年度小学部卒業の中西浩大組は、田園初の小学6年生時に2チームエントリーを成し遂げ、平成21年度小学部卒業の大西宏和組は、学年生徒数が常に40人を超え、小学3年時には何と4チームエントリーをし、コーチ陣がふらふらになっていました。現在も、実力均等割り精神はヘッドコーチには、脈々と受け継がれており、今シーズンも12チームエントリーでの7チーム優勝、33勝8敗という優秀な成績を収めています。



2. 神奈川県ファイナルカップ 戦績

第1回神奈川県ミニラグビーファイナルカップ組み合わせ・結果



第1回神奈川ファイナルカップでは、見事「初代チャンピオン(優勝)」となりました。この大会参加までの過程では、参加既決であった別大会との日程が重複してしまったため、スクール内で喧々囂々の議論が繰り返されました。結果として子供達は両大会に分かれての参加と言う厳しい状況の中で、チーム一丸となつての見事な優勝でした。



ジャージの紹介 (背番号の秘密)

5、6年生になると着用するジャージも、コーチが着ているジャージも、田園の公式ジャージの背番号は16番から始まっています。通常ラグビーは1～15番までがレギュラー番号なので、誰もこの番号は付けないことにしています。



初代の長袖ジャージ



幼児～4年生半袖
ジャージ(初代)



幼児～4年生半袖
ジャージ(2代目)



●5年生、6年生ジャージ「16番～」のメッセージ

チームの力を均等にして試合をする田園にはレギュラー選手は存在しません。小学生のラグビーにおいては、体格が大きければ有利であり、走るのが早ければ上手に見えるものです。でもそれは持って生まれたものであり、本人の努力ではありません。レギュラー背番号は、中学、高校に行って、本当の努力、本当の実力で手に入れて下さい。というメッセージが込められているのです…。



5、6年生のジャージ
(背番号付き・初代)



5、6年生のジャージ(現在)
※脇のラインは隔年で青と赤を交互に変えています。



中学生ジャージ(1st)



中学生ジャージ(2nd)



●コーチ背番号「16番～」のメッセージ

統括もヘッドも「コーチ」は「コーチ」。その役回りを担っているだけで「とにかくみんなでやっていくんだ」という、創設当初の考えがここに表れています。統括も学年のコーチヘッドも、長くても3年を基本としています。毎年2、3名は新しい学年コーチヘッ

ドが誕生します。ヘッド以外にも新しいコーチに様々な役割が割り当てられます。「このメールにNOはありません」というびっくりメールが、ある日突然飛び込んで来ます。これまでの統括も学年ヘッドたちも、みんなこのびっくりメールが全てのスタートでした…。



開校当時、コーチは緑一色のジャージでしたが、試合をするために新調しようとの話が持ち上がり、1997年の南アフリカ遠征で強さを発揮した、ブリティッシュ・ライオンズのホームユニオン4協会のカラーを使って作る事になりました。イングランド(白)、スコットランド(紺)、ウェールズ(赤)、アイルランド(緑)を考えた時、まさに田園RSに相応しく今のジャージが決定したのでした。何故なら、子供達のジャージ(紺と白)、当時のコーチジャージ(緑)、そして、赤間校長の(赤)。誰もが納得するものでした。

背番号は、子供達同様に16番(赤間校長)、17番(故：永田副校長)と、16番をスタートに基本的にコーチ登録をした順番に背番号が与えられています。現在は、200番台突入です。また、胸のマークは、田園RSのマスコットである犬(ドッグ)に対抗して、あひる(ダック)にし、当時の谷川コーチがデザインしてくれました。



キャラクターの紹介



田園ラグビースクールのキャラクターの素案は人物のイラストでしたが、第2案のイヌのイラストがとても可愛らしく躍動感に溢れていたため採用されました。でも、皆さんから「片手はダメじゃない!？」とダメ出しがありましたが、強引に今のデザインに決まりました。

コーチジャージのアヒルのマークは、単に「ドッグの次はダックでいいんじゃないの～」って、大らかな佐藤篤史コーチの一言で、コーチジャージキャラクターが誕生しました。

う～む、ここにも歴史あり!

コーチ背番号一覧

背番号	氏名	出身地
16	赤間 敏雄	福岡県
17	永田 博	京都府
18	高橋 秀典	福岡県
19	上林 努	北海道
21	山口 雅弘	東京都
23	佐藤 篤史	群馬県
24	西橋 久陽	熊本県
25	竹内 慎一	埼玉県
29	菊池 義見	宮城県
30	添田 信也	福岡県
33	谷川 利樹	大分県
34	加藤 二郎	東京都
36	大西 智	兵庫県
38	浜本 剛志	東京都
39	中居 泰雄	岩手県
46	斉藤 次雄	大阪府
49	林田 守弘	東京都
50	関山 吉宣	愛知県
52	小原 崇志	岩手県
54	仲宗根 弘明	大阪府
56	山谷 充知	北海道
58	机元 浩	福岡県
59	石川 淳	宮城県
60	金津 文貴	神奈川県
61	砦上 和正	大分県
63	落合 啓二	大阪府
65	宮永 雅好	東京都
67	山下 誠	岡山県
68	斉藤 一美	大阪府
70	濱野 俊文	東京都
72	小谷 輸	福岡県
73	川本 信治	神奈川県
74	大梶 浩史	京都府
76	竹谷 誠	兵庫県
77	大澤 尚一郎	東京都
78	宮澤 肇	神奈川県
79	上條 真史	神奈川県
80	上田 雄志	神奈川県
81	桧山 輝男	秋田県
82	坂田 光徳	愛知県
83	上田 剛	大阪府
84	庵谷 英徳	東京都
85	基 幸生	兵庫県
86	永田 雅人	東京都
87	中川 和哉	神奈川県
88	矢崎 秀夫	神奈川県
89	行武 啓介	広島県
90	村田 晶	福岡県
92	北川 康成	福岡県
93	豊田 芳直	兵庫県
94	柏木 尚	大阪府
95	柴 繁之	千葉県
96	内野 晃彦	神奈川県
97	金木 誠	
99	田崎 博也	神奈川県
101	菅原 義尚	東京都
102	松藤 義昭	福岡県
103	佐藤 道也	宮城県
104	金森 真一	大阪府
105	井手 靖	大阪府

背番号	氏名	出身地
106	明正 謙	兵庫県
107	山岡 雄己	愛媛県
108	本橋 浩	東京都
109	網本 剛	東京都
110	荒川 健	福岡県
111	湯川 清市	東京都
112	藤井 直生	大阪府
113	中口 健	愛知県
116	中西 俊浩	三重県
117	浦山 孝男	山口県
118	関根 尚	福島県
119	糸川 直樹	神奈川県
120	住吉 弘一	青森県
121	大津 英樹	神奈川県
122	松原 隆二	香川県
125	中山 晴	大阪府
128	矢崎 賢一	栃木県
129	金栄 洋史	神奈川県
130	雨宮 茂仁	山梨県
136	百田 稔	大阪府
137	浅野 毅	東京都
138	岡田 功	兵庫県
139	照屋 英樹	沖縄県
140	齋藤 敏直	神奈川県
141	内藤 禎俊	東京都
143	犬塚 直人	埼玉県
144	江田 拓郎	東京都
145	佐藤 茂隆	神奈川県
146	森山 克英	茨城県
148	島田 圭	広島県
149	アンドリュー・ペロンズ	イングランド
150	木暮 知之	神奈川県
151	黒田 慎司	埼玉県
152	蟹池 則行	大阪府
153	馬場 大策	神奈川県
154	堀口 源一郎	神奈川県
155	酒井 修	東京都
156	中園 哲雄	福岡県
157	矢崎 ひろ	神奈川県
158	島本 祐二	東京都
159	三石 瑞穂	長野県
161	田所 浩史	神奈川県

●コーチの背番号ができる前に指導してくださったコーチたち（敬称略）
安部、鶴岡、水谷、千葉、有沢、伊木、堀内、椿、吉田、伊藤武、関島、伊藤忠、伊藤隆、伊沢、村上、小池、大宝、藤田、高野、竹本、三角、宮田、飯田、今井、佐藤真

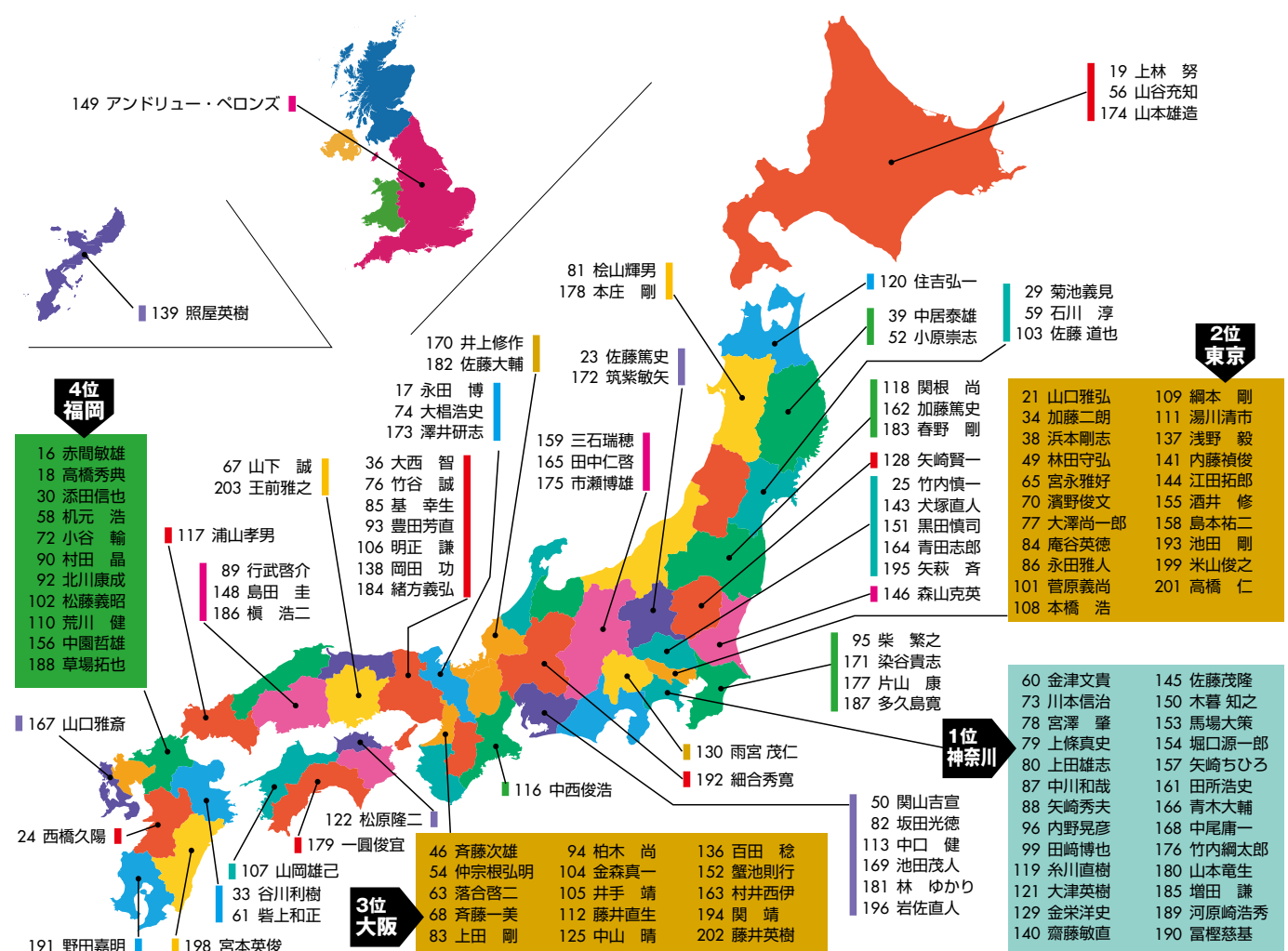
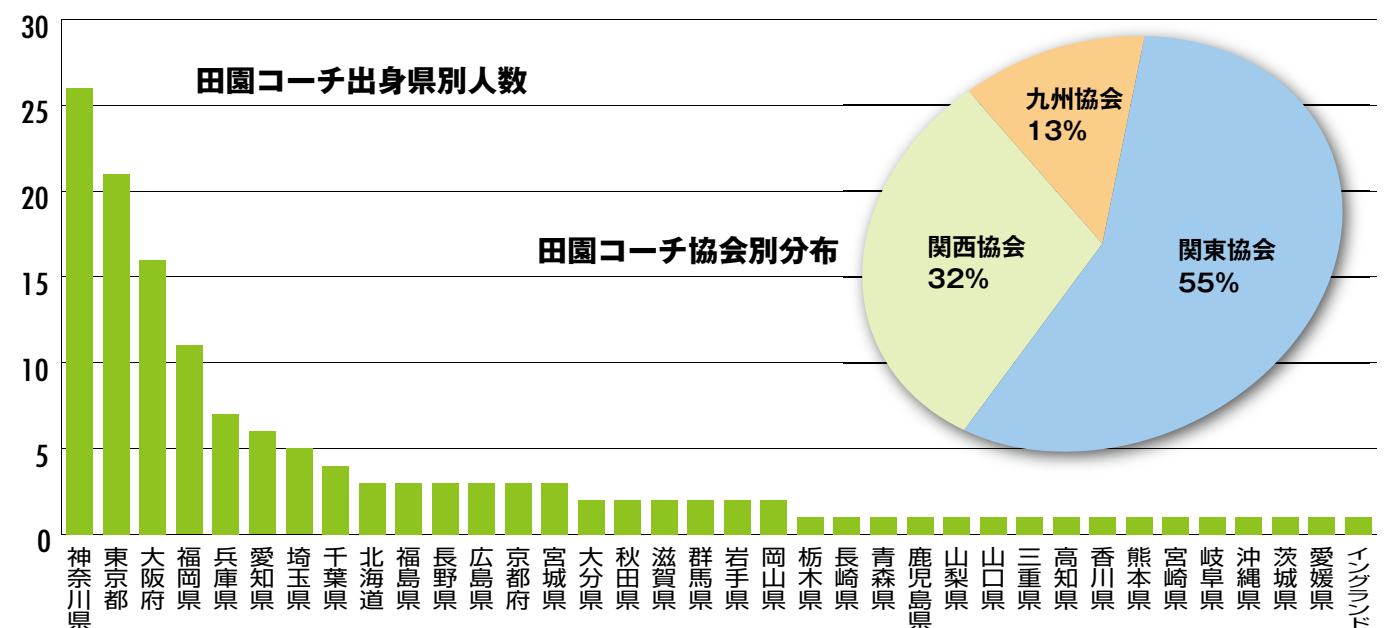


背番号	氏名	出身地
162	加藤 篤史	福島県
163	村井 西伊	大阪府
164	青田 志郎	埼玉県
165	田中 仁啓	長野県
166	青木 大輔	神奈川県
167	山口 雅斎	長崎県
168	中尾 庸一	神奈川県
169	池田 茂人	愛知県
170	井上 修作	滋賀県
171	染谷 貴志	千葉県
172	筑紫 敏矢	群馬県
173	澤井 研志	京都府
174	山本 雄造	北海道
175	市瀬 博雄	長野県
176	竹内 網太郎	神奈川県
177	片山 康	千葉県
178	本庄 剛	秋田県
179	一圓 俊宜	高知県
180	山本 竜生	神奈川県
181	林 ゆかり	愛知県
182	佐藤 大輔	滋賀県
183	春野 剛	福島県
184	緒方 義弘	兵庫県
185	増田 謙	神奈川県
186	槇 浩二	広島県
187	多久島 寛	千葉県
188	草場 拓也	福岡県
189	河原崎 浩秀	神奈川県
190	富樫 慈基	神奈川県
191	野田 嘉明	鹿児島県
192	細合 秀寛	岐阜県
193	池田 剛	東京都
194	関 靖	大阪府
195	矢萩 斉	埼玉県
196	岩佐 直人	愛知県
198	宮本 英俊	宮崎県
199	米山 俊之	東京都
200	柏木 尚	大阪府
201	高橋 仁	東京都
202	藤井 英樹	大阪府
203	王前 雅之	岡山県

コーチの出身地マップ

コーチの出身地は、地元神奈川県出身者が最多、ついで東京都と関東出身が多いのかと思いきや、続くのは大阪、福岡となっています。人数よりも個性の強さでまさる関西勢のパワーと、飛び交う大きな

声の関西弁から受ける印象から、夏合宿、菅平で他県のスクールと試合をすると、「田園ラグビースクールは関西のスクールだと思っていました。」と相手チームの人に言われることがよくあります。(笑)



スクール歌の紹介

田園ラグビースクール スクール歌

作詞 竹谷 誠
作曲 赤石 香喜

仲間と心で手を繋ぎ、十五の心をひとつにして、
戦えラガーマン、魂を込めて、
そうだ胸を張れ、我らが勝者
田園ファイト、田園ファイト

夢を乗せた楯円を追い、走って行くんだ、明日への道、
勇めラガーマン、情熱をこめて、
そうだ胸を張れ、君らが勝者
田園ファイト、田園ファイト

苦しみ喜び知ればこそ、豊かな育みここにあり、
歌えラガーマン、希望を込めて
そうだ胸を張れ、みんなが勝者
田園ファイト、田園ファイト

■スクール歌誕生秘話

コーチをやり始めた頃、私の宴会芸は「How many いい顔」に載せてお贈りする「コーチ替え歌シリーズ」でした。赤間校長同席の宴会で替え歌シリーズを歌ったところ「田園には歌がないね。スクール歌を作ろう」ということになり、作詞しました。私は替え歌にしないと詞が浮かんでこないの、スクール歌のこの詞も、古い、古いアニメソングの替え歌になっています。正解をお知りになりたい方は「これだ!」と思う曲に載せて私の前で歌って下さい。

作曲をした赤石香喜氏は毎日放送 (MBS) に勤務

していた私の友人で、平成19年に18年務めたMBSを退社し、現在はプロのピアニストとして活躍しています。赤石氏からのコメントです。

「田園ラグビースクールの皆様、私が作曲したスクール歌を大切に歌っていただきましてありがとうございます。しっかり練習を重ね、立派なラガーマンになられることを期待しています。大人になってもこのスクール歌を覚えていて下さいね」

皆さん、一度赤石氏のライブに行ってみては如何ですか? かなり素敵なライブですよ。

(作詞 竹谷 誠)

パティオの紹介



伊藤忠幸さん、水谷眞さん、真下昇さんコーナー

浜本剛志さん、伊藤隆さん、藤原優さんコーナー

小野澤宏時さん、山下大悟さんコーナー

森重隆さん、松尾雄治さんコーナー

村田互さん、小西義光さんコーナー

●パティオ秘蔵品寄贈者 (敬称略)
伊藤忠幸:日本協会評議員/水谷 眞:日本協会理事、関東協会理事長/藤原 優:元世界選抜/斎藤 寮:元日本協会理事、元明治大学監督/松尾勝吉:元関東協会理事/赤間敏雄:日本協会評議員、関東協会監事/村田 互:7人制日本代表監督/森脇敏史:専修大学OB、帆柱クラブ代表/真下 昇:日本協会副会長/浜本剛志:日本協会理事/伊藤 隆:元リコー監督、元日本代表コーチ/坂田好弘:日本協会評議員/平島正登:慶大OB/永田 博:元関東協会理事、ツアーコミッティー委員長、元田園RS副校長/松分光朗:関東協会名誉会長/原山國秀:中原整形外科医院長/小野澤宏時:日本代表、サントリーサンゴリアス/山下大悟:NTTコミュニケーションズシャイニングアークス、元日本代表/森重隆:福岡高校監督、日本協会理事/松尾雄治:前成城大学監督/小西義光:元日本代表/日比野 弘:日本協会名誉会長/土光哲夫:日本協会顧問/赤間健一郎:関東協会ツアー委員会委員/仲宗根 健太:慶應義塾、田園OB/日本協会/関東協会/スズキスポーツ/カンタベリーショップ/桐蔭学園高校



三笠宮殿下と赤間校長(左)



左から森会長、矢部専務理事、赤間校長、水谷理事長
1968年オールブラックスJrを破った25人の勇者

現在では、田園ラグビースクールのクラブハウスのように利用されている「パティオ」ですが、平成4年田園クラブ代表であった赤間校長を中心に、クラブメンバーの皆さんがラグビーや地域の話に花を咲かせられるような、地域社会に根付く雰囲気を持った場所を作りたい、という思いから作られたものです。

賛同されたクラブメンバーの皆さんから貴重な秘蔵品(写真や世界各国のジャージなど)が提供され、所狭しと展示された、まさしくラグビー博物館です。

平成6年7月には初代パティオとしての披露パーティも行われ、以後地域の皆さんや田園クラブ、スクール関係者の憩いの場所として活用されました。そして、一昨年の平成21年には田園ラグビースク

ル15周年を機にリニューアルされ、田園都市線沿線にお住まいのジャパン経験者の多くの皆さんから記念品などを寄贈して頂き、現在のパワーアップされたクラブハウスとなりました。

今後もスクールの理念が受け継がれていく場所として、地域社会に根付く場所としてクラブ、スクール諸先輩の皆さんや関係者の思いをのせて多くの皆さんに活用されていくことでしょう。



赤間校長(右)と旧知の仲のジェリー藤尾氏



元日本代表WTB3人、左から藤原優、水谷眞、伊藤忠幸各氏



元日本代表松尾雄治氏を中心に竹谷誠統括(右)、永田雅人統括



村田互氏を中心に兄の村田晶コーチ(右)と元日本代表SH小西義光氏

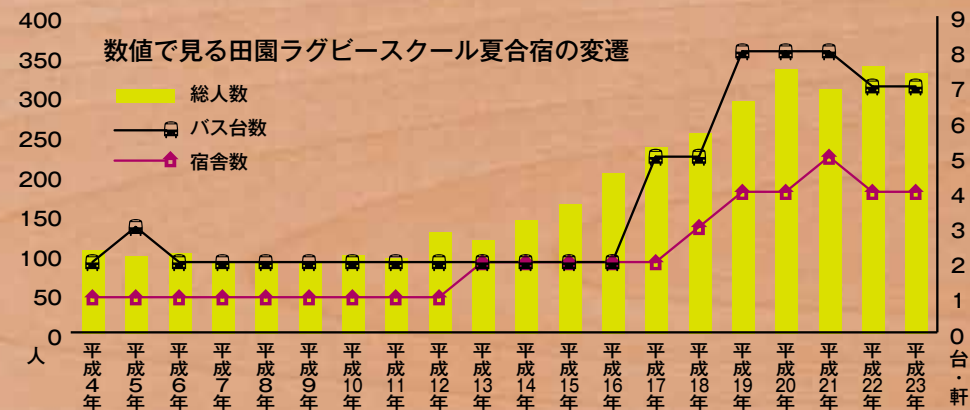
合宿の変遷

年度	平成 4 年	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年		平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
場所	山中湖	山中湖	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平		菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平	菅平
小学生 宿舎	専修大学 山中湖セミ ナーハウス	専修大学 山中湖セミ ナーハウス	ベルニナ	ベルニナ	田沢館	田沢館	エーデル	エーデル	まるみ山荘	まるみ山荘		まるみ山荘	まるみ山荘	まるみ山荘	まるみ山荘	まるみ山荘 ふあーむロッジ	まるみ山荘 白明館 ふあーむロッジ	まるみ山荘 白明館 朝日館	まるみ山荘 白明館 ふあーむロッジ	まるみ山荘 白明館 ふあーむロッジ	まるみ山荘 白明館 ふあーむロッジ
中学生 宿舎							エーデル (多摩RSと合同合宿)	エーデル (多摩RSと合同合宿)	まるみ山荘 (麻生RSと合同合宿)	山光館 (麻生RSと合同合宿)		山光館	山喜荘	山喜荘	ホテル亀屋	ホテル亀屋	ホテル亀屋	ホテル亀屋	ホテル亀屋 エーデル	エーデル	ホテル亀屋

日本有数の規模

田園ラグビースクールの夏合宿は、開校の年以来、昨年(平成23年)までの20年間にわたり、毎年実施されています。参加する選手、コーチ、父兄の人数は当初106人からスタートし、平成16年には200人を超え、平成20年にはついに300人を超えました。その頃から宿泊先の旅館の数は4件、バスの数も延べ7~8台を貸し切りで利用する規模に成長しました。おそらくこの規模は、日本全国のラグビーチームを見ても有数のものです。

これだけの規模の合宿で、安全を全てに優先し、尚且つ生徒の成長を実現し、楽しい思い出として残す



ためには、綿密な計画と十分な事前説明はもちろん、合宿本番での運営、終了後までを通して、コーチ、父兄によって編成されるスタッフの裏方作業が機能していなければ成り立ちません。まさにここでも、One for All, All for One の精神が実践されています。

開講当初の合宿は、山中湖の専修大学の施設で実施されていました。田園ラグビースクールの夏合宿は、そのころから現在に至るまで、6年生のリーダーを筆頭に、参加する全学年での縦割り班で構成されます。第1回夏合宿リーダー(生徒)会議録を見ると、当時も「いびきがうるさい」とか「生意気な子がいる」とか、問題がでる中で、リーダーの生徒は赤間校長や永田副校長のアドバイスをいただきながら、規律を保つためにがんばっていたことがうかがえます。



永田副校長(後列左端)と赤間校長(前列右端)

年少受入れ組の菅平初合宿

年少から受入をスタートさせた平成12年組の初合宿！ 小学1年生として初めて参加人数が2ケタ(15人)に！ …コーチは大変でした(笑)。



芽生える仲間意識

縦割りの班編成によって、上級生は下級生の面倒を見、下級生は上級生に迷惑をかけないように(怒られないように)協力する中で、同じ学年だけで練習し



6年生の班長は班の名前づけの理由を全員に説明する



記念撮影



ているいつもの日曜日とは違い、学年を超えた仲間意識が生まれます。6年生のリーダーと5年生のサブリーダーは、忘れ物やなくし物をする下級生、夜鳴きをする1年生の面倒を必死にまとめます。それでも遅刻などした場合には、6年生はコーチから厳しく叱られ、集団生活を率いるリーダーシップを身につけていきます。山から下りてきた我が子の成長を親は感じるものの、その後の長い夏休みで元に戻ってしまう子も多いようです(笑)。

閑話休題



ご飯
おかわり記録
8.5杯!

田園ラグビースクール夏合宿20年の歴史に燦然と輝く、ご飯のおかわり記録保持者の上條慎之介君(平成17年小学部卒)

6年生によるハイパントキャッチ

合宿初日の最後に、6年生全員は、リーダーとしてしっかりやりとげることを誓うため(?)、自分の班の下級生に「俺たちはすごいんだぜ!」と、いいところを見せるため、そして小学生最後、またはラグーマン最後の夏合宿の思い出に、コーチが高く蹴り上げるハイパントをキャッチするイベントがあります。お父さんがコーチで参加している場合は、お父さんコーチがキックすることもあります。キャッチの成功率は、60%くらい(?)

平成5年度 山中湖



平成6年度 菅平

お世話になっています(宿舎)

まるみ山莊

言わずと知れた大本営。
菅平に広がる芝生のグランド3面最高です！ 父兄には、「まるみに泊まらなければ、田園の夏合宿に参加したとは認められません」と言い伝えられています。その昔、明治大学が合宿で使用しており、未だに嫌な(楽しい)思い出が蘇るコーチが数名入るようです。(笑)



白明館

平成19年(初代館長は、強面Kコーチ)より定宿に。朝の体操は、白明館グラウンドで行われます。ご飯が美味しいとの噂が、コーチ・父兄に囁かれています…。



ふぁ～むロッチ

平成21年より定宿に。部屋には、レタス・はくさいにんじん等の可愛い名前が着いています。宿舎の名前通り、子供達には少し苦手である野菜が毎食並びますが、大人達には大好評です。



龜屋

現在DJの宿舎として活用中。夜のロビーでは、関西の強豪高校の先生と生徒の関係で某コーチ達が、お酒を酌み交わしながら素敵なラグビー談義に花を咲かせています。



父兄スタッフあつての合宿運営

平成17年の合宿から、参加父兄全員に役割が与えられるようになりました。何回か来られた父兄はテキパキと動けるけれど、初参加の父兄は何ををしていいかわからずウロウロしているだけ…ということがないようにするために、係を割り振ることにしました。会計係、食事係、ポカリ係、救護係、氷係などなどです。初参加のご父兄も戦力です。皆で行きましょう。菅平へ！

[illegible]

真剣！ コーチ・父兄会議

夏合宿の毎晩9時、各コーチが担当部屋の就寝確認を終えると、全コーチ・父兄によるミーティングが始まります。その日の練習・試合での出来事を発表する学年ヘッドコーチの声は皆、枯れ果てています。子供達のグラウンドでの頑張りを報告し、感動のあまり涙声になる事もしばしばです。その後、各学年に分かれての反省会と意見交換が、熱く熱く延々と続きます。

眠気も吹っ飛ぶ朝の体操

合宿は日を積み重ねるうちに辛くなっていくものです。特に朝起きた時は、「また、今日もしんどい練習が待っている～。練習なんか嫌だよ～!」と感じてしまうものです。そんな子どもたちのモチベーションを一気に盛り上げてくれるのが、“ラジオ体操のお兄さん”の役目なのです。このお兄さん、昔は左右違う靴をはいて相方につっこまれるという程度のかわいいうギャグをかましていましたが、どんど



お土産の買い物

田園の夏合宿では、1000円のお小遣いが認められており、練習の合間に「しゃくなげ」に買い物にでかけます。低学年では、ピストル、玉手箱等のおもちゃ等の子供らしい買い物が多いようですが、さす



んエスカレートし、最近では“づら”をかぶったり“海パン”をはいたり、挙句の果てには、ナレーションつきで戦隊ものの寸劇をするようになってしまいました。もう手に負えません。いったいこの先どうなってしまうのでしょうか？

P.S.必ずしも子どもたちに“うけていない”というの、何ともいえない雰囲気をかもし出して良いんですよ、これが。



コーチの余興、「それもあり」なのです！

司会の「おりもnakanishi政夫」



バーベキュー後に、コーチによる余興を始めようと思った理由は、「ラグビーを通じてプレーヤーに何を残せるか？」というコーチングの基本に起因します。何でもありのラグビーだからこそ「それもあり」を教えてやりたいという思いでした。

チームの中でも、定期戦の相手校でも、優秀なプレーヤーより、宴会やアフターファンクションで一芸を披露した選手のことを後々まで覚えていたりするものなのです。ラグビーにおいては、そのチームを表現する上で、無くてはならない時間が余興の時間であり、そこで最高のパフォーマンスを演じることの出来る選手は、チームの代表として1本目のプレーヤーと同等の価値があると思います。「それも

あり」なのです。そしてそれも「ラグビーとは？」なのです。

子供たちの前で漫才をやりながら、「ラグビーなんて、1本目が偉いわけじゃないぞ。これもありなんだよ。タックル出来ない奴、これだったら出来るだろう！ 堂々とアホが出来る人間になれ！」というメッセージを込めていました。中学の合宿では生徒自らが一芸を披露してくれます。コーチ顔負けの素晴らしいパフォーマンスを見ると、メッセージを受け取ってくれた生徒たちへの感謝の気持ちで一杯になります。さあ、コーチの皆さん、堂々とアホになりましょう。

(平成18年 余興開始当時の竹谷統括コーチ談)



平成18年



平成19年



平成20年



平成21年



平成22年



平成23年

6年生の思い出づくり(ダボス登り)

平成20年の夏合宿から、6年生は3日目の午前練習で菅平高原名物「ダボス登り」を行っています。6年生までラグビーを続けてきた仲間達と山を駆け上がり、シュナイダー塔にタッチして後ろを振り返った時、6年間の思い出が詰まった菅平高原を一望し

ます。グラウンドも宿舎も全てを見渡し、仲間達とラグビーを続けて来てホントに来て良かった！ と思う瞬間がそこに有ります。6年生父母も同行し(こちらはゆっくり歩いて)、頂上の広大な平地での「親子合同練習」で感動はピークに達します。



平成20年



平成21年



平成22年



平成23年

最終日、感動のセレモニー、「自分へのご褒美」

田園ラグビースクールの夏合宿の最終日は、選手、コーチ、父兄、総勢300名強がグラウンドに集まり、コーチによる「コンビ」のデモンストレーションや、キャプテンと全員による締めくくりの「田園ファイト!」×10回のコールなどのセレモニーがあります。

中でも圧巻なのが、300名全員が全ての人と手を合わせる「ハイタッチ」。これには、「全員が互いの頑張りを称え合う素晴らしい時間を作ろう…」とい

う思いが込められています。ここで流れる涙は、最終日だからではありません。頑張った自分へのご褒美なのです。



文集「合宿の思い出」

当初より、不定期的に夏合宿に参加した一部のコーチ、父兄、子供達に作文を書いてもらい、配布しておりました。しかし、平成15年からは、子供達、統括、ヘッドコーチ、初参加の父兄及びコーチには強制的に書いてもらい、『夏合宿の思い出』として製本をしております。

文集担当のコーチは、期限内の原稿集めから県大会前に配布完了迄夏合宿が終了しないという過酷な任務になっております。平成23年版は、なんと総数292ページに渡る思い出が詰まった素敵な文集になっています。



海外支部便り

イタリア ミラノ支部

柏木 尚/明/達 (2007年3月～11年5月)

2011年ラグビーワールドカップが終わりました。イタリアはプール3位、決勝トーナメントには進出できませんでした。2011年10月現在の世界ランクは12位(日本15位)。1871年に始まった、イギリス4カ国対抗に、1910年フランスが、2000年にイタリアが加盟し、現在の6ヶ国対抗(シックスネ이션ズ)が始まりました。その結果、サッカーの国イタリアでも、ラグビーが盛んになってきました。

イタリアの学校にはクラブ活動がありません。運動や芸術、音楽などは、自分が好きなものを選び、学校以外の場所で学びます。日本の高校ラグビーや、大学ラグビーに相当するものがなく、スーパー10というセリエAプロリーグ(日本のトップリーグに相当)の下に、セリエB、セリエCがあり、クラブチームが沢山存在します。各クラブチームは、Under20からUnder8まで、2歳刻みでチームを持ち、ラグビーを学び、楽しんでいます。

柏木家が4年間住んだ、イタリア北部の都市、ミラノの近郊にも、20チーム程のクラブが存在し、そのひとつ、“Amatori Rugby Milano”に、二人の息子たちとともに所属、私はU10のコーチを、明はU14からU16、達はU10からU12を経験しました。明は、イタリア人の子供たちの成長の早さに置いていかれ、Piccolissimo(小人)と呼ばれるほどの体格差と言葉の壁に苦勞をしましたが、田園で学んだ、激しいタックルで活路を見出しました。達は、まだ体

格差も無く、お得意のボディーラングエイジで会話をし、楽しんでいました。各クラブチームは、立派な芝グラウンドとクラブハウスに恵まれていて、土のグラウンドで試合をすることはありませんでした。イタリア人は非常に陽気で、喜怒哀楽が激しく、感情をそのまま出す力強いラグビーをします。また、コーチは、殆ど子供たちをしません。指導方法も、おおざっぱ、時間も適当、まさに、国民性の違いを感じ、初めは戸惑いました。しかし今は、日本に戻り、全てが非常にきちんと運営されていることに、正直、少し戸惑いを感じています。

現在、サッカーの強豪チーム、インテルミラノで活躍する長友選手など、沢山の日本人プロサッカー選手が海外で活躍しているように、ヨーロッパや、ニュージーランド、オーストラリアなどのラグビー強豪国で、世界のラグビーを経験し、学んだ日本人選手が、もっともっと増えてくれば、日本のラグビーも、世界レベルに近づき、ワールドカップでの活躍も期待できるのではないかと、そんなことを感じる事ができた、4年間のイタリアラグビー経験でした。

最後に、初めての日本人を温かく受け入れてくれた、アマトーリ・ラグビー・ミラノの皆さんに感謝します。



親友 Paolo コーチと Under10 の選手とともに (2008 年春)



2007 年秋、ワールドカップフランス大会 アレジ選手と共に



2010 年春、明最終戦、U16 の仲間たちと

オランダ支部

落合 啓二 (2003年2月～05年3月)

田園ラグビースクールの20周年、誠にありがとうございます。

息子、娘が生徒として、そして私もコーチとしてお世話になり、その歴史の中に参加できたことを幸せに思います。今回は、海外支部の1つとしてオランダでのラグビーとの関わりについて少し触れさせて頂きます。

オランダでは昨年のワールドカップで準優勝したサッカーがメジャーで、ホッケー、アイススケートなどが有名です(多くの有名なK1ファイターもいます)が、北部のいくつかの街ではラグビーのクラブチームもあります。

家族は2003年4月にオランダでの生活を始め、息子は高校入学までの2年間オランダで生活し、その間、アムステルダム南部のアムステルフェーンという街のクラブチームに所属していました。

同年代(14歳～15歳)のチームでプレーしていましたが、息子は体が大きい方だったので、時々、1つ上の年代のチームでプレーさせられることもありました。

オランダのラグビーはレベルも高くなく、あまり基礎的な練習をしないという印象でした。スクラムの練習をしているのをみたことがありませんでしたが、中学生レベルでも8人でいきなり組むし、ヘッドキャップはしないし、女子の選手がプロップをしたり、驚かされることもたくさんありました。今でもよく覚えている出来事の1つは、2004年のイースターホリデーに息子のチームがバスでデンマークへ遠征したことです。家族は参加できなかったのですが、家内と娘2人車で後を追いかけてきました。肝心のゲームでは、運よく息子が3トライし、グラウンドの隅でゲーム後に行われたBBQでコーチから息子が3トライしたから3本ビールを飲んでいけ、と言われたのをよく覚えています。

息子にとっても家族と離れ4日間オランダ人の中で行動し、ゲームでも貢献できたので良い思い出の1つになっているようです。



もう1つの出来事は、日本女子代表とオランダ女子代表とのゲームを観戦したことです。

オランダ人は世界一平均身長が高いので、まるで子犬と牛がゲームをしているような感じで、後半途中まで日本がリードしていましたが、最後は体力差で日本チームは逆転負けしました。日本チームを応援していたのは我が家だけでしたが、家族全員で必死になって日本代表チームを応援したことよく覚えています。

息子は帰国後ラグビーから離れてしまいましたが、オランダでのラグビーしたことは良い経験になったと思います。また、家族にとっても全員で行動できる良いきっかけになっていました。

最後に、赤間校長をはじめスクールの運営に携わっておられる方々には本当に頭の下がる思いです。これからも地域の子供たちにラグビーの楽しさを広めて頂き、30周年、40周年と歴史を積み重ねていかれることを祈念いたします。

ニューヨーク支部

机元 浩 (2002年8月～07年7月)

2002年は海外支部開設ラッシュでした。まず春に濱野コーチがロンドン、夏に机元がニューヨークそして落合コーチがオランダとわずか半年で3つの支部ができました。活動報告は菅平の夏合宿夜のコーチ会議中に大西コーチに電話をしてコーチ全員に電話を回してもらおうといったほのぼのとしたもので、また、当時の活動では土曜日に行われる「ニューヨーク・オールジャパン」の練習や試合に参加し、夕刻から熱いラグビー談義に花を咲かすというのが楽しみでした。駐在員、留学生等で構成されており、部員が頻繁に入れ替わるのが常態化していましたが、それでも20年以上の歴史を持つクラブです。アメリカには他の都市にも日本人チームがあり、年に一度「シカゴ」「ロサンゼルス」と三つ巴で「ジャパンカップ争奪戦」をやっていました。2005年にはもっと輪を広げようとパリに遠征し「パリジャパン」「ロンドンジャパン」と交流試合をし、さらにパリの名門クラブ「スタッド・フランセ」ともパリ郊外の素晴らしいグラウンドで試合を行いました。その時に「パリジャパン」で幹部をされていたのが井手コーチです。そのパリ遠征時にラグマガが取材に来ており全員の集合写真が掲載され、大人数のため、写真一人一人は米粒大だったのですが、大西コーチが「机元さんが載ってる」と連絡をくれました。米粒ほどの写真の中から

見つけてくれた“集中力”も驚きでしたが、当時ニューヨークではラグマガが手に入らないので掲載の事実を知らず、今では良き想いでとして宝物のひとつになっています。大西コーチに感謝です。最後に、田園卒業生がさらに海外支部を増やして世界に大きな輪を広げてくれるのを楽しみにしています。

中山 晴 (2009年7月～)

我が家を通う地元のクラブ「OGRCC」は約6年前に設立、第一回WCで活躍した元オールブラックスの名ウイング「テリー・ライト」も創設メンバーに居たというU9~U15のためのクラブ。新任支部員の草場さんが先日見学してくれましたので詳細はお任せします。尚、このチームのU15は隔年で海外遠征(去年はスコットランド、来年はWalesとの噂)しており来年は最高年次での次男(SH)の番(長男は昨年スコットランド遠征済み)いつか田園と試合を橋渡しできれば良いかと密かに思っています。高校ラグビーは春にたった3ヶ月だけとなりますが、夏から晩秋までラグビー・キャンプや7人制大会など色々あり、真冬以外には何かしらずっとラグビーが出来る環境です。彼らはシーズン中「ナショナル



New+Jersey+Cup 優勝 前列右から3番目 中山晴



マンハッタンのど真ん中 グランドセントラルにて 左から中山コーチ 草場コーチ 机元コーチ



U17 代表 中山陽

(“花園”に相当)」と「州大会」の2つのタイトルを目指して頑張ります。昨年入学した長男(SO)が通う「Greenwich高校」は110人の部員数を誇る州の古豪、ここ4年連続州チャンピオンに輝く公立校です。今年はナショナルまで「あと1勝」というところで敗退するも来年に向け日々頑張っています。大学ラグビーもIvy Leagueなどを中心に昔から盛ん。実はブッシュ前大統領はエール大学のFB、クリントン元大統領もオックスフォード留学中にラグビーに目覚めLOでプレーを楽しんだことご存知でしたか?田園を離れて早2年、寂しい思いも一杯ですが、当地でもラグビーを通じ思わぬ出会いが一杯あり、親子ともども引き続きラグビーを中心とした生活をエンジョイしています。ニューヨーク赴任の際は是非、コネチカット州のGreenwichへ!

草場 拓也 (2010年10月～)

OGRCCは駐在員が多く住むGreenwichの地域コミュニティで地域の活性化を目的としており多くのボランティアによって運営されています。野球、バスケット、サッカー等アメリカの子供達が慣れ親しんだスポーツに加えてラグビーも存在しています。欧州、中南米の駐在員も多い地域でありラグビーも盛んです。OGRCCでは入会は7歳からということ



草場さん

で、我が息子(長男)はまだ参加できないのですが、先日練習を見学してきました。メンバーは10名強とこじんまりとした印象。練習は実践的メニューが中心で二チームに分かれずっとタッチフットをやっていました。ノーコンタクトとはいうものの実際はエキサイトしてタックルしてしまう子がほとんどでした。グラウンドは芝生で広くかなり贅沢です。来年からはこの贅沢な環境で息子が逞しく育つことを楽しみにしています。

バンコク支部

豊田芳直(2007年10月～)

今回2度目のバンコク生活は前回のバンコク駐在時(1996-2000)の友人とのやりとりからスタートをしました。再赴任にあたりタイの友人に連絡したところ、丁度キッズチームをつくったから手伝えという依頼があり気軽に請け負ってタイに来たのです。ところが何と子供が6名。そこから私のバンコクキッズ活動が始まりました。コーチが居ない、子供もいない。でも私が拘ったのは子供を預けたいと思われるチームにしたいこと。何故ラグビーが良いのか?暑い国でも大丈夫なのか?怪我は無いのか?道具はどうやって入手するのかなどいろんな心配事がありながらも子供を預けて頂く父兄には本当に感謝しております。毎週の練習で子供達にラグビーの楽しさを教え、上達してからは勝つことの喜びを教えることも出来てきたと思います。バンコクではラグビー用品を揃えるのは日本ほど簡単ではないですが、素晴らしい芝のグラウンド、飲料水やドクターの準備、シャワールームの完備などに逆に日本では考えられない良い環境でラグビーが出来ます。対戦チームもタイの私立学校ではラグビーチームがあるところが多く、また男女問わず生徒全員にラグビーを教えている学校もあります。Bangkok Japanese Kids Teamのようにイギリス人が運営しているチームもあり、年2回の国内の大きな大会では毎年海外からの遠征チーム(香港、スリランカ、シンガポール)とも交流をしています。

2011年度は43名の生徒を抱え3学年(U8,U12,U14)に分かれて練習をしています。残念ながら昨年9月からタイ全土を襲った洪水被災のために12月に行われる予定の大会は中止となってしまいましたが2月のBKK10's大会ではきっといい試合をしてくれるものと思います。去年は念願のU12の部で優勝をし、日本人独特の低いタックルとオーバー、しぶと

いボール繋ぎは大会の話題にもなりました。チームでは挨拶、フェアプレーを徹底して指導をしております。練習の最初と最後のようしくお願いしますと、ありがとうございますの挨拶は他のチームのコーチからもよく褒められ、2009年からは日本人以外の選手も多数チームに参加を頂いておりますしその子達の父兄との交流もバンコクのコーチにとっては楽しみの一つになっています。とにかくタイでのキッズラグビー活動はまずまずの出来と自負しておりますが、全ては私がこのチームに持ち込んだ田園式のコーチの指導方法と父兄・子供に対するスタンスがうまく生かされたのだと思います。かつて田園で新米コーチだった私にいろいろ指導をして下さった先輩・同僚コーチのおかげです。当地でのこういった子供の能力を生かす方法については日本ラグビー協会の幹部の方達にも共感を頂いております。日本にいても海外にいても我々コーチの情熱が、子供の興味向上、スキルアップに繋がり、ラグビーを続けたいという子供達を生んでいるのだと思います。

このBangkok Japanese Teamに在席されていた田園の矢崎(賢)コーチ、森山コーチ、宮本コーチにはOBとして感謝。宮本コーチはこのキッズチームの創始者です。素晴らしいラグーマン達の情熱のおかげで大勢のキッズラグラーがどこかのグラウンドで楯円球を追ってます! ラグビー万歳!



U20日本代表のDRS 高平 OBとDRS出身床田3兄弟と



20110730_0731_BJRFC_Summer CAMP

ロンドン支部

濱野 俊文(2002年5月/田園ロンドン支部
Open!! ~ 2004年7月)

ロンドン赴任時、大輔は9歳、剛己は4歳。2人がプレーしたのは、ロンドン西部のEaling Rugby Club。大輔は03年4月、最初に参加した9歳以下の練習で、幸運にもAチームに選ばれ、翌週London Irishフェスティバルに出場(結果は3位)。04年3月には、Middlesex州大会10歳以下の部に出場。予選リーグでWasps、Bank of Englandらの強豪に競り勝ち、準決勝の優勝候補Saracens戦では、170cm級の巨漢チームに雨中の延長戦の末、劇的な逆転勝利。これで勢いに乗り、見事優勝!! 更に4月には、シーズン最終戦であるNewbury Rugby Clubフェスティバルでも優勝し、有終の美を飾りました。5月のシーズン打上げの式典では優秀選手賞を受賞、クラブの会長から何とNewburyフェスティバルの優勝カップを頂きました!! 大輔、剛己にとって素晴らしい経験になりました。



Newburyフェスティバル優勝

江田 拓郎(2009年4月~)

イギリスはラグビー発祥の地であり、ラグビーは最も人気のあるスポーツです。ラグビーチームは近所に沢山あり、シーズン中は、街中の至る所でラグビーが行われています。俊介と亮介が所属するBank of England Rugby Clubには芝生のグラウンドが3面もあります。8歳以下はタグラグビー、9歳以上は通常のコンタクト有りのラグビーですが、何れも練習は殆どが実戦中心で、又シーズン後半(2月~4月)は毎週試合が続きます。こちらの人(と言っても、イギリス人のみならず、オーストラリア人やフランス人、インド人など多種多様)は、10歳前後から急激に大きくなるので、この先江田Boysがどこまで通用するか分かりませんが、日本男児の意地を見せて欲しいところです!!

私は、Clubの子供達の英語が判らないことがよくありますが、コーチ業を

しっかり楽しみ、ロンドン生活を更にエンジョイしたいと思います!

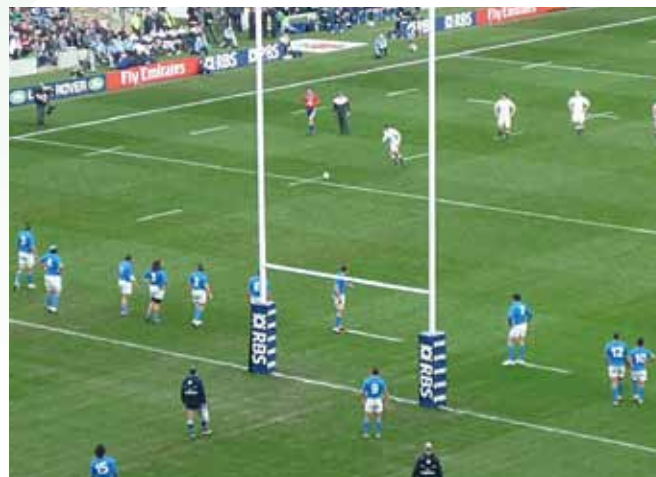


Middlesex州大会優勝

Newbury優勝カップ他



憧れのジョニー・ウィルキンソン選手と



トウィッケナムラグビー場でSix Nations(イングランド対イタリア)を観戦(Toby Flood選手がペナルティキックを蹴るところ)



俊介と親友のトゥリステン君



亮介、激走!

山本 実(中3)

- ①小2~
- ②上田コーチ、柏木コーチ
- ③松藤コーチ、竹谷コーチ
- ④ラストとは?



2011.11.26 ガールズフェスティバルにて

飯田若菜(小4)

- ①年長~
- ②私には怖いものは無し!
- ③ちひろコーチ
- ④ラグビーQueen輝く花園楽しいな 合宿女子部屋、でも秘密



神奈川選抜 A31 に選ばれた山本実

天使のようなブレラ・ガールズ

田園ラ・ガールズの部屋

田園女子部が20周年を記念して立ち上がりました。汗と土と男子にまみれて活躍する、スーパーラグビーガールズをご紹介します。

現役選手直撃インタビュー

- ①ラグビーを始めた学年は ②怖かったコーチは ③お父さんの次に好きなコーチは ④つぶやき

山本 縁(小4)

- ①年中~
- ②田中コーチ
- ③中西コーチ、松藤コーチ、村井コーチ、佐藤コーチ、柏木コーチ
- ④タックル・フォロー・トライ・後何事にも全力でやれ(BY中西コーチ)

林 美玖(小3)

- ①年中~
- ②春野コーチ(怒ったときだけ)
- ③浅野コーチ、雨宮コーチ
- ④「ラグビー姫」になりたいです。

澤井未空(小1)

- ①年少~
- ②黒田コーチ
- ③小谷コーチ
- ④3歳から始めたラグビー 夏合宿大好きです。

糸川咲詠(小2)

- ①年中~
- ②田中コーチ
- ③林コーチ
- ④ラグビールンルン!

筑紫洋子(小2)

- ①年長~
- ②林コーチなんちゃって。
- ③田中コーチ
- ④「女子ラグビー、真剣勝負でタックルだ~!」

ちひろコーチ(高1)

- ①小1~
- ②いなあ~い。でも大西コーチかな。
- ③いっば~い。落合コーチ、永田コーチかなあ。
- ④できるだけ長くラグビー続けます。



キラキラ輝くプリンセス 女子ラグビー練習保土ヶ谷にて

歴代女子通番をご存知ですか?

1~15 欠番

16 諒子 17 千恵 18 絵美 19 舞 20 悠美 21 宏美 22 優梨香 23 香織 24 玲奈 25 菜美 26 恵 27 梨子 28 さとみ 29 京 30 絢子 31 優里 32 香里 33 真希 34 ちひろ 35 愛 36 ゆき 37 実 38 実花子 39 望 40 千尋 41 直央 42 満里乃 43 風子 44 涼音 45 遥香 46 真穂 47 縁 48 陽子 49 若菜 50 美玖 51 愛実 52 瑞希 53 咲詠 54 洋子 55 茉莉 56 未空 57 智羽 58 理佐 59 千智 60 希実 61 真央 62 結衣 63 真唯

きっとこの子たちの子どもたちもラグビーファミリーです。



女子ユースでも活動中の後藤満里乃

練習グランドの変遷

平成4年～7年

國學院大學あざみ野グランド

開校当時の思い出深いグランドです。グランドを取り囲む桜は、春には最高の景色を産み出してくれていました。しかし、そのグランドも、今はマンションに…。



平成6年～15年

赤田西公園(あざみ野遊水池)



すり鉢上になった遊水池。周りの土手は、父兄の最高の観客席になっていました。狭い事が難点(高学年がWTBまで回すと隣の学年の邪魔になる)でしたが、比較的にかんらかい良い土のグランドでした。時々、知らぬ間に野球のマウンドが出来たりし、コーチ全員で削り取った事もありました。

【あざみ野遊水池豚汁会場】
遊水池と土手の上にある公園を結ぶ階段。まさしく、ここが、われらの豚汁会場。



(20xx年完成予定)

赤間敏雄記念グランド???



平成8年～23年

あざみ野南中学校用地予定地

(現在慶応義塾校舎建設中)

グランド2面が取れる広い中学校予定地で、月1回定期的に使用しておりました。助成金で芝生化された事もありましたが、水はけの悪いグランドで、すぐに土のグランドに戻ってしまいました。貝殻・小石が多いグランドで、絶対にこけてはいけないうが合言葉でした。

平成16年～24年

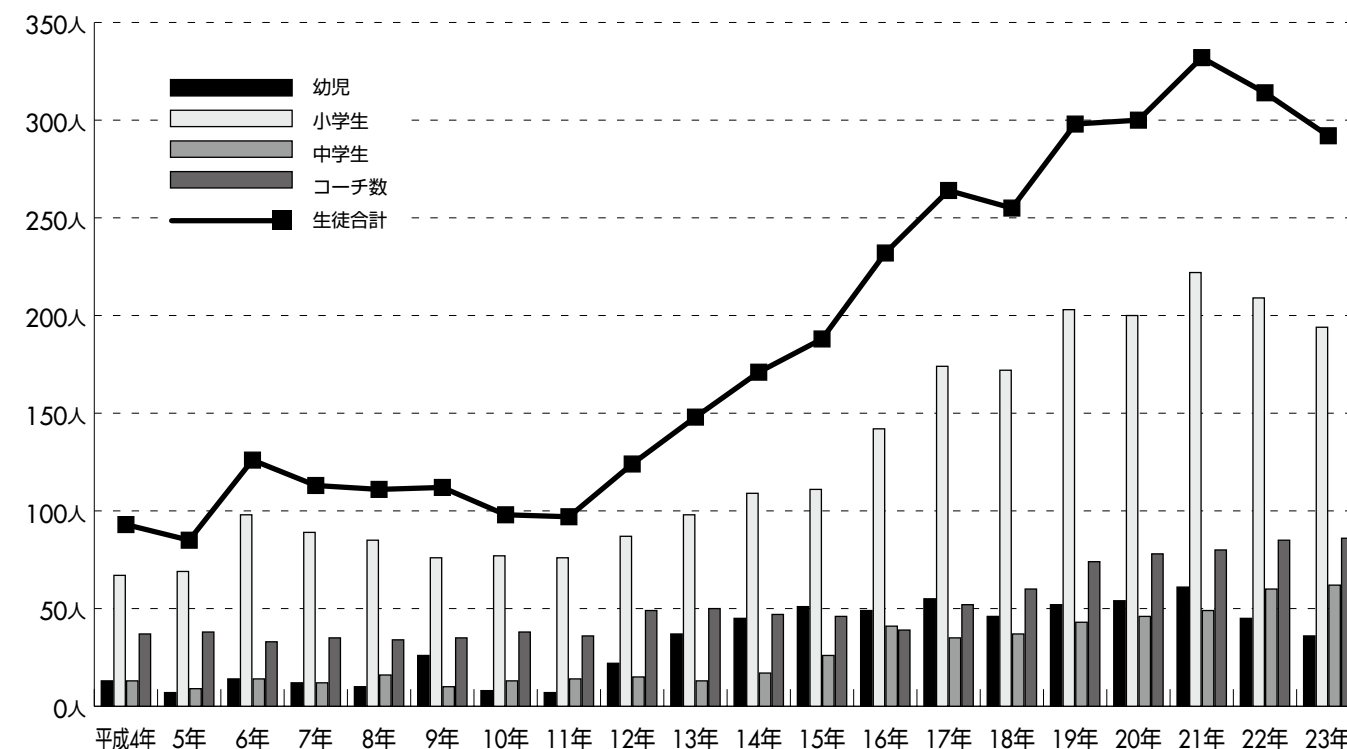
荏田西中学校予定地(ハーモス)

雑草と硬い土でも今はここが、子供達の汗と涙が染み込んだ、田園のホームグランド。近隣対策・駐禁対策・時間対策、全てのルールを守り使わせてもらっています。早く造って欲しいな！ 全面天然芝の「赤間敏雄記念グランド」by 子供達

生徒数推移

開校当時は67名であった生徒数が、右肩上がりで増え続け平成20年には300名を突破しました。以前は自家製ポスターを作成し、関係者が馴染みの店や子供がお世話になっている病院などに頼んでポスターを張らせてもらったりしました。人数が足らず他のスクールと合同チームで県大会に出場した時代

もありました。仲間を集める努力は怠ってはいけません。現在、このスクールを知る一番のツールは、在校生のお母さんたちの口コミのようです。幼稚園や学校でどんどん宣伝して下さい。5年後には500名のスクールにしましょう。ちょっと怖いですが…。



開校時



現在



田園クラブの紹介

この度、田園ラグビースクールは創立20周年を迎えることができました。これもひとえに多くの関係者の皆さまのお力添えの賜物だと思います。本当に有難うございます。

諸先輩方を差し置いて誠に恐縮ではありますが、現在、田園クラブの主将を務めている関係で、簡単に本クラブの紹介をさせていただきます。

現在の田園クラブの活動は、毎年8月と3月に開催される神奈川県スクール委員会主催の指導者交流会の場で、即席チームを作って他のスクールのコーチ陣とゲームを楽しむといったものです。

このクラブは、現役の田園ラグビースクールのコーチ全員で構成されています。つまり、田園ラグビースクールのコーチになった瞬間に、自動的に田園クラブのメンバーになってしまうという仕組みになっています。私も含め、数年前に田園クラブのメンバーになったコーチ陣は、このクラブがどんな経緯で産声をあげたのか、そんなことは殆ど考えたことがありませんでしたが、今回、田園ラグビースクールで創立20周年記念誌を制作することになり、その辺りの経緯に関係者で調べてみることにしました。

田園クラブは、平成10年1月に発足したそうで、当時のクラブはコーチがメンバーである現在のクラブとは違って、できたばかりの“クラブハウスを運営する仲間の集い”といったイメージだったということがわかりました。クラブに所属するメンバーは、



田園クラブ主将 浦山孝男



社会人や大学の強豪チームで活躍された方々が中心だったそうですが、ラグビーの試合よりも専らパーティーやゴルフ等を通じて、メンバー同士の交流を深めていたようです。

そうはいっても、現役時代は一級品のプレーをされていた方々ですので、恐らく抑えていたものが込み上げてきたのでしょう（この部分はあくまで私の推測ですが）。メンバーの一部から「コーチ仲間で試合をしたいね」という声があがり、チームを作って対外試合を行ったのが現在の田園クラブの起源だったようです。

前述のとおり、当時のメンバーは“つわもの”揃いだったため、チームの合い言葉は「子ども（田園ラグビースクールの生徒）は負けても、コーチ（田園クラブのメンバー）は負けない！」だったそうで、その言葉どおり、東京や神奈川のチームとの試合では連戦連勝で向かうところ敵無しといった状況だったようです。

当時のチームと比較すると、今のチームは戦力的には劣っているかもしれませんが、メンバーのなかには、強豪校等で活躍したコーチも数名いますし、骨折しているのに試合に出続けトレーニングも続ける人もいます。また、全くラグビー経験の無い人もいます。一生懸命にプレーしたり、生徒たちを指導する心は昔も今も一緒だと思います。そんな一生懸命な気持ちを持ち続け、これからも田園ラグビースクールと共に、歩んでいけたら良いなと思っています。



20th Anniversary

コーチOB寄稿

松本 春子 西橋 久陽
白井 章 竹内 慎一
上林 努 谷川 利樹



開校当初の思い出

平成4年～10年 **松本 春子**

田園ラグビースクール20周年おめでとうございます。

スクールが開校した当時のことは「たまプラーザ縮刷版」に記録され懐かしく時々引っぱり出して見えています。グラウンドは国学院あざみ野グラウンド(現在のグランケア)で毎週日曜日午前9時から12時迄練習が行われていた。当初小学校1年生から中学生迄で約35名の生徒であった。

「先ず走る事」がラグビーの基本とあって、楕円球をかかえランニングから練習が始まる。1日2時間の練習は中々厳しく、子供達の表情は真剣そのもの。しかし、あちこちに飛び跳ねるボールを追いかける姿は何とも微笑ましい光景だった。

初年度から山中湖で夏合宿を行った。初年度は山中湖の東大グラウンドを借り、引率もコーチ数人の中に女一人で父兄の参加はなかった。子供たちの中には合宿とは知らされず、リュックを背負わされバスに乗り、泊まるという事に驚いた子供もいた。夜、泣き出す子、ホームシックに掛って廊下でママの声を電話で聞かせてとせがまれ(有名な監督でコーチをして下さった御子息)、女一人の私は夜も眠れず、押入れの下段で夜を明かした思い出がある。

その後の合宿先は菅平に落ちついた。三泊四日の合宿は充実したカリキュラムが組まれ、学校の授業よりも緊張し、スパルタ教育という言葉思い出す様な場面さえ感じる熱心な練習や、楽しい様々な企画も盛り込



まれた。ホテルで寝食を共にした子供達は、兄弟愛も生まれた様に微笑ましい姿を見せてくれ、帰りの高原から降りてくるバスの中は様々な経験を思い出に…。

現在は生徒数も5倍位に増え、又、神奈川でも有名な強いチームに育ったことをお聞きし本当に嬉しく思っております。美しが丘公園で小学生が野球をし、父兄が応援している姿を見かけるたびに、当時のスクールの光景を思い出しております。校長も初年の初練習で怪我をされ入院したり、コーチも合宿で足首の大怪我等されたことがくっきりと頭に残っております。ラグビーというとめずらしく、ボールを後に廻すこと位しかわからなかった私も、孫が四人スクールに御世話になり、菅平にも数年合宿に家族で参加し、今でも夏合宿の頃には思い出しております。

当初の指導者のおじ様達も六十代、七十代になり、孫よりも小さな子供達を生涯応援していることと思います。

益々の御発展を御祈念申し上げます。

20周年思い出と近況

平成8年～18年 **西橋 久陽**

「楽」も「安」も「平」もない。というのが近々の心境。

スタンドやいろんなところからの声(?)。選手はどんな状況、環境、理由でも一生懸命!でも「結果が全て!」。私はスポーツや人を観る目がかなり変わった! 今言える近況はこれだけ。

思えば20年前、転勤で九州から横浜に移り、借家の不動産屋さんへ偶然にも出た私の一言、「近くに、ラグビーチームないですか?」。それから田園RSと私の関りが始まった。当時はまだ30代前半で、九州のクラブチームでウイングとしてやっていた。自分がやりたいと思っていた。

不動産屋さんから私に返ってきた答えが「あざみ野の不動産屋さんの社長さんがラグビースクールを始めたらしいです。江田駅北側の遊水地です」。「俺がやりたいとたい!」と言いたかったが、その時ふと長女のことが浮かんた。彼女は生まれた時から背の高い女子であった。「こいつが男だったらなあ」とよく思ったものだった。そんな思いもあり、彼女にはなんとか恵まれた体格を活かしたスポーツをと考えてはいた(バレーボールで春高、インタハイを目指す!)

ようやく生活も落ち着き、長女(当時小1)をなんだかんだと誤魔化し遊水地へ! そこでは白紺のちびっ子ラガー達が鬼ごっこ(?)をしていた。見学後、入会のお話を聞き「では来週」と挨拶をしたところで「おとうさんもやっていたんでしょう? (私はカンタベリーを着ていた)別にクラブチームも持ってるから、来週お父さんもスタイルしてきてね!」と。そう! 松本さんです! 「クラブチームもあつとか? そんならコーチばすつか? 娘も消極的だけん」と



思い、その翌週から早や20年! 当時まだ勇人(2歳)は体が先に動く分、多くは語らず(今も?)、誠人(0歳)は石の様に重かった。

スクールを振り返ると

- ・コーチも子供相手に進め方が?
- ・言うことを聞かない。
- ・集中力なし
- ・タメ口*移動の電車で騒ぐ
- ・試合は大負けばかりの超弱小チーム

だった(菌痒かった!)。数年そんな状況が続いた。そんな中、大西コーチが関西からやって来た。共にイベント係で、当時は溝口でのコーチ会議が多かった。

メンバーは永田コーチ(現永田コーチのお父上!)、浜本コーチ(現ラグビー協会重職)、有沢コーチ(スクールウオーズ)、谷川コーチ(田園Tシャツのデザイン!)、辻上コーチ、大崎コーチ、添田コーチ、竹内コーチなど。

そんなあるコーチ会議の後、「西さん、スクールこれでええの? 」と大西コーチ。関西でスクールの校長を父にもつ大西コーチは、ラグビースクールのあり方に確固な物を持っていた! ゆえに上記のような状況を「変えなん! 」とかなり強く思っていた。それには私も同感だった。ここから田園RSは大きく変わった!

当時を振り返るとまだまだ書き足りないが、私の思い出と近況(心境)はまずはここまで…。

開校20周年おめでとうございます

平成8年～17年 **白井 章**

田園ラグビースクール開校20周年おめでとうございます。元幼稚園・小学校低学年担当コーチとしてお世話になりました白井章です。

私と田園ラグビースクールとの関わりは、1992年（H4年）の春、息子が小3になった時に何かスポーツをやらせたい、しかもチームプレーが良いと思っていたところ、ふと手に取った地域コミュニティ誌の「田園ラグビースクール開校、スクール生募集」の文字が目に入った時からです。「これだ!」と思い、すぐに事務局に見学を申し込み、日曜日の朝、息子と家内と3人であざみ野のカリタス女子短大の裏手にあった国学院大のグラウンドに行き、翌週から息子と私たちのラグビースクール通いが始まりました。

そして、息子達は基礎体力作りから、パス、タックル、スクラム等の練習を積み重ね、山中湖畔での初めての夏合宿、スクールとして初めて参加した秋の交流戦、年末の餅つき大会など沢山の楽しい体験をさせて頂きました。

夏合宿で特に印象に残った事は、低学年の子供たちを宿舎からグラウンドに誘導する時、永田

副校長らコーチ達が洗濯ロープの前後を持ち、そのロープに子供たちの小さな手が左右から取り付いて歩いていた事。その行列を見守る他のコーチや父母達の驚きと優しい目。そして、最終日前夜のお楽しみ会での子供たちの多彩な隠し芸大会などです。

年が変わり、寒さに震えながら息子達の練習を見ていた私は、自分も体を動かしたいと思い、コーチのお手伝いを申し出て快く受け入れて頂きました。春からコーチとして低学年を担当させて頂いたところ、練習開始直前にスパイクの紐が結べなくて泣いていた子供。練習中にグラウンドにお絵かきする子供。休憩時間になると急に元気になり、木に登ったり、虫や蝶を捕まえることに夢中になる子供。そして「これ預かって」と小石や木の実を差し出す子供たち（コーチ達のトランクスのポケットはモッコリ…）に、自分の息子以上に濃密に、楽しく遊んで貰いました。そんな子供たちも20年経った今、立派な社会人や大学生になりました。

仕事の合間に必死で練習メニューを考え、週末の夜の担当コーチ・ミーティングでお酒を飲みながら熱く語り合い、日曜日の練習で思ったほど手応えがなくて自信を無くしかけた事。交流戦や練習試合中に、子供たちのプレーやガッツに感激して目から汗が流れそうになった事。本当に楽しい思い出が沢山出来ました。ありがとうございました。

一緒に遊んでくれた沢山の子どもたち、赤間校長はじめコーチ・スタッフ、事務局の皆さんに心から感謝すると共に、田園ラグビースクールの皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りしております。



後列左から2番目

開校当時の思い出

平成4年～9年 **竹内 慎一**

1992年、春。田園都市線在住のラグビー関係者の集まり、田園倶楽部が地域への貢献としてラグビースクールを開校することになったとの記事を目にした。伊藤忠幸、水谷眞、伊藤隆、浜本剛志といった名前が連なり、自分の子供はまだスクールに入れる年齢ではなかったが、あざみ野の国学院のグラウンドはすぐ近くでもあり、一度は見学に行きたいと思っていた。

5月に入り、田園ラグビースクールでは大人のメンバーも募集しているとの記事を見て、高校以来のラグビーを再開しようと思いグラウンドを訪れると、事務局の松本さんから「コーチもして頂けないでしょうか?」と意外なことを言われ「え、私でいいんですか?」と引き受けたのが始まりであった。

こうして水谷氏と一年生を担当することになった。当時のコーチはあざみ野不動産の社員の方々と川崎クラブのメンバーが多かった。当時リコー監督の水谷氏は「リコーの監督の方がよっぽど楽」と1年生の扱いに手を焼いていた。慶応大で活躍した浜本兄弟の兄、兄弟とも東海大相模で県大会決勝まで進んだ土屋兄が当時から在籍していた。最年少の幼稚園クラスには現在トップリーガーの佐藤晴紀の頭一つ大きな姿があり、よく目立っていた。

2年目に持ち上がりで2年生を担当すると、本郷高で花園に出場した石井が加わった。3年目は2年生、つまり佐藤の学年を担当する。川和高から明治大に進んだ野原も同学年であった。

4年目は6年生を担当し、秋には私自身初めての公式戦を経験したが、圧倒的な弱さで全敗した。田園は初年度は練習だけに専念していたが、2年目からは公式戦に参加、しかし、どの学年も負けてばかりで「田園は弱い」とのレッテルを



後列左端

貼られていた。高学年の子たちは始めた年齢が遅くハンデが大きかったためであり、当時の子供たちには本当に気の毒なことをした。彼らのお蔭で田園の今の姿があることを忘れてはいけない。

5年目、5年生を担当する。1、2年生の頃担当した学年である。湘南高から慶応大に進んだ河村が加わっていた。秋のシーズンになり、公式戦は3戦目まで全勝。開校時1年生のこの子たちにはハンデはないと思っていたが、その通りだった。最後の試合に勝利し優勝することを確信していたが、私が教えてこなかった相手チームのラックに対応できずに敗れてしまう。

このショックは大きく、翌年も彼らを担当する自信がなくなり5年生を志願した。ところが6年生が7名だけになり、単独ではチームを組まず5年生と合同で田園6年A、Bの2チームを組むことになった。6年生7人に佐藤らが加わると、本当に強いチームになった。初戦5年生中心のチームで負けた後は、チーム力を落とさずに全員を試合に出す編成で臨み、圧倒的な強さで残りの試合を全勝、A、Bともに優勝を果たした。

種々事情によりこのシーズンでコーチを退く。その後、彼らが高校や大学、更にはトップリーグで活躍する姿を目にすることはこの上ない喜びである。

子供たちに教えられたラグビーの精神

平成8年～15年 上林 努

田園ラグビースクール創設20周年おめでとうございます。

私と田園ラグビースクールの関わりは、スクール創設当時、息子のスクールへの送り迎えの父兄として始まりました。グラウンドへ顔を出しているうちに、いつのまにかコーチとして子供たちと一緒に楯円球を追いかけていました。そのうち娘もスクールへ加入し、妻も事務局として関わりを持ち、気が付けば日曜日は家族全員がグラウンドにいる日々が続き、日曜日の午後の洗濯機はいつも泥水でした。

創設当時の田園ラグビースクールは、子供たちはもちろん、コーチもミニラグビーの経験が浅く、決して強いチームではなく、むしろ連戦連敗の弱いチームだったと思います。そんな中、当時の4年生だったかと思いますが、子供たちの中に感情の変化を感じました。それは「悔しい」と言う感情で、そして「勝ちたい」という思いに変わっていきました。

大津グラウンドでの試合前のミーティングの際、ある生徒から「お前にボールを回すから走りきれ」と言う言葉が出て、みんながそれに賛成しました。正直、こんな子供たちからそんな言葉が出るとは思いもしませんでした。その試合は、みんなが彼の言葉通りに試合を展開し、見事な勝利でした。



子供たちの喜びを見て、ラグビーの精神である「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」を子供たちに教えられた思いで、一緒に担当していたコーチと涙が出そうな程、感動したことを思い出します。その後、そのコーチとは「子供たち全員に一度はトライを取らせる」を目標にし、試合の時には父兄には内緒で願掛けのチョコレートキットカット(きつと 勝っと)を食べさせてやってきましたが、残念ながら数人の子供にはトライをさせてあげることができず、申し訳ない気持ちが残っています。

そんな子供達も高校ラグビー、大学ラグビー、そしてトップリーガーと、「子供」と言う言葉が失礼なほど成長しており、その活躍する様をにやにやしながらテレビで観戦しております。

この後はスクール卒業生が桜のジャージを身につけることを願って止みません。

わが田園ラグビースクールは永久に不滅です！

平成4年～9年 谷川 利樹

田園ラグビースクールの皆様、創立20周年を迎えられ、おめでとうございます。

草創期に幼稚園、1年生と雑用係と笑いを担当しておりました谷川です。大変タイヘンご無沙汰しております。娘の陸上の追っかけで、ラグビーから離れてしまいました。ゴメンネゴメンネ〜です！ 時効！ 許して！！

いや、しかし、思い出は尽きません。まだ色んな事が決まってくなくて何度も会議を重ねた事、子供たちが週を重ねる度にラグビーが上手になっていく事、かつてラグマガで拝見した方が目の前にコーチとしていらっしゃり、思わずサインくださいと言ってしまった事。あざみ野駅前パレードのプラカードを徹夜で作った事、吐きながらコーチの試合に参加した事、何か知らないけどコーチが溝の口に集まった事、そして元気だった事、ほんとのラグビーの深さを楽しく教えて頂いた事、審判試験に私だけ落ちた事(涙)等…、そうそう有森選手がバルセロナで銀メダルを獲得し、自分で自分を褒めてあげたいとコメントしていた頃ですね。とても濃い思い出深い数年間でした。ほんとうに有難うございました。

15周年の時に、記念のタオルを頂きました。あのイラストと横断幕が今も使われているそうで、いい生地にしといて良かったです。あのワンちゃんのイラストは、最初は人物にしていたんですが、当時世の中を騒がせていた連中がヘッドギアつけてるイメージに似てしまい、急遽動物に変更したんです。でも片手はダメやとダメ出しがありましたが、強引に今のものに決まりました。古いのでどなたかもっとカッコいいのに変えてくださいね、ヨロシク！

コーチのダックは、単にドッグの次はダック



でいいんじゃないのって、大らかな佐藤さんに決めて頂きました。赤いジャージ、今でも大切に保管しています。チームの和文ロゴだけは残していただければ…と思います。

ところで、田園ホント、強いんですね。また高校・大学と活躍されているお子さんもいらっしゃいますね。一流の素晴らしいコーチ陣に恵まれ、環境もバッチリ、これは育ちますね、ドンドン。もっともっとラグビーする子、続ける子増えるといいですね。ちょっとサッカーに押され気味なんで…。

そういえば先日ワールドカップありましたね。震災に遭われた選手には特に熱く、何とか一矢報いてと応援しました。しかし健闘及ばず…。私は勿論決勝まで見ましたが、もうK1とか格闘技の粋、啞然です。来る日本開催時には、田園出身のラグーマンが沢山出場できるといいですね。夢は大きく持って頑張ってください。

今もご活躍の佐藤さんと大西さん、ごつつ迷惑をばおかけしました(笑)。これから、25年、30年そして50年と田園ラグビースクールがもっともっと発展され、次世代へ繋げて行かれん事をお祈り致します。そして彼らが、いつの日かオールブラックスを破る日が来ることを願ってやみません。

わが田園ラグビースクールは永久に不滅です！ がんばれ田園！！

RICOH

心の動きさえ、感じ撮るカメラ。



速写性と高画質、撮影者の意思に応える快適な操作性を実現。新たな感動の領域へ、進化を遂げたGR DIGITAL IV。

ハイブリッド AF システム	3.0型 123万ドット 液晶モニター	単焦点 GR LENS 28mm/F1.9	有効 約 1000 万画素	1/1.7型 CCD	マクロ 最短 1cm
-----------------------------	---------------------------	------------------------------------	----------------------------	----------------------	-------------------------

GR DIGITAL IV
www.ricoh.co.jp/dc/

*1 RGBにホワイトの画素を加え約123万ドットを実現。 *2 35mm判カメラ相当。

お客様相談センター 050-3786-3999 受付時間: 平日(月～金) 9時～12時、13時～17時(土日、祝祭日、弊社休業日を除く) ※050ビジネスダイヤルは、一部のIP電話を除き、通話料はご利用者負担となります。 ※対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音をさせて頂いております。 株式会社 リコー 〒104-8222 東京都中央区銀座8-13-1

okamura



日本で生まれて世界で育つ。

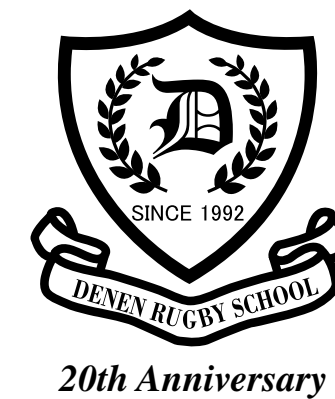
Contessa

Ergonomic Mesh Chair【コンテッサ】

よい品は結局おトクです
オカムラ

<http://www.okamura.co.jp/> お客様サービスセンター ☎ 0120-81-9060 受付時間 9:00～17:20(土・日・祝日) 株式会社 岡村製作所

コーチOB寄稿



現役スクール生とコーチ



幼・小学部主将 野島 諒也

幼児

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

中学部主将 須藤 空良

中学生





田園ラグビースクールで学んだこと



平成23年度 幼・小学部主将

野島 諒也

ラグビーを通して学んだこと。

それは仲間の大切さである。学校では、ラグビーというスポーツは痛くて激しいスポーツだと思われているが、週1回しか会わないチームメイトとは深い絆で結ばれている。

ラグビーは、声を出して自分の思いを伝えなければ成り立たない。それは、ラグビーはみんなでボールをつなげて点を取るスポーツなので、個々の力だけでトライしようと思っても思い通りにはいかず、いつも仲間が後ろにいることを信じなければトライはできないからである。タックルして相手を倒しても、二人目、三

人目がいなければ、ボールを奪うことはできない。ボールを奪わなければトライはできないから、仲間は不可欠なのである。

3月11日の東日本大震災で被害にあった人達を、釜石シーウェーブスの選手達が助けている映像をテレビで見た時、もっとラグビーが好きになった。チームでボールをつなげて、トライにつなげることを、生活に生かせば、もっと良い世の中になると思う。

僕もラグビーで学んだことを生かして、社会に貢献できる人になりたい。



※事務局注：野島諒也君の祖父様は赤間校長の高校（福岡県立嘉穂高校）ラグビー部の先輩です。

幼児クラス

とにかく「明るく楽しく元気よく」そしてラグビーを好きになってくれればいい。しかし、練習中はトンボやバッタが気になって、練習が終わると一番嬉しそうにニコニコ笑っている。そうかと思うと、試合中には大人顔負けのタックルをしたりもする。

また、年度の初めには話せなかった子供も話せるようになる。まさしく目に見えて成長している。試合に負けた時、泣きながら戻って来る姿を見るとこちらが泣けてくる。

子供達の記憶にどこまで残っているか分からないが、一生懸命に力を出し尽くした事、悔し

かった事、みんなで笑いあった事をほんの少しでも覚えてくれていれば有難い。更に贅沢を言えばコーチ達の事も忘れないで欲しい。

そんな子供達と同じ時間に同じグラウンドに立つ事が出来るコーチはとても幸せだと思う。あまり難しい事は分からないが、これからもずっと楕円形のボールを仲間と共に追いかけて欲しい。いつの日か田園のコーチになって同じ思いを感じて欲しい。

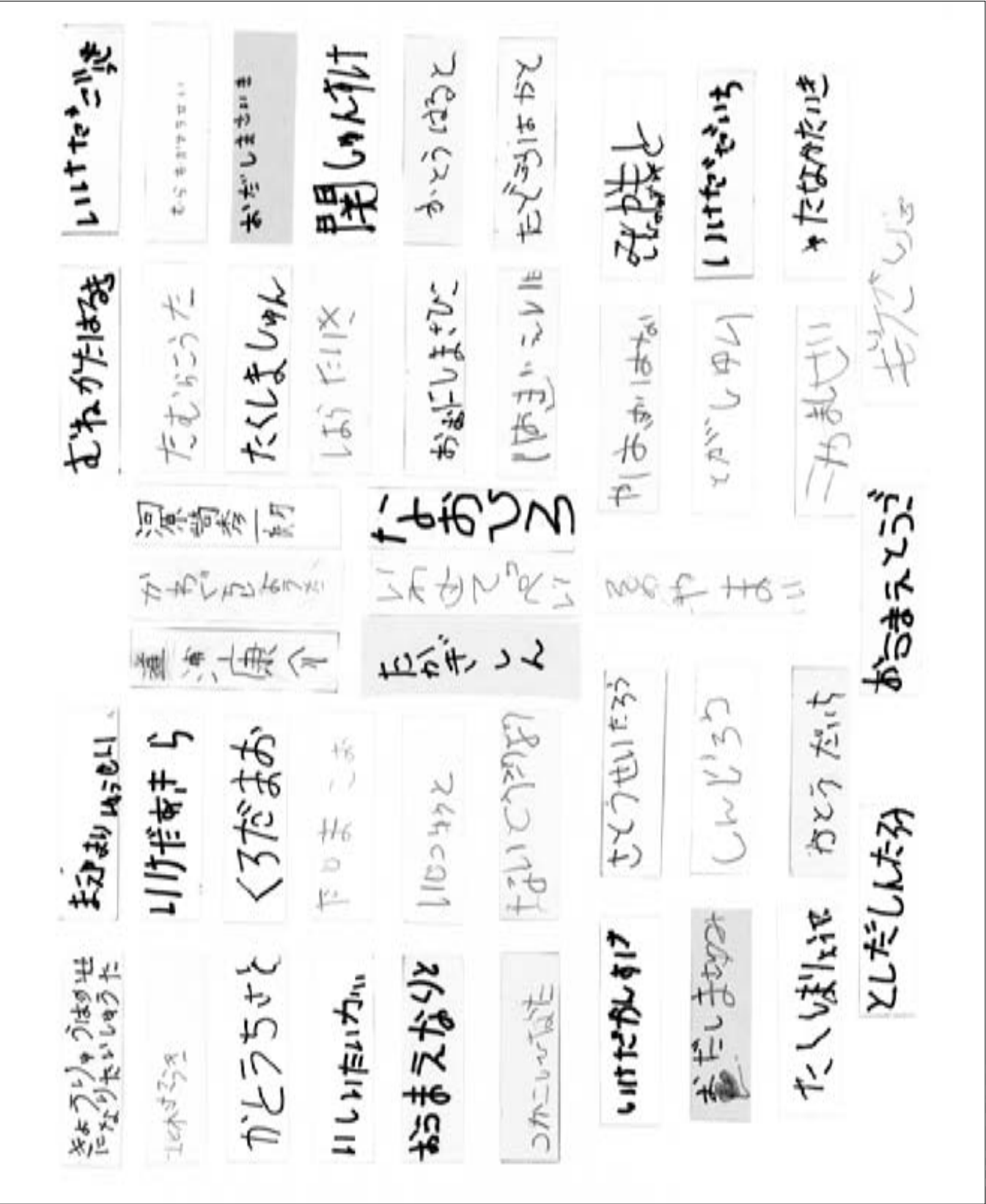
(平成23年度 幼児クラスヘッドコーチ 島本 祐二)



■担当コーチ一覧			
ヘッドコーチ 島本 祐二 #158		サブヘッド 田所 浩史 #161	
林田 守弘 #49	齋藤 敏直 #140	菅原 義尚 #101	緒方 義弘 #184
増田 謙 #185	矢作 斉 #187	岩佐 直人 #196	王前 雅之 #203

■平成23年度クローカーン

「あかるく だのしゅげんきちゅーラグビーをだのしゅげん」



小学1年生

DMM1年生ヘッドコーチの黒田です。コーチ暦5年の若輩者で僭越ですが、田園RS20周年を迎えるにあたり、当学年の紹介並びにご挨拶をさせていただきます。

当学年は、各種経験豊かな11名のコーチが、明るく楽しく、時には厳しく、25名在籍している個性豊かな選手達を指導しております。ラグビーの楽しさ、仲間の大切さを理解してもらえ様に、『まっすぐ前へ、後には必ず仲間がいる！』をチームスローガンにしております。春先は幼稚園の延長でしたが、選手達はコーチの

指導を素直に受け止め、愚直に実践してくれ、ラグビーの技術のみならず人間としても著しい成長を遂げており、彼らが6年生になる25周年が今から楽しみです、今後ともコーチ一同、選手達の成長を支えるべく熱い指導を行って参る所存です。

最後になりますが、田園RSの更なる発展のため、私も微力ながらお手伝いさせて頂くことをお約束し、ご挨拶に代えさせていただきます。

(平成23年度1年生ヘッドコーチ 黒田 慎司)



■担当コーチ一覧

ヘッドコーチ 黒田 慎司 #151 サブヘッド 青田 志郎 #164

金津 文貴 #60 矢崎 秀夫 #88 大津 英樹 #121 松原 隆二 #122

市瀬 博雄 #175 多久島 寛 #187 河原崎 浩秀 #189 細合 秀寛 #192

米山 俊之 #199

■平成23年度スローガン

『まっすぐ前へ、後には必ず仲間がいる！』



小学2年生

ラグビー好きの集団“田園RS”が20歳になる。20歳と言うと一般的には一人前!? の大人扱いになる。色々な事から厳しくなる。その反面、自分からチャレンジできる。こんなにワクワクできる瞬間に、この田園RSにいられる事を本当に嬉しく思う。これから30、40、50その瞬間

に関わっていたいと思っている。田園RS70歳までは。その頃私は88歳。できる!!

“1人はみんな、チーム、田園RSの為に、みんな、チーム、田園RSは、1人の為に”

(平成23年度 2年生ヘッドコーチ 田中 仁啓)



■担当コーチ一覧

ヘッドコーチ 田中 仁啓 #165		サブヘッド 山本 雄造 #174	
永田 雅人 #86	矢崎 ちひろ #157	池田 茂人 #169	井上 秀作 #170
澤井 研志 #173	本庄 剛 #178	林 ゆかり #181	佐藤 大輔 #182
池田 剛 #193	宮本 英俊 #198		

『BOTTOM UP ~自分の為に・チームの為に!! 原点づくり~』

■平成23年度スローガン



小学3年生

(平成23年度 3年生ヘッドコーチ 木暮 知之)

ヘッドコーチ 木暮 知之 #150 サブヘッド 春野 剛 #183

関山 吉宣 #50	北川 康成 #92	柴 繁之 #95	明正 謙 #106
金栄 洋史 #129	佐藤 茂隆 #145	Andrew Perons #149	筑紫 敏矢 #172

■平成23年度スローガン

[illegible]

小学4年生

[温故知新]

20年前に田園ラグビースクールが設立され、受け継がれてきたスクールの理念「元気な子供になってほしい」「ラグビーを好きになってほしい」「ラグビーを通じてよい友達を作ってほしい」「ラグビースピリットを身につけてほしい」「その上で出来たら上手になってほしい」。この想いをコーチ・ご父兄で共有し選手達の心と体の成長をサポートしていける幸せを感じています。

自分の子供達がお世話になっているスクールであり、彼らが学校で、近所で、祖母に、従兄

に、自信をもって話ができるスクールであってほしい。そのために自ら何ができるかを考えると、その年に担当する学年の選手達が、元気に、ラグビーを好きになって、友達と、仲間を信じて、自信を持ってプレーができるチームになれるように指導していくこと。

これからの20年も田園ラグビースクールが設立時の理念を継承し、伝統としていけるよう温故知新を忘れずに、選手達の成長を精一杯サポートしていきたいと思います。

(平成23年度 4年生ヘッドコーチ 内藤 禎俊)

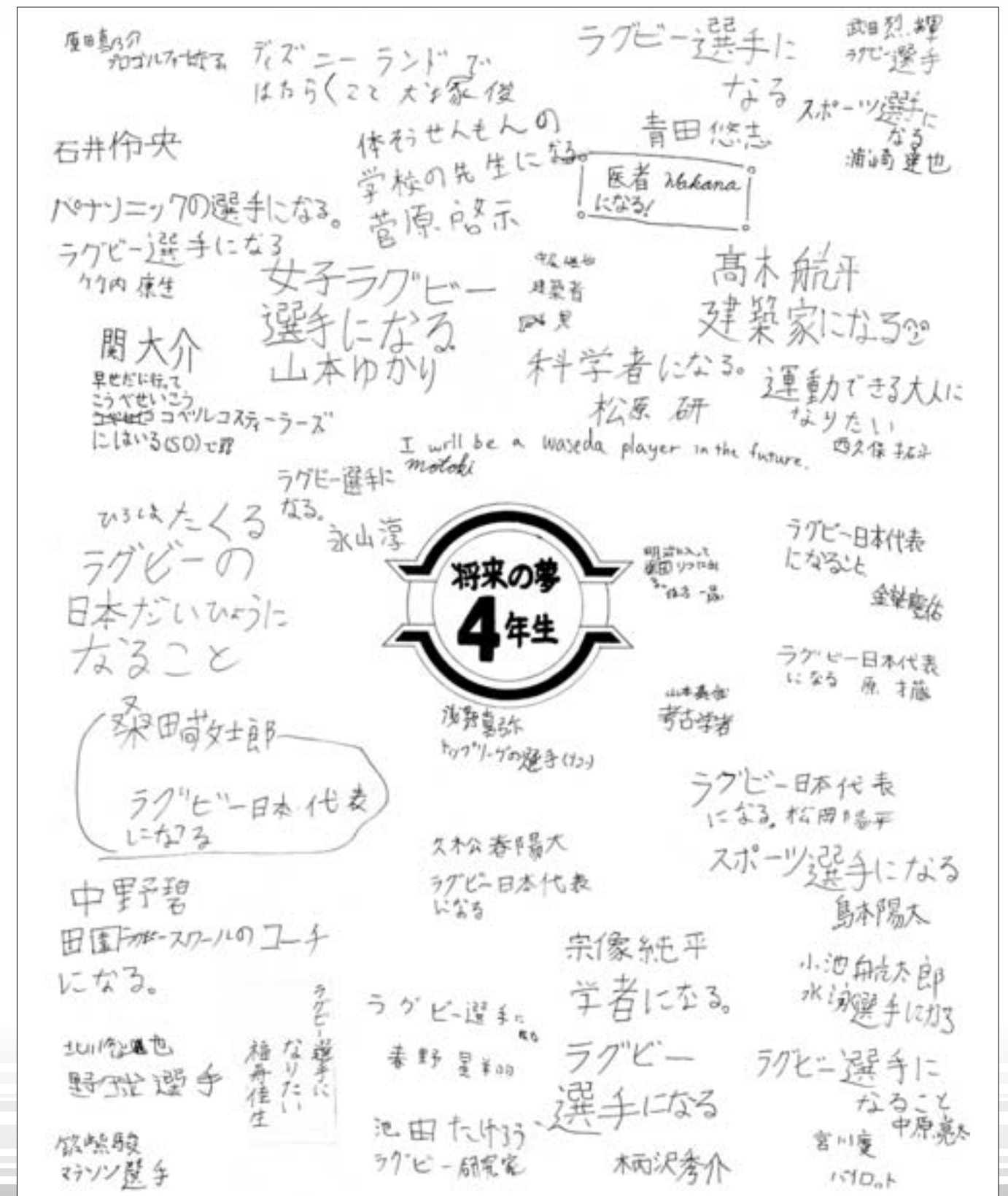


■担当コーチ一覧

ヘッドコーチ 内藤 禎俊 #141		サブヘッド 富樫 慈基 #190	
柏木 尚 #200	大西 智 #36	山谷 充智 #56	本橋 浩 #108
湯川 清市 #111	中西 俊浩 #116	矢崎 賢一 #128	蟹池 則行 #152
加藤 篤史 #162	片山 康 #177		

■平成23年度スローガン

「トライ・ラグビー！ ～ラグビーを楽しもう～」



小学5年生

私が田園ラグビースクールの子供たちに伝えたいこと。

- 1.前へ～北島先生の言葉。前向きに生きる事が大事。
- 2.果敢にタックルに行く勇氣。
- 3.大きな相手でも立ち向かう勇氣。
- 4.失敗を恐れずチャレンジする心。
- 5.声を出し元気にプレーする心。
- 6.仲間と励まし合い、時には言い合う心。
- 7.ノーサイドの精神。
- 8.ラグビーの仲間は全員友達。

僕はラグビーは人生でいろんな波及をもたらすスポーツであると考えてる。従って、私自身が廻り合った中で得たものは尊い。その精神、高校、大学の仲間等々とかけがえのないもの。今はかけがえのない田園ラグビースクールの仲間たち。だから、スクールの子供たちには是非ともラグビーというスポーツを継続して欲しい。生き方の教訓となる魔物が存在している。

(平成23年度 5年生ヘッドコーチ 住吉 弘一)



■担当コーチ一覧

ヘッドコーチ 住吉 弘一 #120		サブヘッド 三石 瑞穂 #159	
宮澤 肇 #78	上條 真史 #79	上岡 雄己 #107	糸川 直樹 #119
犬塚 直人 #143	青木 大輔 #166	山口 雅斎 #167	中尾 庸一 #168
染谷 貴志 #171	竹内 綱太郎 #176	野田 嘉明 #191	関 靖 #194

■平成23年度スローガン 「自立。自ら練習に取り組み、自ら判断してプレーしよう。」



小学6年生

「僕が主役！みんなが主役！一人ひとりが、自分を信じ、仲間を信じ、持てる力、熱い気持ちを出し切ろう！」

①挑戦 ～勇気を出して、低くタックル～

・いつでも自分の100%の力で、色々な事に挑戦しよう！

・失敗を恐れずに、勇気を出して、挑戦しよう！

②コミュニケーション ～一人の一步、みんなの前進～

・声を掛け合い、仲間に勇気を与えられるプレーヤーになろう！

・仲間と励ましあい、サポートし、サポートされ、一歩ずつみんなで成長しよう！

③集中力 ～ノーサイドの瞬間まで気持ちはひとつ～

・一つのボールに全員が集中し、勝利に執着するチームになろう！

・ラグビーも勉強もノーサイドの笛がなるまで諦めず挑戦！

6年生が田園のスローガンに応募した数々の言葉。そのまま今年の目標にしました。田園で過ごした時間がしっかりと子供達に刻まれています。仲間との絆、豊かな個性を大切に子供達と共に成長していきます。

(平成23年度 6年生ヘッドコーチ 百田 稔)



■担当コーチ一覧

ヘッドコーチ 百田 稔 #136

サブヘッド 浅野 毅 #137

机元 浩 #58

濱野 俊文 #70

小谷 諭 #72

網本 剛 #109

雨宮 茂仁 #130

堀口 源一郎 #154

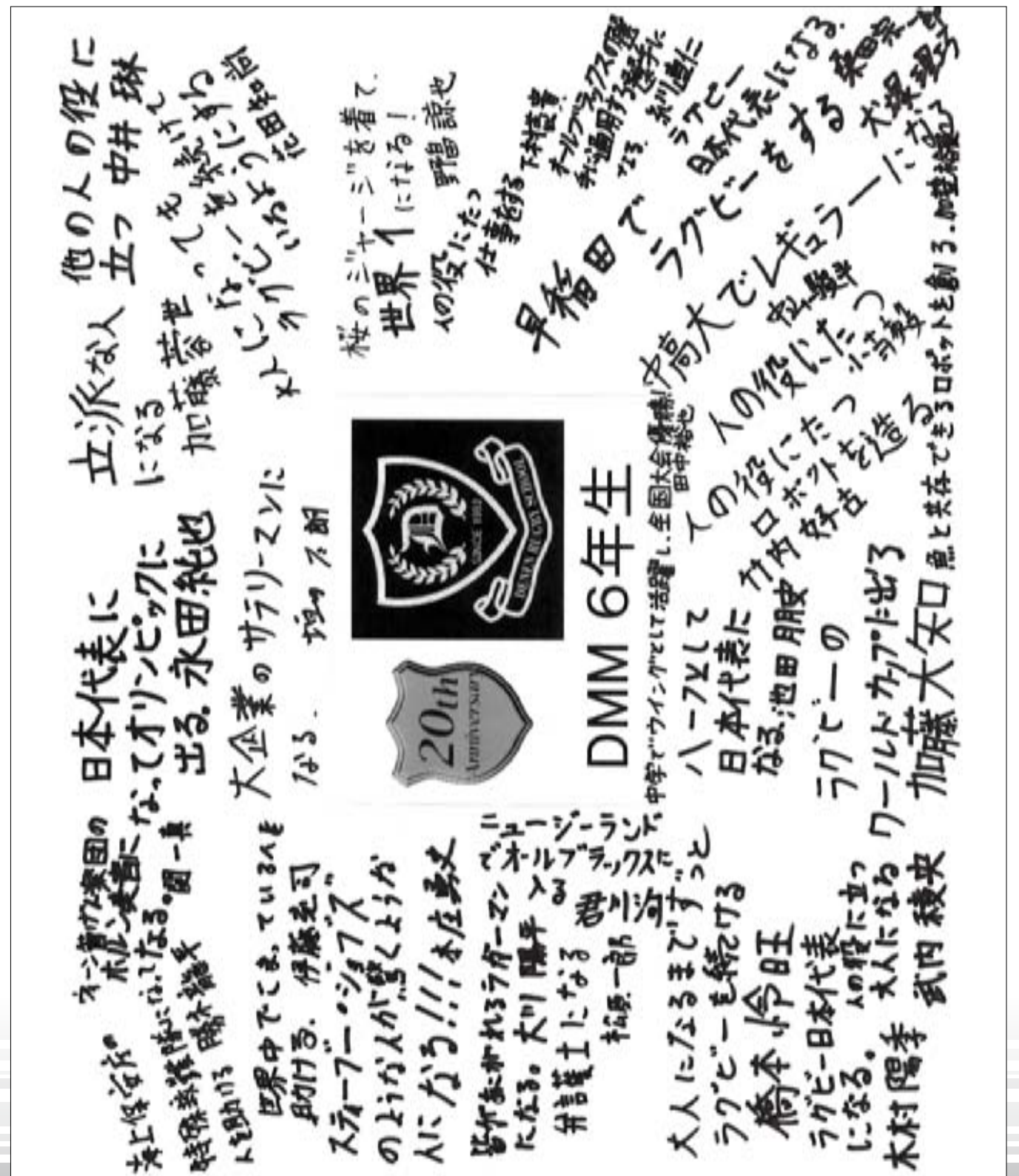
酒井 修 #155

村井 西伊 #163

槇 浩二 #186

■平成23年度スローガン

「僕が主役！みんなが主役！一人ひとりが、自分を信じ、仲間を信じ、持てる力、熱い気持ちを出し切ろう！」



感謝



平成23年度 田園中学部主将

須藤 空良

僕は、田園ラグビースクールでプレーを始め、今年で11年目です。長いようであっという間に過ぎた11年でした。僕は、その長い日々の中でコーチの方々に褒められたり、叱られたり、励まされたりして、これから社会に出て生活していく僕たちにとって、とても大切なことを多く学びました。

幼稚園、小学生、中学生とラグビーをしていく中で、どの時でも共通してコーチが言っていたことは『あいさつをしろ』でした。あいさつとは、礼儀の基本、人とのコミュニケーションの基本ということを学びました。このため、僕は、ラグビーの時以外でも、あいさつをしっかりとやる事を心がけて生活するようになりました。

また、感謝の気持ちを大切にすることをたくさんの方から学びました。

自分が楽しく暮らせることに

自分が安心して暮らせることに

好きなことに挑戦できることに

わがままを言えることに

たくさん考え悩めることに

素敵な夢を描けることに

夢中になれることに

本当にやりたいことを

考えることができる時間に

一緒に考える仲間がいることに

たくさんの人に支えてもらっていることに

そして、田園ラグビースクールとの出会いに感謝しています。

僕は、高校生になってもラグビーを続けてい

きます。なぜなら、僕はラグビーが大好きで、まだ自分の出来ないプレーをできるようにしていきたいからです。だから、これからも努力を積み重ね、どんなことにも全力投球していきます。また更に、自分の中での理想のラグビープレーヤーになるようにもしていきたいです。僕の中での理想のラグビープレーヤーとは、どんな時でも常に仲間を信じてプレーしていける選手です。この事の重要性に気づいたのは、中学3年生になってからです。それまでは、自分でボールを持っていくことしか考えていなかった僕は、コーチの『パスしろ』という言葉で、自分の中での考えが変わり、またプレーの幅も広がったと思います。これから先、僕はたくさんの仲間たちと共に試合をしていくと思います。その中で僕は、仲間を信じてプレーをし、パスをし、トライをし、大きな勝利へとつなげていきたいです。

今年の田園ラグビースクールでは、嬉しかったことも、悔しかったこともたくさんありました。ですが僕は、この田園ラグビースクールでプレーできたこと、この仲間たちと練習し、一戦一戦の試合に全力で望めたことを心から誇りに思います。

僕の人生はまだまだ長いです。その中で、田園ラグビースクールで学んだことは、これから僕にとって大きな財産になると思います。

今まで僕たちに関わり支えてくださった方々に、心から感謝します。

田園RS・ジュニアの活性化に向けて



中学部監督

松藤 義昭

田園RS20周年おめでとうございます。

ジュニア監督を務めています通称‘松太郎’です。5年間合同チームの神奈川DAGSでジュニアの指導に携わり、2年前に連合チームから独立と同時に田園RSに戻ってきました。恵まれたグラウンド環境(日大稲城G、日体大健志台G)から一転し、グラウンドを探しつつ、ジプシー状態の中で練習しています。ハード面での環境作りをし、練習時間を明確に設定してあげることが生徒に対する重要な案件ですが、もうしばらく時間かかりそうです。

さて、「指導者は勉強しなくなったら指導する資格はない!」と色々な研修の場で耳にします。私もこの言葉を肝に銘じここ5～6年はJRFUの強化コーチの資格を取り、さらに高校の指導者の紹介でオーストラリアのコーチングを勉強する機会を得、毎年ブラッシュアップ研修を受けています。試合で起きるシチュエーションにフィットネスを取り入れ、ルールを活かしたスキルメニューはすごく勉強になります。また、スキルを紹介する時は自ら見本を見せる事の大切さやリズム、コミュニケーションの取り方の重要性等毎回感心させられます。私も習得したスキルをチームにアレンジして少しずつ落とし込みとメニューの共有化を行っています。余談になりますが、私が指導者になりたての頃と言えば、パスは平手パスで「まっすぐ放せ!」と厳しく先輩に教えられました。ところが2003年初めてNZコーチの指導受けた時に「HOW toじゃなくてWhenだよ!」と教えられ、生きたボールが繋がればOK。ジャンプやバックハンドや股下パスなどスキルを披露し

てくれました。「ハンドリングスキルは40～50位は考えて指導すべきであり、選手個々の個性を活かして指導すべき」と言われた事が脳裏に焼き付いています。

私は今年の夏合宿でミニの学年主任コーチの皆さんに全国クラブ選手権で優勝できるチーム作りを提唱しました。これは簡単な事ではありません。しっかりとしたベーシックなスキルをミニの高学年から根付けし、スキルアップして行く事が不可欠です。その為にはコーチの皆様とスキルを勉強し、学年にあった指導方法を確立し、共有化して行く事だと思っています。赤間校長が提唱されています基本理念に規律を取り入れて行く事も大切な要素です。ジュニアは特に挨拶、言葉使い、感謝の気持ち・心を厳しく指導しています。強い魅力のあるチームは絶対的にこの部分ができています。

先日も全国高校選手権に出場する桐蔭学園の濱野主将が報告に来てくれました。育ててもらった感謝の気持ちを持ち続けてくれている事に非常に嬉しく思いました。田園RSから巣立った生徒が毎年、大学で活躍してくれるようになってきました。彼らも年に数回はスクールに顔を出して一緒に練習してくれます。彼らこそ生きた素材です。新しいスキルにちょっとしたポイントを教えてください。この卒業生を活用し、ジュニアの活性化に向けて、コーチの皆様と真剣に取り組んで行きたいと願っています。残された人生を進化しつづける松太郎と一緒に生徒に熱い血を注いで行きましょう!

がんばろうDMM! 大きく育てようDJ!

中学生



■担当コーチ一覧

統括 竹谷 誠 #76	監督 松藤 義昭 #102	アドバイザー 佐藤 篤史 #23
藤井 直生 #112	山本 竜生 #180	大梶 浩史 #74
高橋 仁 #201	井手 靖 #105	島田 圭 #148
金津 文貴 #60	上田 雄志 #82	川本 信治 #73

橋本和将 泉猛虎 山同走 榎海都
 山谷直樹 石井洋介 村田悠 中尾勇斗
 内野洋志 新原潤也 浦山竣平 菅原大幹
 大津 耀太郎 上田雄貴 江田将隆 松太朗
 山本 実 須藤空良 祝原涼介
 松山 隆太 菱川亮佑
 古澤空大 原 万蔵
 田野口翔一 中島大輝
 上森大輔
 中西浩大 大西訓平 竹谷将太郎
 秋山龍一郎 加茂直之 柴大河 木村達郎
 島本雄太 福知侑希 佐々木孝頼 山口凌
 中原健太 狩野瑛大 花城勇太 山本龍亮
 後藤満里乃 若生一真 濱野剛己 佐渡 亘
 宇安真成 浅沼 陸 松岡宗一郎 松山幸平

20周年 資料編

田園ラグビースクール開校を伝える地元新聞。
「10年後、15年後、国立競技場を沸かせる選手が育つ
であろうラグビースクールの誕生」と紹介している。

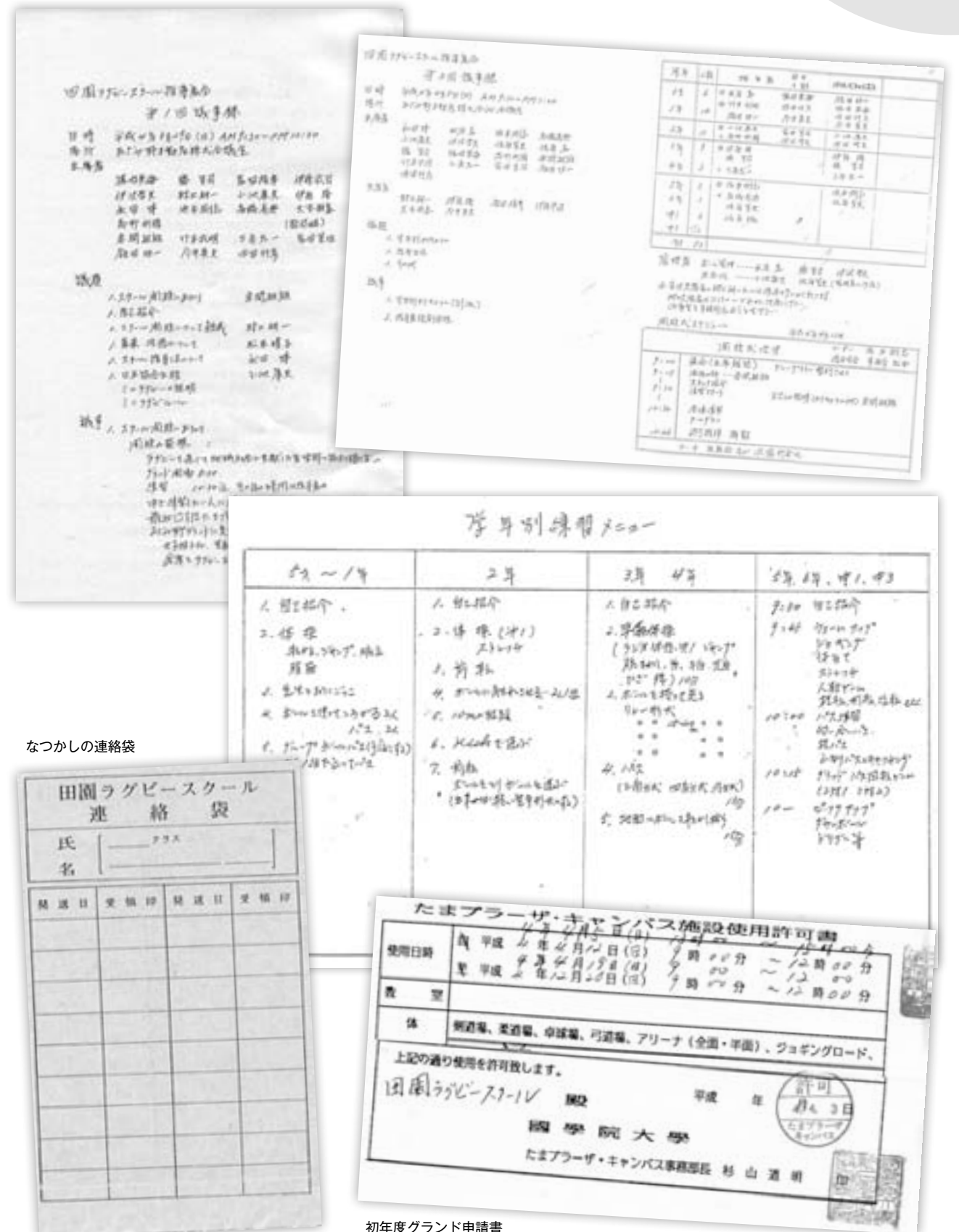


ラグビーマガジン2007年5月号「Spotlight on the team」

ラグビーマガジン1992年9月号「第1回 チーム訪問」

20周年 資料編

開校1週間前(1992年4月5日)に行われたコーチ会議の記録。
学年別の練習メニューからコーチの担当までが記録されている。
1年生の担当は当時リコー監督の水谷眞氏。
水谷さんはボール管理係もやっていたようだ。



なつかしの連絡袋

初年度グランド申請書

20周年 資料編

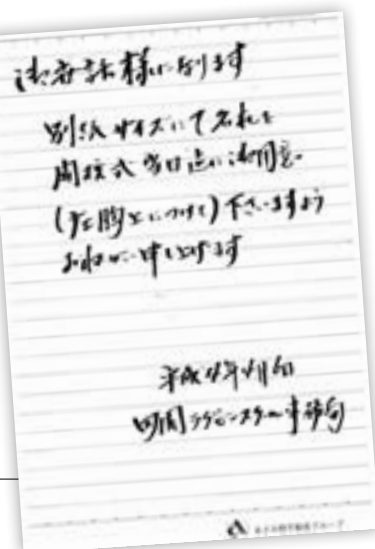
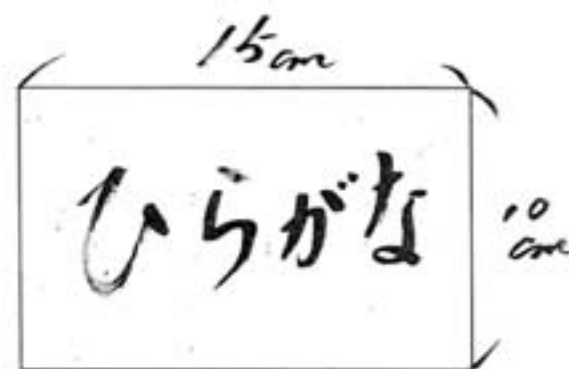
開校3年を迎えた「田園だより」。
『10年後に「ラグビー」と「酒」と「…」が好きな
明るい若者になってもらいたい』佐藤篤史コーチのコメントが載っ
ています。卒業生のあなた！ どうですか？



開校当時の健康カード



開校当時の出席カード



ジャージの胸につける名札の「お
願い」もこんなにシンプルでした。
毛筆などところがお洒落ですね。「ひ
らがな」と言うのもわかりやすく
てびつくりです。

20周年 資料編

秩父宮ラグビー場デビュー



平成13年度の全日中法専対抗戦のボールボー
イを務めた後に、秩父宮ラグビー場で記念撮影。
良く見て下さい、日本代表である村田互、伊藤
護、小野澤選手も一緒に写っています！

「でんえんだより」リニューアル



平成14年6月にリニューアルし平成18年6月
迄18回発行。近況や県大会結果を報告。特集とし
て、「私がコーチになった理由」等を掲載し、人気
コーナーになっておりました。

夜のコーチ会議の変遷

ここ数年、スクールのコーチ
会議は4月・7月・9月・12月・
3月と1年間で5回、土曜
日の午後にクラブハウス「パ
ティオ」で開催されています。
会議の後はコーチ間の親睦を
深める為に別名『夜のコーチ
会議』が開催されます。イベン
ト担当コーチが、大人数が収
容出来る近隣の会場を事前
に探し、交渉し、そして当日の
取仕切りを一手に行います。
コーチ担当業務の中でも“重
要な役割”の一つです。



※現在は別の店舗になっていますが、この
ビルの1階に「魚民 たまプラーザ南口駅
前店」がありました



たまプラーザ
「くいもの屋 わん」

あさみ野
「ダイニングバー You 遊」

●『夜のコーチ会議』の歴史

- ① 溝の口「たまい」(平成12年3月迄)
- ② たまプラーザ南口「魚民」(平成12年～17年頃)
- ③ あさみ野「You」(平成17年～18年頃)
- ④ たまプラーザ「わん」(平成19年～20年頃)

現在は、少人数の会の場合は、たまプラーザ「弥太郎」。全体宴会の場合は「国学院ヒルトップ」「メロン
ディアあさみ野」等の施設宴会場を貸し切って開催しています。

20周年 資料編

年間行事

4月 開校式



5月 こどもの国遠足



6月 神奈川県春季交流試合



7月 リコーラグビーフェスティバル



夏合宿



9月 神奈川県秋季交流試合



10月～11月 神奈川県 県大会



12月 神奈川県冬季交流運動会&永年動続表彰式



トン汁大会



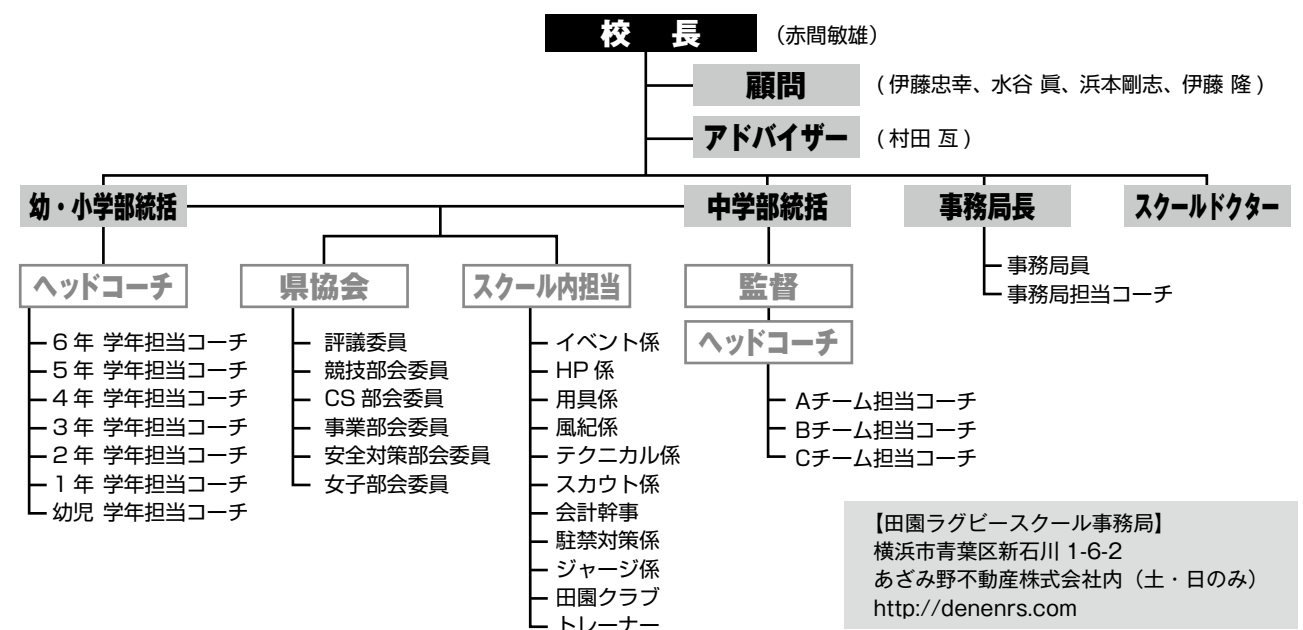
3月 修了式



スクール生募集のポスター



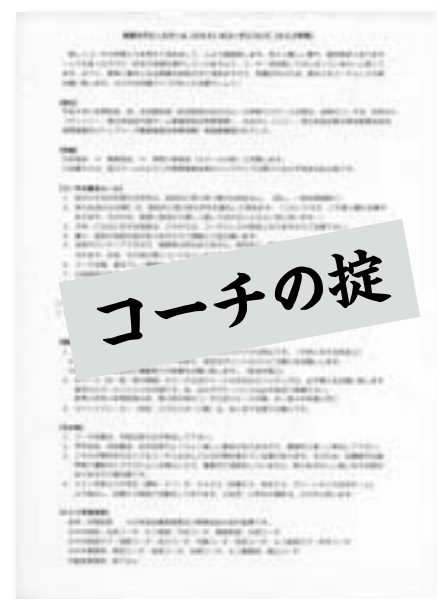
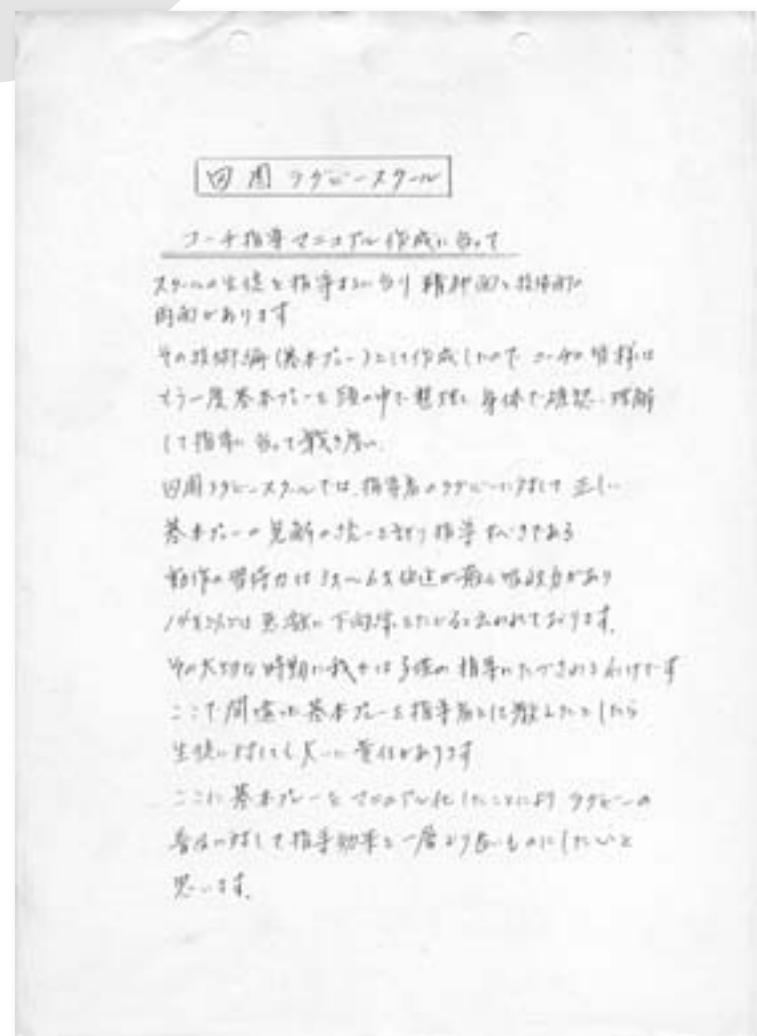
田園ラグビースクールの運営体制



20周年 資料編

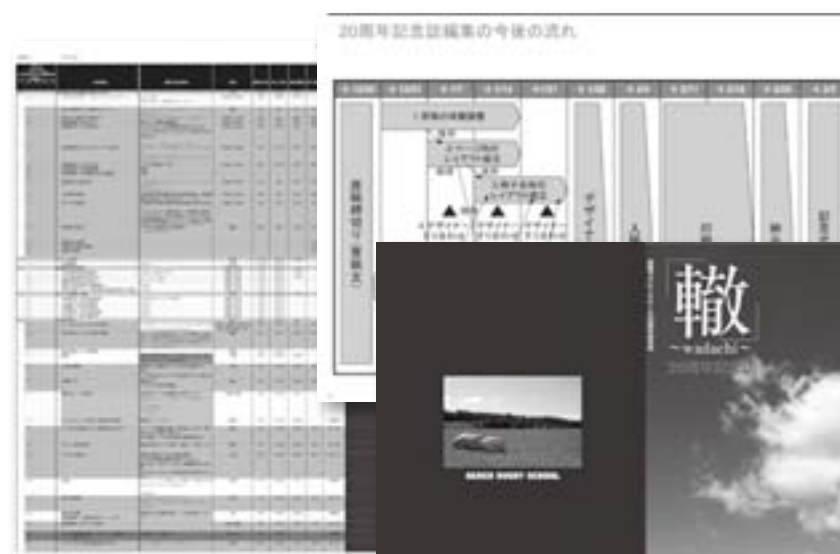
20周年 資料編

指導マニュアル



コーチの掟

20周年記念プロジェクト準備作業スケジュール



6月のプロジェクトキックオフから記念誌の完成・納品までの8ヵ月にわたる作業は全部で380項目を洗い出しました。全てに対して責任者、期限およびフォロー担当者を設定し、進捗を厳しく管理することによって、予定通りに完成させることができました。

幻の表紙はWeb版にて復活予定

年間キャッチフレーズ

全員参加の一体感を出すために、平成18年から、子ども、コーチ、父兄全員からキャッチフレーズを募集して決めています。



平成18年
一步前に踏み出そう！



平成21年
自分を超えて！心をこめて！



平成19年
トライを目指して、心をひとつに!!



平成22年
あきらめず、みんなでつなごう心とボール！



平成20年
前への気持ち、自分にチャレンジ！



平成23年
感謝の気持ちを、トライにつなごう！

卒業タックル

田園の伝統儀式として平成12年より開始した、卒業タックルがあります。対象は、小学6年生・中学3年生ですが、生徒一人ずつがお世話になったコーチを指名して、卒業お礼のタックルを行い、成長した姿を見てもらいます。自分の子供のいる学年を受け持つ事の出来ないコーチにとっては、最初で最後の受け持ちが『卒業タックル』の台。涙が込み上がる、最高の瞬間です！



編集後記 つながる轍

本記念誌編纂に対し、協会関係をはじめ、ご執筆の皆様にはご多忙中にもかかわらず、貴重なご寄稿をいただき、誠にありがとうございました。スクールとしてこのようにまとまった形で、活動の軌跡を形にするのは初めてのことであり、編集スタッフの作業も手探り、綱渡りの状態で、皆様のご協力により、なんとかここまでたどり着くことが出来ました。情報収集を進めるにつれ、クラブハウスに保存されている過去の貴重な資料、データ、写真などの大事な事実をこの記念誌にはしっかりと記録しておかなければいけないと感じました。田園ラグビースクールには、一貫して大切にしているものがあり、多くの人々がそこから学び、それらが脈々と継承されているということを本誌から感じていただければ幸いです。

編集長 矢崎 賢一

編集スタッフは、戦略コンサルタント、雑誌編集長、イベント企画・制作、放送番組ディレクター、ITスペシャリストなど、様々なプロフェッショナルで編成され、斬新なアイデアが次々に出てきて、週末の編集会議では、刺激的で楽しい時間を過ごすことができました。また急に人手が必要になったときには、スタッフでない多くのコーチにも快く馳せ参じていただきました。田園の仲間全員がスクールを大切に思っていることを、感動と共に再認識しました。

現役選手、ラグビーを続けている卒業生、ラグビー以外でがんばっている卒業生、コーチ、父兄、そして関係する全ての皆様の「轍」はくっきりと残っています。これからもそこに新しい田園の「轍」が永遠につながって行きます。

『記録と記憶』 —編集作業を振り返り—

平成23年6月から約8カ月間に渡り編集作業をしてきた「20周年記念誌」も遂に完成！「20周年記念誌」…その名の通りメインは設立からの20年の歴史を紐解くこと。一言に20年と言っても、編集委員の多くが“背番号100番台”の歴史の浅いコーチ達。20年をさかのぼるには“記憶”と“記録”が不可欠でした。

9月に「20年のあゆみチーム」が編成され、パティオに眠っていた段ボール約10箱分の莫大な記録資料を隅から隅まで読み漁り、その中から次世代に語り継ぐべき記録と昔の写真を選定しまとめた「20年のあゆみ」。ちなみに開封作業時の各自持ち物は「マスク」と「軍手」。莫大な歴史を紐解くには「埃」との闘いでもありました(笑)。ページを作り込んでいくと、パティオの資料では判明出来ない事が多々出てきます。その都度、編集委員は思い出す事に必至になります、作業の手も止ま



ります。当然の事ながら僕達の記憶は10年前、5年前の事。入校以前の事は思い出したくても頭の中にデータがありません。

そんな時に優しく、僕達の知らない田園ワールドを教えてくれるのは歴代統括コーチ・背番号二桁コーチの先輩方でした。特に大西事務局長の「歴史の抽斗」は凄く、OBコーチ・OB選手の在籍年度からグラウンドの歴史、更には歴代の夜の飲み会の場所まで。その都度、関西弁で優しく教えてくれました。

記念誌を作成するには書類(記録)だけでは成り立ちません。そこに田園ラグビースクールに心底惚れ込んだ方々の「心の轍」が織り交ざる事で、この記念誌が仕上がったと思います。貴重なコメントを寄稿して頂いた皆様、多くの歴史を残して頂いたご父兄とコーチの皆様に感謝するとともに、そして何より、恵まれた専用グラウンドもなく、土のグラウンドで暑い日も寒い日も元気に楕円球を追いかけてきた選手



達、君達がいなかったら20年の歴史を作る事は出来ませんでした。開校時から現在の選手の全員に心から感謝しています。

これから50年、更には100年と「田園ラグビースクールの轍」が、途切れる事なく続いていくことを祈念して、本誌を閉じさせていただきます。

副編集長 岩佐 直人／雨宮 茂仁



20周年記念事業プロジェクト

【プロジェクトオーナー】

赤間 敏雄

【プロジェクトマネジメント】

大西 智 竹谷 誠

永田 雅人 宮下 かおり

記念誌制作

【編集長】

矢崎 賢一

【副編集長】

岩佐 直人

雨宮 茂仁

【スーパーバイザー】

大西 智

【渉外】

佐藤 篤史

大西 智

永田 雅人

【20年のあゆみ編集】

柏木 尚

上條 真史

机元 浩

浦山 孝男

林 ゆかり

中西 俊浩

内藤 禎俊

【寄稿用WEBサイト】

矢崎 秀夫

【写真提供】

金津 文貴

矢崎 秀夫

守安 博章

清水 健

ベースボール・マガジン社

【広告】

緒方 義弘

澤井 研志

記念式典パーティー

3月3日(土曜日)

【式典会場】

新横浜プリンスホテル

【企画・構成】

緒方 義弘

澤井 研志

竹谷 誠

記念試合

3月4日(日曜日)

【試合グラウンド提供】

國學院大學たまプラーザキャンパス

【試合編成】

金栄 洋史

浅野 毅

百田 稔

永田 雅人

港北ニュータウン センター南

木下整形外科

☎ (045)941-2555

院長 木下淳

(社)日本整形外科学会認定 整形外科専門医

(社)日本形成外科学会認定 形成外科専門医

一般社団法人 日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医

●診療時間

平日 AM9:00～12:30 PM3:00～6:30
土曜 AM9:00～12:30

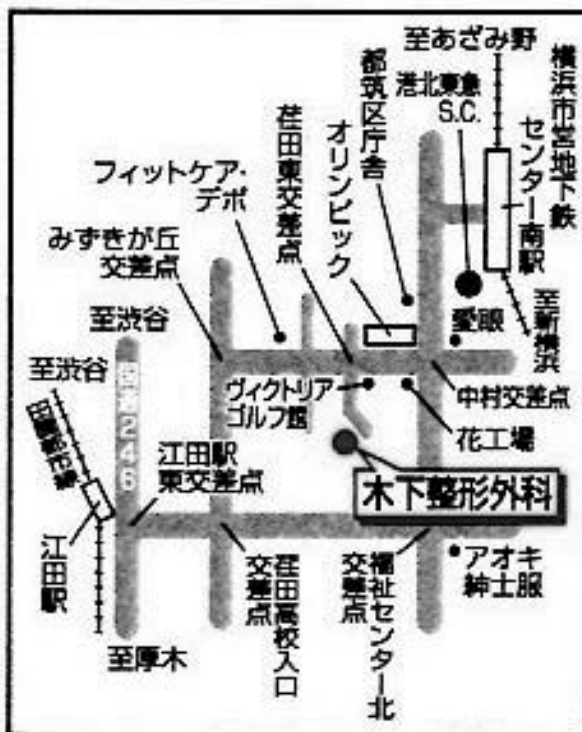
休診日 日曜・祝日★木曜・土曜の午後

横浜市都筑区荏田東 1-3-23

■センター南駅より徒歩 7分 **P13台**

■都筑区庁舎近くオリンピック向かい入る

田園ラグビースクール
スクールドクター



田崎医院

院長 田崎 博也

田園ラグビースクール スクールドクター

診療科目 消化器科 外科 内科

休診日 木曜日 日曜日 祝日 土曜日午後

横浜市都筑区新栄町14-1中銀マンション1F

(ブルーライン仲町台駅 新栄高校近く)

電話 045-592-8970

祝！田園ラグビースクール20周年

医療法人
信和会

中島歯科医院

日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医 中島信也

歯科口腔外科 小児歯科

(田園ラグビースクール スクールドクター)

ハニョイ
電話 044-751-8241

中島歯科 宮前 検索 <http://home.catv.ne.jp/ss/nakajima/>

診療時間 9:00～13:00/14:30～19:00(土曜日は17:00迄)

休診日 木・日・祝日

川崎市宮前区野川3021

<東急バス 野川台公園下車すぐ>



祝！田園ラグビースクール20周年



そめや内科クリニック

院長 染谷貴志

田園ラグビースクール スクールドクター

田園都市線 梶ヶ谷駅 徒歩3分 電話 044-712-3366

www.someya-clinic.jp



そめや内科クリニック

<http://www.facebook.com/someyanaiakaclinic>

祝！ 田園ラグビースクール創立20周年



今年の夏も菅平高原でお待ちしております！

まるみ山荘

長野県上田市菅平高原菅平1223-3445

電話 0268-74-2065

祝
創立
20
周年



"Rugby creates friendships for life"

ラグビーは真の友情を生む



SUZUKI
RUGBY

株式会社

スズキスポーツ

代々木店：〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-6 代々木駅前ビル2F TEL.03-3370-8103 FAX.03-3320-3745

www.suzukirugby.com

まごころこめたおつきあい

若松屋商事株式会社 Since 1872

■本社 TEL.045-911-2111代 FAX.045-911-5577

■本店酒販事業部 TEL.045-911-0010 FAX.045-911-0014

■ガス事業部 ■ピュアウォーター事業部 ■不動産事業部



祝！ 田園ラグビースクール20周年

中原整形外科

院長 原山 國秀

田園ラグビースクール スクールドクター

関東ラグビーフットボール協会 医務委員

川崎市中原区新城1丁目8-9

(JR南武線武蔵新城駅南口・徒歩3分)

電話 044-755-7228

田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます!!



株式会社 アジアジャパン

代表取締役 田中 仁 啓

横浜市中区山下町160-2 駐労会館2
TEL 045-342-9627 FAX 045-342-9628

堅いものから柔らかいものまで…!!

田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます!!

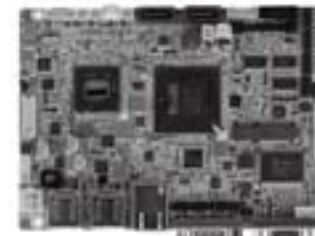
V-NET
V-net Corporation Limited.

産業用コンピュータシステムの
ソリューション・プロバイダー

企業の成長を支える良きパートナーとして常に最新の情報を発信。

最適なコンピュータハードウェアソリューションを提案し、お客様のシステム構築に貢献いたします。

IPC機器の輸入・販売



IPCシステム開発



信頼性試験&スクリーニング



株式会社V-net

〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
かながわサイエンスパーク 西棟 713A
Tel : 044-455-6872 Fax : 044-455-6873
<http://www.jp-vnet.com>

「お問い合わせ」
Mail : sales@jp-vnet.com
担当 : 矢崎 秀夫

田園ラグビースクール創立20周年おめでとうございます
これからの躍進も期待しております



荏原テクノサーブ㈱認定協力会社

有限会社 キャリー・オン

代表取締役 本庄 剛

◆設備管理業務

- 加圧・増圧給水ポンプユニット設備点検保守・更新
- 給・排水・工業用ポンプ設備点検保守・更新
- 空調送風機・エア版・冷却塔設備点検保守・更新
- 消防設備点検

本 社 〒224-0023 横浜市都筑区東山田1-37-34
TEL 045-590-6543 FAX 045-590-6544

東京営業所 〒144-0054 東京都大田区新蒲田2-8-6 ラロシェル1F
TEL 03-6913-8020 FAX 03-6913-8030

平成24年3月 東京営業所は大田区大森東へ移転予定

がんばれ! 田園ラグビースクール!

渋谷あわじや 

我々は、明石海峡、鳴門海峡の漁師、
淡路の農家、酒蔵との「絆」を大切に、
彼等の熱い思いに、職人の「気合」を込めて
お客様に提供できるよう、
日々精進いたします。

親方 大津英樹 従業員一同

御予約は 03-6415-4527

渋谷区道玄坂1-11-3フォースワンビルB1F
JR渋谷駅から徒歩3分



facebook始めました。
[facebook.com/shibuyaawajiya](https://www.facebook.com/shibuyaawajiya)

祝！田園ラグビースクール20周年

当社も港北ニュータウンとともに40年



駐車場の賃貸から
土地・一戸建の売買まで
お気軽にご相談ください

<http://www.c-21himawari.com>



センチュリー21 ひまわり不動産

代表取締役 原 大 蔵

横浜市都筑区茅ヶ崎中央43-10 Tel045-941-8739 Fax045-941-8740

神奈川県 ラグビースクール仲間たち

麻生ラグビースクール

厚木ラグビースクール

海老名ラグビースクール

神奈川 DAGS

鎌倉ラグビースクール

川崎市ラグビースクール

グリーンラグビースクール

相模原ラグビースクール

さがみ・津久井ラグビースクール

茅ヶ崎ラグビースクール

秦野ラグビースクール

藤沢ラグビースクール

大和 CC ラグビースクール

横須賀市ラグビースクール

横浜ラグビースクール

横浜 YC ラグビースクール

医療法人社団
祥 起 会

よねやま歯科医院

祝! 20周年

「しゃべる」「食べる」「笑う」を
いつまでも皆様に!

当医院より半径16km以内への
訪問診療を行っています

私たちは介護と予防から
歯科医療を考え
皆様の健やかな人生の
お手伝いをさせていただきます



院長 米山俊之

東京都大田区東蒲田2-29-14松澤ビル2F

京急蒲田駅徒歩3分

TEL 03-3730-8148

(みなさんのはいしゃ)

がんばれ! 田園ラグビースクール



田園クラブ一同



DENEN RUGBY SCHOOL